

たつの市・揖保郡太子町

福田小川原遺跡・樋ノ上遺跡

- (国) 179号(太子道路) 道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -



令和5(2023)年3月

兵庫県教育委員会

たつの市・揖保郡太子町

福田小川原遺跡・樋ノ上遺跡

— (国) 179 号 (太子道路) 道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —



令和 5 (2023) 年 3 月

兵庫県教育委員会



遠景（南東から）



遠景（北から）



福田小川原遺跡 SX53 出土遺物



福田小川原遺跡 SX79 出土遺物

例 言

- 1 本書は、たつの市善田町福田に所在する福田小川原遺跡及び揖保郡太子町馬場字樋ノ上に所在する樋ノ上遺跡の地区の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、(国) 179号（太子道路）道路改良事業に伴う、西播磨県民局長（龍野土木事務所）の依頼に基づき、兵庫県教育委員会を調査主体として、兵庫県立考古博物館、公益財団法人、兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部を調査機関として実施した。また、出土品整理は、西播磨県民局長（龍野土木事務所）の依頼に基づき、兵庫県教育委員会を主体として、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部を整理実施機関として実施した。
- 3 調査の推移
福田小川原遺跡及び樋ノ上遺跡の調査は、当該開発事業に伴う分布調査から本発掘調査の終了まで、平成21年度から令和元年度に亘っており、その詳細は第2章にあげた。概要是以下のとおりである。
(発掘調査)
分布調査 平成21年4月23日
実施機関：兵庫県立考古博物館
確認調査 平成24年6月13・15日、7月27日
平成27年8月4・5日
平成30年2月7・8日
実施機関：兵庫県立考古博物館
本発掘調査 令和元年11月11日～令和2年2月28日
実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
工事請負：岩本土木重機株式会社
空中写真測量委託：株式会社オーシスマップ
(出土品整理作業)
出土品整理期間：令和3～4年度（2カ年）
刊行年度契約期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日
実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
遺物写真撮影委託：国際文化財株式会社
- 4 本書の編集・執筆は、整理技術員の補助のもと、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部 深江英憲、垣内拓郎（現 兵庫県立考古博物館加西分館 古代鏡展示館）、松崎光伸（現 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団）が担当した。なお、補助にあたった整理技術員個々の氏名は、第2章第2節に明記している。
- 5 本調査において出土した遺物、作成した写真・図面類については、兵庫県教育委員会（兵庫県立考古博物館）で保管している。

- 6 本書に使用した方位は国土地標（第V系）の座標を示す。また、標高値は東京湾平均海面（TP）を基準とした。
(世界測地系に換算)

凡 例

- 1 本書で掲載する福田小川原遺跡（たつの市）及び樋ノ上遺跡（掛川郡太子町）の発掘調査は、両遺跡の調査区名を北西から南東へ向け、以下のとおり付与して実施した。本書では、発掘調査時と同一の調査区名をそのまま表記した。
A-1 区、B-1 区、B-2 区、A-2 北区（福田小川原遺跡）／ A-2 南区（樋ノ上遺跡）
- 2 遺構の名称は、発掘調査時に、検出した全ての遺構に対して通し番号を付し、それぞれの遺構の種類を示す記号として、番号の頭に以下のような表記をした。また、複数の柱穴で構成される掘立柱建物については、これとは別に新たに番号を付与した。本書では、発掘調査時に付与した名称のまま表記した。このため、同種の遺構でも、必ずしも通し番号にならない。
SH：堅穴建物、SB：掘立柱建物、SP：柱穴、SK：土坑、SX：不明土坑、SD：構
- 3 遺物には通し番号を付している。ただし、石器、金属器には、その頭にそれぞれ「S」、「M」をつけて土器類と区別している。また、人骨については、頭に漢字表記で「骨」を付している。
- 4 土器類の断面は、種類ごとの断面の表現を以下のように区別している。
弥生土器・土師器：白抜き／須恵器：黒塗り／瓦質土器・瓦質製品：濃い網掛け／磁器：薄い網掛け
- 5 石器、金属器の断面の表現は、以下のとおり表現している。
石器：白抜き／金属器：斜線
- 6 土層等の色調については、小山正忠・竹原秀雄編著『新版 標準土色帖』を使用した。
- 7 本報告における遺物の内容については、第3章第2節、及び第4章第2節のとおり、本文中の個別の記述を割愛し、
(第2表 出土遺物観察表（土器1）・（土器2）・（石器）・（金属器）)にまとめている。特に、土器の記述の内、内面と外面の調整については、土器全体を通した各部の仔細な記述を要するところであるが、観察表内の記述に止めるため、それぞれ（口縁部から底部へというように）上から下に向かって記述している。

本文目次

第1章 遺跡の位置と環境 ······	(松崎光伸・深江英憲) 1
第1節 地理的環境	
第2節 歴史的環境	
第2章 調査の経緯・経過と体制 ······	(垣内拓郎・深江) 9
第1節 発掘調査	
1. 調査の経緯	
2. 調査の経過	
3. 発掘調査の体制	
第2節 出土品整理	
1. 出土品整理作業	
2. 整理作業の体制	
第3章 福田小川原遺跡の調査成果 ······	(深江) 15
第1節 遺構	
1. A-1区・B-1区の遺構	
2. B-2区の遺構	
3. A-2区北の遺構	
第2節 遺物	
第4章 桶ノ上遺跡の調査成果 ······	(深江) 20
第1節 遺構	
1. A-2区南の遺構	
第2節 遺物	
第5章 自然科学分析 ······	(パレオ・ラボ) 27
第1節 福田小川原遺跡出土炭化材等の放射性炭素年代測定について	
第2節 福田小川原遺跡出土人骨について	
第6章 まとめ ······	(深江) 33

挿図目次

第1図 遺跡位置と揖保川下流の地形 ······	2
第2図 鮎莊を中心とする条坊プラン復元図及び法隆寺播磨国鮎莊水路図 ······	3
第3図 周辺の遺跡 ······	5
第4図 条坊プラン復元図 ······	7
第5図 試掘・確認調査範囲位置図 ······	9
第6図 試掘・確認調査区位置図 ······	11
第7図 たつの市側調査前状況（北西から） ······	12
第8図 太子町側調査前状況（南東から） ······	12

第9図	測定試料写真	28
第10図	暦年較正結果	29
第11図	鑑定出土人骨写真	32

表目次

第1表	周辺の遺跡地名表	5
第2表	出土遺物観察表	22～26
第3表	測定試料および処理	27
第4表	放射性炭素年代測定および暦年較正の結果	28
第5表	福田小川原遺跡出土人骨鑑定結果	31

卷頭写真図版目次

巻頭写真図版 1 遠景（南東から）
遠景（北から）

巻頭写真図版 2 福田小川原遺跡 SX53 出土遺物
福田小川原遺跡 SX79 出土遺物

図版目次

- 図版 1 調査区の位置
図版 2 調査区全体平面図
福田小川原遺跡
図版 3 A-1 区・B-1 区・B-2 区（第 1 面） 遺構配置図
図版 4 A-1 区・B-1 区・B-2 区 北東壁土層断面図
図版 5 A-1 区・B-1 区 SX01 平面図・断面図
図版 6 B-2 区（第 1 面） SH02・SH03 平面図・断面図
図版 7 B-2 区（第 1 面） SX22（SH03 内）・SK18・SD21（SH02 内） 平面図・断面図
図版 8 B-2 区（第 1 面） SH09・SH10 平面図・断面図
図版 9 B-2 区（第 1 面） SP32・SK12・SK26 平面図・断面図
図版 10 B-2 区（第 1 面） SX29 平面図・断面図
図版 11 B-2 区 第 1 上面上層・第 2 上面上層・第 2 面 遺構配置図
図版 12 B-2 区（第 1 上面上層） SX11 平面図・断面図
図版 13 B-2 区（第 2 上面上層） SK51 平面図・断面図
図版 14 B-2 区（第 2 面） SK27・SD30 平面図・断面図
図版 15 A-2 区北 第 1 面・第 2 面 遺構配置図
図版 16 A-2 区北 北東壁土層断面図
図版 17 A-2 区北 北東壁土層断面図 土層名
図版 18 A-2 区北（第 1 面） SB01（1） 平面図・柱穴断面図
図版 19 A-2 区北（第 1 面） SB01（2） 柱穴断面図 土層名
図版 20 A-2 区北（第 1 面） SB02 平面図・柱穴断面図
図版 21 A-2 区北（第 1 面） SB03（1） 平面図・柱穴断面図
図版 22 A-2 区北（第 1 面） SB03（2） 柱穴断面図
図版 23 A-2 区北（第 1 面） SB03（3） 柱穴断面図 土層名
図版 24 A-2 区北（第 1 面） SX53 平面図・断面図
図版 25 A-2 区北（第 1 面） SX56・SX78・SX250（SX78 内） 平面図・断面図
図版 26 A-2 区北（第 1 面） SX71・SX79・SX80・SX244 平面図・断面図
図版 27 A-2 区北（第 1 面） SX215・SX227 平面図・断面図
- 図版 28 A-2 区北（第 1 面） SD57・SD69・SD197 平面図・断面図
図版 29 A-2 区北（第 2 面） SX251・SD252・SD253・SD254 平面図・断面図
樋ノ上遺跡
図版 30 A-2 区南 遺構配置図
図版 31 A-2 区南 北東壁土層断面図
図版 32 A-2 区南 SK06・SK07・SK09・SK10・SD03 平面図・断面図
図版 33 A-2 区南 SX01・SX02 平面図・断面図
福田小川原遺跡
図版 34 出土遺物 1
図版 35 出土遺物 2
図版 36 出土遺物 3
図版 37 出土遺物 4
図版 38 出土遺物 5
図版 39 出土遺物 1

写真図版目次

福田小川原遺跡

写真図版 1	A-1 区 調査区全景 (南東から) A-1 区 調査区東壁 (南西から) A-1 区 SX01 完掘状況 (南東から)	写真図版 12	B-2 区 第1面上層 SX11 完掘状況 (南東から) B-2 区 第1面上層 SX11 遺物出土状況① (南東から)
写真図版 2	B-1 区・B-2 区 調査区全景 (北西から)		B-2 区 第1面上層 SX11 遺物出土状況② (南東から) B-2 区 第1面上層 SX29 断面 (南西から)
写真図版 3	B-1 区 調査区全景 (北西から) B-1 区 調査区東壁 (南西から) B-1 区 第1面 SX01 断面 (南西から)	写真図版 13	B-2 区 第2面上層 SX51 断面 (南から) B-2 区 第2面上層 SX51 完掘状況 (東から)
	B-1 区 第1面 SX01 骨出土状況 (南西から) B-1 区 第1面 SX01 骨出土状況 アップ (南西から)	写真図版 14	B-2 区 第2面 SD30 断面 A-A' (南から) B-2 区 第2面 SD30 断面 B-B' (北から)
写真図版 4	B-2 区 調査区全景 (南東から) B-2 区 調査区東壁 (南西から)		B-2 区 第2面 SD30 断面 C-C' (北から) B-2 区 第2面 SD30 完掘状況 (南東から)
写真図版 5	B-2 区 第1面 SH02・SH03 断面 (南東から) B-2 区 第1面 SH02 断面調査区 西壁 (北東から) B-2 区 第1面 SH03 断面 (北西から)	写真図版 15	A-2 区 第1面 調査区全景 (遠景) (南東から)
写真図版 6	B-2 区 第1面 SH02・SH03 (東から) B-2 区 第1面 SH02 遺物出土状況 座石アップ (南から) B-2 区 第1面 SH02 遺物出土状況 座石アップ (北東から)	写真図版 16	A-2 区北 第1面 調査区全景 (北西から) A-2 区北 第1面 調査区全景 (南東から)
	B-2 区 第1面 SH02 内 SK18 断面 (北西から)	写真図版 17	A-2 区北 第1面 調査区東壁断面 北半部 (南から) A-2 区北 第1面 調査区東壁断面 南半部 (南から)
写真図版 7	B-2 区 第1面 SX22 断面 (南東から)	写真図版 18	A-2 区北 第1面 SB01 (北から) A-2 区北 第1面 SP83 (SB01 内) 断面 (西から)
	B-2 区 第1面 SX22 断面 (南西から)		A-2 区北 第1面 SP90 (SB01 内) 断面 (西から)
	B-2 区 第1面 SX22 遺物出土状況 (南東から)		A-2 区北 第1面 SP92 (SB01 内) 断面 (西から)
写真図版 8	B-2 区 第1面 SH09 断面 (東から) B-2 区 第1面 SH10 断面 (南から)		A-2 区北 第1面 SP98 (SB01 内) 断面 (西から)
	B-2 区 第1面 SH10 断面 (西から)	写真図版 19	A-2 区北 第1面 SP118 (SB01 内) 断面 (西から)
写真図版 9	B-2 区 第1面 SH09 (東から)		A-2 区北 第1面 SP145 (SB01 内) 断面 (西から)
	B-2 区 第1面 SH10 (南から)		A-2 区北 第1面 SP160 (SB01 内) 断面 (西から)
写真図版 10	B-2 区 第1面 P32 断面 (南西から)		A-2 区北 第1面 SP178 (SB01 内) 断面 (西から)
	B-2 区 第1面 SK12 断面 (北西から)		A-2 区北 第1面 SP192 (SB01 内) 断面 (西から)
	B-2 区 第1面 SK12 完掘状況 (北西から)		
写真図版 11	B-2 区 第1面 SK26 断面 (南東から)		
	B-2 区 第1面上層 SX11 断面 (南西から)		

写真図版20	A-2 区北 第1面 SB02 (北東から) A-2 区北 第1面 SP65 (SB02 内) 断面 (北東から) A-2 区北 第1面 SP66 (SB02 内) 断面 (北東から) A-2 区北 第1面 SP68 (SB02 内) 断面 (北東から) A-2 区北 第1面 SP70 (SB02 内) 断面 (北東から)	写真図版25	A-2 区北 第1面 SX53断面 a-a' (東から) A-2 区北 第1面 SX53断面 b-b' (東から)
写真図版21	A-2 区北 第1面 SP73 (SB02 内) 断面 (北東から) A-2 区北 第1面 SP74 (SB02 内) 断面 (北東から) A-2 区北 第1面 SP211 (SB02 内) 断面 (北東から) A-2 区北 第1面 SP212 (SB02 内) 断面 (北東から) A-2 区北 第1面 SB03 (東から)	写真図版26	A-2 区北 第1面 SX53 棺状土坑完掘状況 (南から) A-2 区北 第1面 SX53 棺状土坑完掘状況 (東から) A-2 区北 第1面 SX53 遺物出土状況 (南から) A-2 区北 第1面 SX53 羽釜・硯出土状況 (南から)
写真図版22	A-2 区北 第1面 SP137 (SB03 内) 断面 (東から) A-2 区北 第1面 SP153 (SB03 内) 断面 (東から) A-2 区北 第1面 SP163 (SB03 内) 断面 (西から) A-2 区北 第1面 SP182 (SB03 内) 断面 (東から) A-2 区北 第1面 SP193 (SB03 内) 断面 (東から) A-2 区北 第1面 SP196 (SB03 内) 断面 (西から) A-2 区北 第1面 SP200 (SB03 内) 断面 (西から) A-2 区北 第1面 SP201 (SB03 内) 断面 (西から)	写真図版27	A-2 区北 第1面 SX56検出状況 (東から) A-2 区北 第1面 SX56断面 (東から) A-2 区北 第1面 SX56完掘状況 (東から)
写真図版23	A-2 区北 第1面 SP213 (SB03 内) 断面 (西から) A-2 区北 第1面 SP216 (SB03 内) 断面 (西から) A-2 区北 第1面 SP220 (SB03 内) 断面 (西から) A-2 区北 第1面 SP232 (SB03 内) 断面 (西から) A-2 区北 第1面 SP233 (SB03 内) 断面 (西から) A-2 区北 第1面 SP236 (SB03 内) 断面 (西から) A-2 区北 第1面 SP240 (SB03 内) 断面 (西から) A-2 区北 第1面 SP240 (SB03 内) 碓石検出状況 (西から)	写真図版28	A-2 区北 第1面 SX71断面 (南東から) A-2 区北 第1面 SX78断面(南側) (南から)
写真図版24	A-2 区北 第1面 SX53検出状況 (南から)	写真図版29	A-2 区北 第1面 SX79断面 (南から) A-2 区北 第1面 SX79 遺物出土状況 (南東から) A-2 区北 第1面 SX79完掘状況 (東から)
		写真図版30	A-2 区北 第1面 SX80 遺物出土状況 (北東から) A-2 区北 第1面 SX80完掘状況 (北東から)
		写真図版31	A-2 区北 第1面 SX215 A-2 区北 第1面 SX215 完掘状況 (北から)
		写真図版32	A-2 区北 第1面 SX227 A-2 区北 第1面 SX227 集石状況 (西から) A-2 区北 第1面 SX227断面 a-a' (東から) A-2 区北 第1面 SX227完掘状況 (西から)
			A-2 区北 第1面 SX244 遺物出土状況 (南東から) A-2 区北 第1面 SX244完掘状況 (南東から)

			福田小川原遺跡
写真図版33	A-2 区北 第1面 SD57断面 (南から)	写真図版 45 出土土器 1	
	A-2 区北 第1面 SD197断面 (北から)	写真図版 46 出土土器 2	
	A-2 区北 第1面 SD69断面 (北から)	写真図版 47 出土土器 3	
	A-2 区北 第1面 SD69完掘状況 (北から)	写真図版 48 出土土器 4	
		写真図版 49 出土土器 5	
		写真図版 50 出土土器 6	
		写真図版 51 出土土器 7	
写真図版34	A-2 区北 第2面 調査区全景 (北西から)	写真図版 52 出土土器 8	
	A-2 区北 第2面 調査区全景 (南東から)	写真図版 53 出土土器 9	
写真図版35	A-2 区北 第2面 SX251 検出状況 (北東から)	写真図版 54 出土土器 10	
	A-2 区北 第2面 SX251 断面 a'a' (南東から)	写真図版 55 出土土器 11	
	A-2 区北 第2面 SX251 完掘状況 (北東から)	写真図版 56 出土土器 12	
		写真図版 57 出土土器 13	
		写真図版 58 出土土器 14	
		写真図版 59 出土石器	
		写真図版 60 出土金属器 1	
		写真図版 61 出土金属器 2	
写真図版36	A-2 区北 第2面 SX251 被熱部断割り全景 (北東から)	樋ノ上遺跡	
	A-2 区北 第2面 SX251 被熱部断割り全景 (南西から)	写真図版 62 出土土器 1	
	A-2 区北 第2面 SX251 被熱部アップ (南西から)	写真図版 63 出土土器 2	
		写真図版 64 出土土器 3	
		写真図版 65 出土石器	
写真図版37	A-2 区北 第2面 SD252断面 (北から)	福田小川原遺跡	
	A-2 区北 第2面 SD253断面 (北から)	写真図版 66 出土人骨	
	A-2 区北 第2面 SD254断面 (北から)		
樋ノ上遺跡			
写真図版38	A-2 区南 調査区全景 (遠景) (北西から)		
写真図版39	A-2 区南 調査区全景 (北西から)		
	A-2 区南 調査区東壁断面 (西から)		
写真図版40	A-2 区南 SK06断面 (南から)		
	A-2 区南 SK06 遺物出土状況 (南から)		
	A-2 区南 SK07断面 (南から)		
写真図版41	A-2 区南 SK09断面 (南から)		
	A-2 区南 SK10断面 (西から)		
	A-2 区南 SK10 石材出土状況 (西から)		
写真図版42	A-2 区南 SK10床面遺物出土状況 (西から)		
	A-2 区南 SK10床面遺物出土状況 アップ (西から)		
	A-2 区南 SX01・SX02断面 (南から)		
写真図版43	A-2 区南 SX01断面 (南から)		
	A-2 区南 SX02断面 (南から)		
	A-2 区南 SX01・SX02完掘状況 (北から)		
写真図版44	A-2 区南 SD03断面 (南西から)		
	A-2 区南 SD03完掘状況 (南西から)		

第1章 遺跡の位置と環境

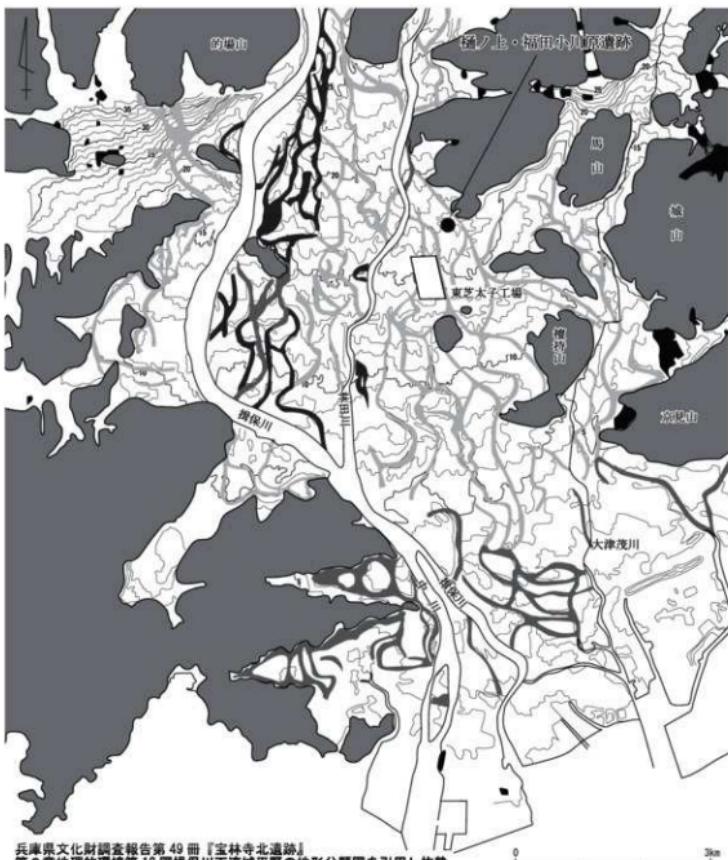
第1節 地理的環境

福田小川原遺跡は、たつの市誉田町福田に所在し、樋ノ上遺跡は揖保郡太子町馬場字樋ノ上に所在する。行政区分によって、遺跡名は異なるが、実態は同一の遺跡である。

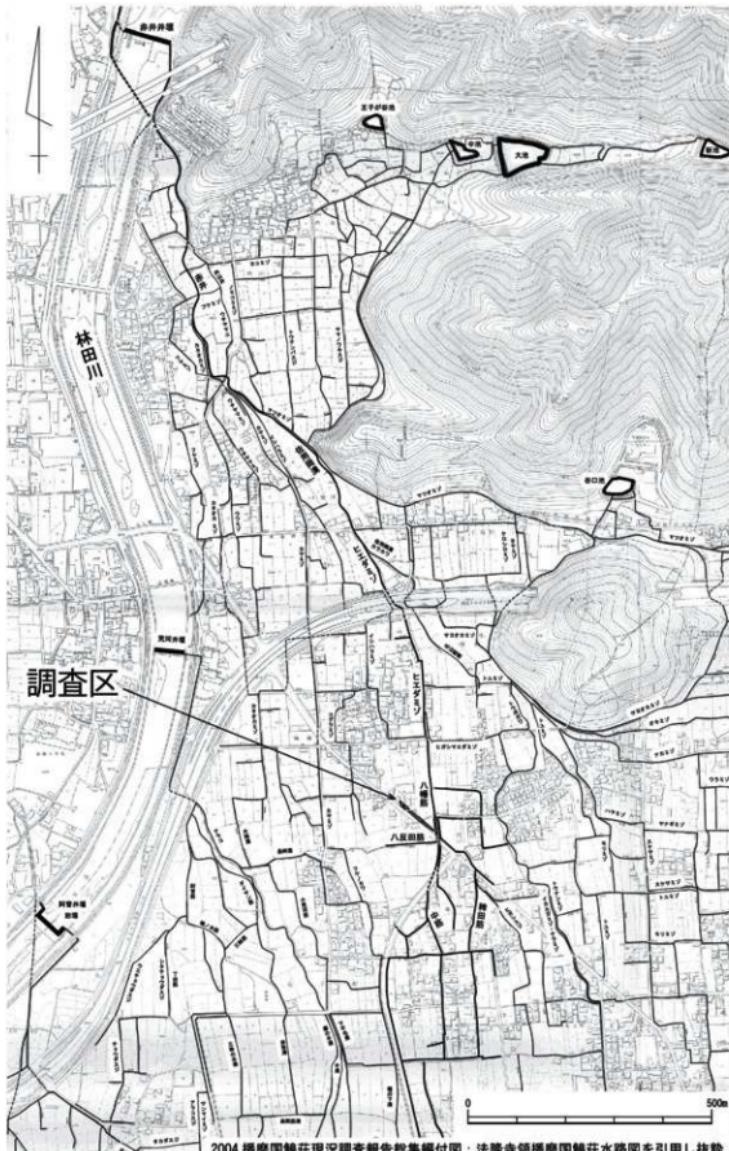
両遺跡は、揖保川最大支流、林田川左岸の揖龍平野に位置する。揖龍平野は、播但山地を開析して南流する揖保川、その最大支流林田川および小規模河川である大津茂川の流域にあたる。現在は、揖保川上流のダム建設や各河川の治水工事により、河川の流れが定まっているが、かつての流路の痕跡が今も確認できる。

この各河川を含めた揖保川下流域の平野部は、扇状地的正確を有し、0.5～2 m程度の崖を境に、完新世段丘面と現氾濫原に分類され、更に完新世段丘面は、形成時期差により、IとIIの2つに分類される。これらは、『丁・柳ヶ瀬遺跡』・『東南遺跡』・『宝林寺北遺跡』・『福田片岡遺跡』等、周辺の遺跡の発掘調査結果から、完新世第I面は繩文時代後期から弥生時代前期にかけて形成され、完新世第II面は古墳時代後期から古代にかけて形成されたと考えられている(第1図)。完新世第II面は、更に旧自然堤防・旧中洲状微高地・旧河道・後背湿地に3分され、現在、旧自然堤防・旧中洲状微高地は、居住地や耕地に利用され、旧河道沿いに主要用水路が作られている。現在、両遺跡が位置する福田地区周辺の灌漑用水は、揖保川を水源とする小宅井用水を、たつの市内山の赤井井堰でサイフォン通水方式により、林田川左岸に導かれている。現在の赤井井堰は、旧来の赤井堰と内山井堰を統合したもので、1967年に完成している。用水は、そこから水を引き、福田地区周辺へと流れ、両遺跡付近には7本の用水路の1本「佐用岡溝-ヒエダミゾー八幡筋」を通り、そこから分岐して太子町鶴地区【中筋・(無名)・稗田筋】、馬場地区【八反田筋】方面に流れる(第2図)。

両遺跡周辺は、法隆寺創建時からの所領地で、戦国時代まで続く荘園「鶴荘」の比定地であり、その秩序正しく区画された条里地割りと、それに伴う水路の名残は、現在でもこの地に残っている。



第1図 遺跡の位置と揖保川下流域の地形



第2図 鶴荘を中心とする条坊プラン復元図及び法隆寺播磨国鶴荘水路図

第2節 歴史的環境

福田小川原遺跡、および樋ノ上遺跡は、たつの市と揖保郡太子町とに跨がり、揖龍平野に展開する弥生時代～鎌倉時代の遺跡である。以下、周辺の遺跡について時代ごとに概観する。(第3図・第1表)

旧石器時代

揖保郡太子町坊主山麓周辺に所在する坊主山遺跡(61)では、国府型ナイフ形石器や有舌尖頭器が出土している。

縄文時代

草創期・早期の遺跡は確認されていない。前期の遺跡は、片吹遺跡(8)が知られている。遺跡は、前期末から晩期中葉まで継続している集落遺跡で、前期末では土坑が検出され、北白川下層III式土器が出土している。また、中期末から後期初頭の堅穴住居跡5棟や土器群が検出されており、本遺跡の最盛期と考えられる。

中期の遺跡は、片吹遺跡、平方遺跡(54)、城山遺跡(3)が知られている。平方遺跡では、堅穴住居跡、土坑等が検出され、土器、石器が多量に出土している。城山遺跡では、遺構は確認されていないが、土器が出土している。

後期の遺跡は、片吹遺跡、東南遺跡(38)、斑鳩寺南遺跡(25)等が知られている。東南遺跡は、後期前半の女性の土偶が出土し、後期中葉を中心とする堅穴住居跡、集石遺構、埋甕、土壇墓群が検出される集落遺跡である。斑鳩寺南遺跡では、土坑が検出され、土器、石器が出土している。

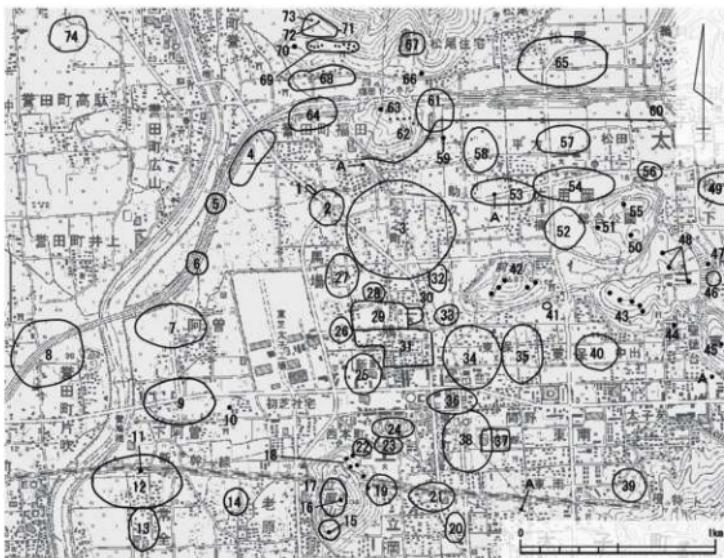
晩期の遺跡は、片吹遺跡、立岡遺跡(19)、常全遺跡(12)、助久五反畠遺跡(32)、東保遺跡(40)等が知られている。立岡遺跡では、晩期後半の埋甕が検出され、船橋式土器が出土している。常全遺跡では、晩期中葉以降の集石遺構が検出され、原下層式土器が出土している。平方遺跡、助久五反畠遺跡では、土坑が検出されている。東保遺跡では、多量の土器が出土している。確認されている晩期の遺跡では、何れも住居跡は検出されていない。しかし、後・晩期から平野部において初期農耕に適した湿地が多く存在したことに加え、それに伴う段丘面上における集落形成の増加が想定されるため、今後住居跡が確認される可能性が高いと考えられる。

弥生時代

早期の遺跡は確認されていない。前期の遺跡は、平方遺跡、斑鳩寺遺跡(29)、鵜石田遺跡(36)等が知られている。平方遺跡では、土坑や土器が確認されている。斑鳩寺遺跡では、貯藏穴と土器が確認されている。鵜石田遺跡では、遺構は確認されていないが、土器が出土している。

中期の遺跡は、立岡遺跡、鵜遺跡(34)、福田片岡遺跡(4)、福田八軒屋遺跡(68)、福田天神遺跡(64)、馬場遺跡(27)等が知られている。立岡遺跡では、屋内に高床部を持つ隅丸方形の堅穴住居跡が検出されている。鵜遺跡では、土坑、ピットが検出され、分銅形土製品が出土している。福田片岡遺跡では、橢円形堅穴住居跡1棟、土坑が検出され、住居内からは壺、高杯等の土器や打製石包丁、打製石鏃が出土している。また、土坑内からは土器の他、多量の炭化米が確認されている。福田八軒屋遺跡では、遺物が確認されている。馬場遺跡では、遺構は確認されていないが、土器、石器が出土している。中期以降、農業生産力の向上等を背景に、特に平野部を中心として遺跡数、規模、共に増大する。また、中期後半以降には、檀特山山頂遺跡に代表されるような高地性集落が出現するが、後期前半には衰退する。

後期の遺跡は、南柳遺跡(52)、立岡遺跡、常全日蓮寺遺跡(13)、鵜石田遺跡、阿曾丁田遺跡(6)、キツネ岩遺跡(41)等が知られている。南柳遺跡では、堅穴住居跡、木棺墓等が検出されている。立岡遺跡では、方形の堅穴住居跡、溝が検出されている。常全日蓮寺遺跡では、土器棺が検出されている。



第3図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡地名表

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	福田小川原遺跡	26	斑鳩寺西遺跡	51	柳山古墳
2	驥ノ上遺跡	27	馬場遺跡	52	南柳遺跡
3	城山遺跡	28	斑鳩寺北遺跡	53	平方官ノ本遺跡
4	福田片岡遺跡	29	斑鳩寺遺跡	54	平方遺跡
5	春日社跡	30	斑鳩小学校遺跡	55	松田山古墳
6	阿曾丁山遺跡	31	鶴構居跡	56	松ヶ下北遺跡
7	阿曾北遺跡	32	助久五反畠遺跡	57	平方高田遺跡
8	片岡遺跡	33	鶴北遺跡	58	平方志田遺跡
9	阿曾南遺跡	34	鶴遺跡	59	桜ヶ坪榜示石
10	阿曾古墳	35	東保高田遺跡	60	筑紫大道路
11	常全古墳	36	鶴石田遺跡	61	坊主山遺跡
12	常全遺跡	37	佐田構居跡	62	太郎兵衛林1~6号墳
13	常全1蓮寺遺跡	38	東南遺跡	63	福田山古墳
14	老原遺跡	39	栗原遺跡	64	福田天神遺跡
15	立岡山遺跡	40	東保遺跡	65	松尾遺跡
16	立岡山1号墳	41	キツネ岩遺跡	66	松尾古墳
17	石塚鉄城跡	42	東保山1~5号墳	67	雀山遺跡
18	立岡山2~7号墳	43	丹生山4~8号墳	68	福田八軒屋遺跡
19	立岡遺跡	44	丹生山9号墳	69	明神山2~12号墳
20	矢田部西遺跡	45	中出遺跡	70	明神山1号墳
21	立岡東遺跡	46	沼田遺跡	71	上沼田遺跡
22	船塚遺跡	47	沼田古墳	72	内山54号墳
23	太子山南麓遺跡	48	丹生山1~3号墳	73	内山53号墳
24	太子山遺跡	49	松ヶ下遺跡	74	小宅遺跡
25	斑鳩寺南遺跡	50	坊主山古墳	A	鶴荘榜示石（県指定史跡）

鶴石田遺跡では、庄内式甕や庄内併行期の土器が多量に出土している。阿曾丁田遺跡では、遺構は検出されていないが、土器が出土している。キツネ岩遺跡では、遺構は検出されていないが、時期不明の石鏡が出土している。

古墳時代

前期の遺跡は、鶴遺跡、鶴石田遺跡、城山遺跡、南柳遺跡、平方遺跡、片吹遺跡が知られている。何れも弥生時代から継続している集落遺跡で、この時期に規模が拡大する傾向にある。

前期の古墳は、松田山古墳（55）が知られている。松田山古墳は、直径20m程度の円墳で、埋葬施設として、割石積みの竪穴式石室に割竹型木棺が納められており、斜線神獸鏡、筒形銅器、銅鏡、勾玉、管玉等が副葬されていた。その他、古墳ではないが、明神山1号墳（70）では、壺形土器を埋納した土器棺墓が検出されている。

中期の遺跡は、南柳遺跡、東保高田遺跡（35）、城山遺跡、馬場遺跡が知られている。南柳遺跡、東保高田遺跡、城山遺跡では、竪穴住居跡が検出されている。馬場遺跡では、遺構は検出されていないが、土器が出土している。

中期の古墳は、黒岡山古墳群中の1基が知られている。埋葬施設は箱式石棺を主体部としており、副葬品として仿製銅鏡、鉄劍、ヤリガンナ等が出土している。

後期の遺跡は、船塚遺跡（22）、城山遺跡、鶴石田遺跡、太子山南麓遺跡（23）、鶴北遺跡（33）等が知られている。船塚遺跡、城山遺跡、鶴石田遺跡では、方形の竪穴住居跡等が検出されている。太子山南麓遺跡、南柳遺跡では、土坑、溝が検出されている。鶴北遺跡では、遺構は検出されていないが、土器が出土している。

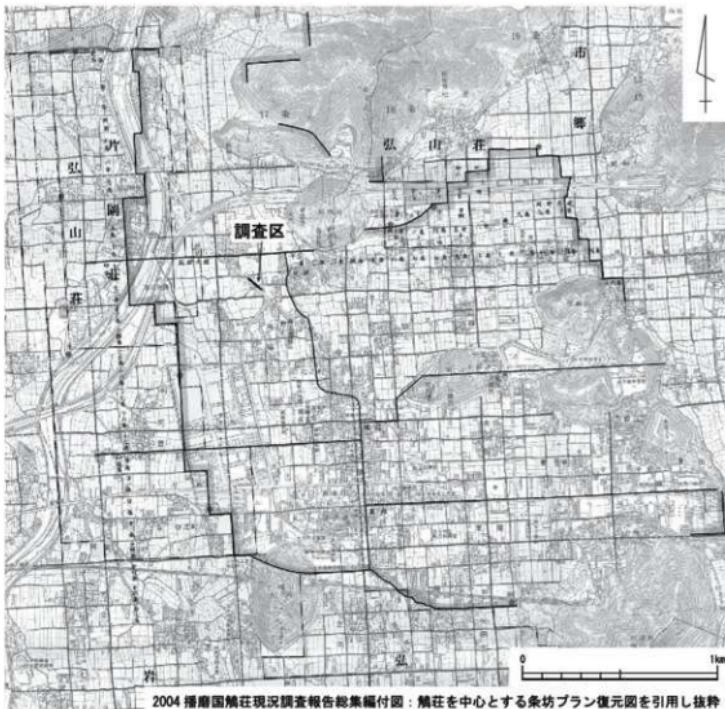
後期の古墳は、丹生山古墳群（1～9号墳）（43・44・48）、東保山古墳群（1～5号墳）（42）、立岡山古墳群（2～7号墳）（18）等の群集墳が知られ、埋葬施設は大半が横穴式石室で、丹生山1号墳、東保山3号墳の埋葬施設は箱式石棺である。丹生山1号墳では、墳丘部から須恵器群、形象埴輪が、石棺周辺部から鉢輪車、勾玉が出土している。東保山3号墳の蓋石は家形と推定される形に加工され、内面には側壁部及び小口部に溝の加工痕と朱の付着が確認されている。丹生山8号墳の埋葬施設は竪穴式石室で、蓋板により石室の一部が破壊されている。丹生山4・5・6号墳、東保山1号墳の埋葬施設は不明である。沼田古墳（47）は、埋葬施設に横穴式石室を持つ円墳である。

古代

大宝律令制定【大宝元年（701）】で確固たるものとなった律令体制により、公地公民制が確立し、地方行政組織が設立されたことにより、地方は国、郡、里（郷）に分かれ、条里制、交通網等の整備が実施されていく。

周辺地域は、播磨国掛保郡に所在し、『播磨國風土記』や『倭名類聚抄』に掛保郡の里（郷）名が記載されており、福田小川原遺跡（1）、極ノ上遺跡（2）が位置する福田・馬場地区は広山里に含まれる。掛保郡では、条里地割において条里的「里」に代わり、「坊」を使用しており、『播磨國某莊別當業能解』【延喜八年（908）】によると、この頃から播磨国において平城京、平安京、太宰府等と同様に条坊で呼称していたようである。

法隆寺所領莊園の「鶴莊」という文字は『法隆寺別当次第』の長歴三年（1039）の記事で初めて記され、『法隆寺伽藍縁起并流記資材表』【天平十九年（747）】で、法隆寺が播磨国掛保郡に相当の不動産を領していたことから、以前より鶴莊が存在していた事が窺われる。



2004播磨国鶴荘現況調査報告総集編付図：鶴荘を中心とする条坊プラン復元図を引用し抜粋

第4図 条坊プラン復元図

揖保川下流域を中心とする莊園開発は、古代から中世にかけて活発に行われ、少なくとも11世紀前半には成立していた鶴荘は、開発や寄進により、現在のたつの市脅田町福田・内山・舍利田、揖保郡太子町馬場・鶴・東南・東出・佐用岡にあたる地域まで広がる（第4図）。

この時期の遺跡としては、笠山遺跡（67）、斑鳩寺遺跡、阿曾南遺跡（9）、福田片岡遺跡、立岡東遺跡（21）等が知られている。笠山遺跡では、綠釉陶器、軒丸瓦、軒平瓦が出土している。斑鳩寺遺跡では、仁王門基壇、築地塀基壇、土坑等が検出され、宝相花文軒平瓦、11世紀末葉の均整花菱文軒平瓦等が出土している。阿曾南遺跡では、南北条坊地割に一致する12世紀代の溝が検出され、綠釉陶器等が出土している。福田片岡遺跡では、奈良時代の溝、平安時代後期の水田畦畔、水路、溝が検出されている。立岡東遺跡では、平安時代後期の掘立柱建物跡が検出されている。

中世

鶴荘は、法隆寺（莊園領主）と悪党（在地開発領主）との対立、寺僧と鶴荘に出向した雜掌との対立、幕府からの政治・経済的な圧力等により、次第に法隆寺による鶴荘支配の弱体化が進み、羽柴秀吉の播磨国平定〔天正八年（1580）〕により、その終焉を迎える。

この時期、古代から存在する山陽道は、その維持にあたり地域の実状に即した道路として変貌し、そ

の後、元寇への備えとして筑紫大道（60）が整備される。

この時期の遺跡は、福田片岡遺跡、平方遺跡、福田天神遺跡、斑鳩寺遺跡、斑鳩小学校遺跡（30）、桜ヶ坪勝示石（59）等が知られている。福田片岡遺跡、平方遺跡では、道路状遺構が検出され、『法隆寺領播磨国鷦鷯莊絵図（嘉歴図）』、『法隆寺領播磨国鷦鷯莊絵図（至徳図）』等から筑紫大道の一部であることが判明している。更に、福田片岡遺跡では、方形区画溝で囲まれた居館跡、井戸、墓（火葬・土壙・木棺・石室）、土坑、柱穴が検出され、火打金、古銭、文書木簡、石鍋、漆器、瓦、土師器皿、瀬戸焼卸皿、備前焼甕等が出土している。福田天神遺跡では、鎌倉時代を中心とする掘立柱建物跡、溝、土壙墓、土坑等が検出され、土壙墓から輸入陶磁器が出土している。佐田構居跡（37）では、条坊地割に沿った東西方向の溝が検出されている。春日社跡（5）では、東西と南北の列石、礎石、集石遺構等が検出され、14世紀前葉の唐草文軒平瓦、15世紀以降の瓦や土師器皿等が出土している。斑鳩寺遺跡では、永禄八年（1565）、宝曆四年（1754）銘の軒瓦が確認されている。斑鳩小学校遺跡では、斑鳩寺の子院の1つである等覚坊（青龍院）跡が検出されている。阿曾北遺跡（7）では、中世後半の遺構（土壙墓群・烟跡・井戸・溝・土坑・柱穴等）が検出され、陶磁器、古銭が出土している。松尾遺跡（65）では、溝が検出され、土器が出土している。桜ヶ坪勝示石は、『法隆寺領播磨国鷦鷯莊絵図（嘉歴図）』等にも描かれている石で、現状と絵図の位置が一致する鷦鷯の境界を示した勝示石である。鷦鷯勝示石（A）は、昔から地元で「太子の投げ石」と呼ばれ、太子町鷦鷯北山根、佐用岡字宮ノ本、東南字田屋、東出字旗ノ前（2基）に所在し、合計5基の勝示石は、昭和46年（1971）に県指定史跡（県史48）となっている。石御蜘蛛城跡（17）は、立岡山山頂に築かれた島津左衛門大夫忠行から島津左近将監忠長までの15代が居城した山城である。鷦鷯居跡（31）は江戸時代後期の地誌『播磨鏡』に記される居館跡とされるが、遺構等は確認されていない。

近世

関ヶ原の戦い〔慶長五年（1600）〕以後、播磨の地を領していた豊臣氏に代わり、池田輝政が家康より播磨一国をもらい受け、姫路に移封して以降、薩藩置県が施工〔明治四年（1871）〕されるまで、本遺跡が所在する馬場村、宿（福田）村は、姫路藩—鷦鷯藩—新宮藩—幕府直轄領—龍野藩と変遷していく。

この時期の遺跡は、斑鳩寺遺跡、斑鳩寺北遺跡（28）、斑鳩寺西遺跡（26）、斑鳩小学校遺跡、鷦鷯居跡等が知られている。斑鳩寺遺跡では、子院である双樹院及び圓光院に伴う遺構（土坑・井戸・溝）、築地の基壇、石組み井戸等が検出され、近世陶磁器、瓦等が出土している。斑鳩寺北遺跡では、斑鳩寺の塔頭寺院に付随する遺構が検出されている。斑鳩寺西遺跡では、集石遺構等が検出されている。斑鳩小学校遺跡では、斑鳩寺子院の敷地を示す遺構等が検出され、近世陶磁器、瓦等が出土している。鷦鷯居跡では、江戸時代末に山陽道沿いに移転する前の寛永年間に建てられた鷦鷯本陣に関連する遺構が検出されている。その他、佐田構居跡（37）では、近世陶磁器を転用した面子が出土している。

第2章 調査の経緯・経過と体制

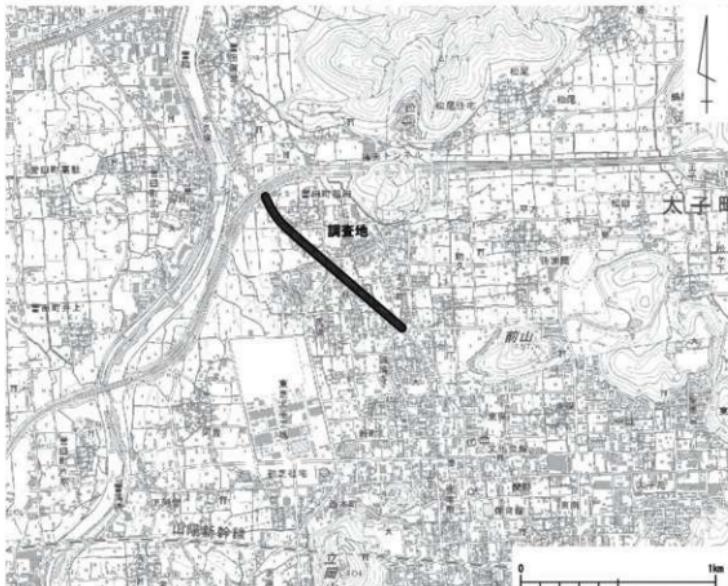
第1節 発掘調査

1. 調査の経緯

兵庫県西播磨県民局龍野土木事務所は、たつの市若田町福田から揖保郡太子町鷲にかけて、防災・安全社会資本整備交付金（国）179号歩道設置事業およびを計画している。事業地には、埋蔵文化財包蔵地「福田片岡遺跡（県遺跡番号：120187）」、「福田小川原遺跡（県遺跡番号：120682）」、「樋ノ上遺跡（県遺跡番号：450006）」、「城山遺跡（県遺跡番号：450005）」が所在する。

兵庫県教育委員会は、事業予定地において平成21年度に分布調査（遺跡調査番号：2009109）を実施し、この結果を踏まえて試掘・確認調査を平成24年度（遺跡調査番号：2012039）・平成27年度（遺跡調査番号：2015099・2015100）・平成29年度（遺跡調査番号：2017122）に実施した。平成24年度については、平成24年5月25日付け西播（龍土）第93号の依頼に基づいて6月と7月に、平成27年度については、平成27年5月26日付け西播（龍土）第57号の依頼に基づいて8月に、平成29年度については、平成30年1月11日付け西播（龍土）第1175号の依頼に基づいて2月に調査を行った。

その結果、一部に埋蔵文化財の存在が確認され、太子町では樋ノ上遺跡の範囲が北西側に広がることが明らかとなり、たつの市では樋ノ上遺跡北東側に隣接して「福田小川原遺跡（県遺跡番号120682）」



第5図 試掘・確認調査範囲位置図

として埋蔵文化財包蔵地に登録されることとなった。

同地の事業に伴い、兵庫県西播磨県民局長より文化財保護法第94条第1項の規定により平成27年5月26日付け西播（龍土）第58号の通知が提出され、これに対して兵庫県教育長より平成27年11月11日付け教文第2704号の「発掘調査」の指示・勅告がなされた。兵庫県教育委員会は、この指示・勅告に基づく兵庫県西播磨県民局長からの平成30年1月11日付け西播（龍土）第1174号の依頼を受け、令和元年11月～令和2年2月にかけて福田小川原遺跡および樋ノ上遺跡の本発掘調査を公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターに委託して実施した。

なお、西播磨県民局龍野土木事務所は、同事業について、道路事業（国）179号太子道路（現道拡幅部）として計画しており、兵庫県教育委員会は、令和元年7月30日付け西播（龍土）第1102号の依頼を受け、令和元年度に城山遺跡の本発掘調査（遺跡調査番号：2019042）も両遺跡の調査と同時に実施している。

2. 調査の経過

（1）試掘・確認調査

調査地は、林田川左岸の平野部に位置し、調査地周辺には条里地割が残り、耕作地や集落などが広がる（図版1）。国道179号線の事業対象部分は、条里地割に対して南東から北西方向に斜交して延びており、道路部分については、耕作地にコンクリート擁壁と盛土によって造成されて、路面が当初の耕作地面より高くなっている。調査地は、道路を拡幅する北東側にあたり、道路に隣接する宅地等の建設用地のほとんどについても路面と同様にコンクリート擁壁の設置と盛土造成によって嵩上げされて高くなっている箇所や、耕作地や荒蕪地のままの箇所が存在する。道路に隣接する低い耕作地や荒蕪地には、局所的にコンクリート製の斜路などが築かれている。

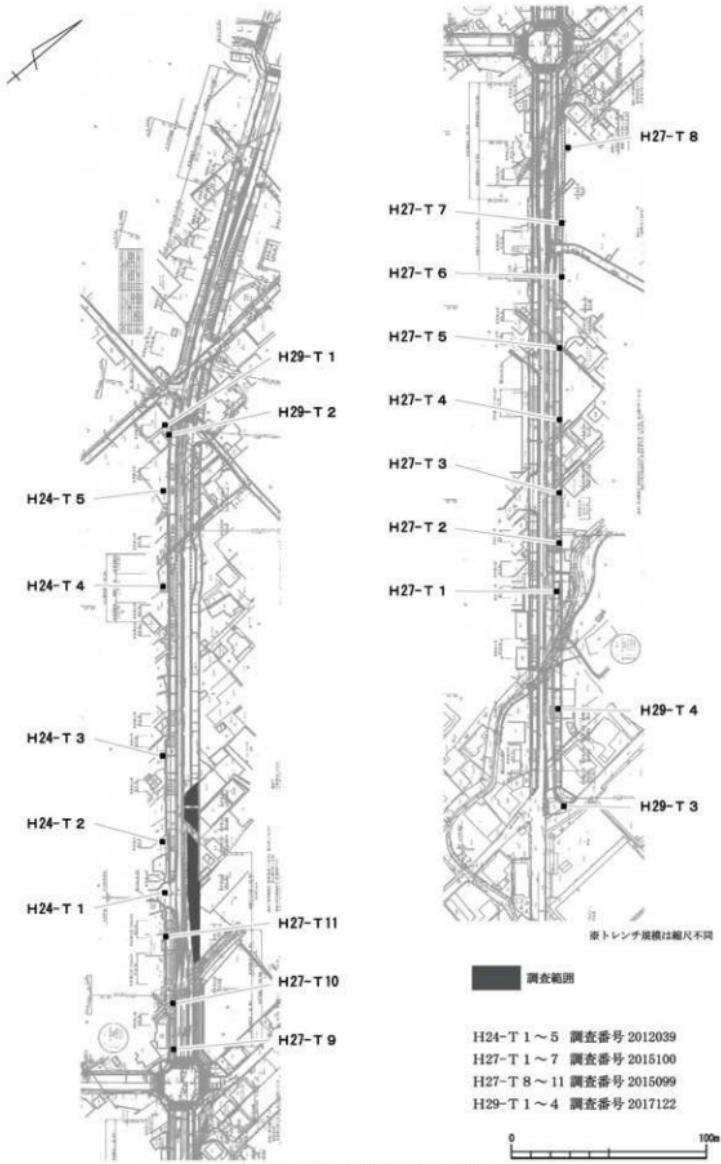
試掘・確認調査については、事前調整が進んだ部分から適宜着手し、平成24・27・29年度の3カ年度に渡って実施した。調査区は、平成24年度にはT1～T5の5カ所（遺跡調査番号2012039）、平成27年度にはT1～T11の11カ所（遺跡調査番号2015099・2015100）と、平成29年度にT1～T4の4箇所（遺跡調査番号2017122）を設定した（第5図及び第6図）。各調査区の調査については、機械による削削後、人力にて平面・断面の精査を行い埋蔵文化財の存否を確認した。また、必要に応じて写真撮影、平面図・断面図作成等の記録作業を行った。

調査の結果、平成24年度調査のT1・T2（H24-T1・T2）、平成27年度調査のT11（H27-T11）、平成29年度調査のT3・T4（H29-T3・T4）で埋蔵文化財の存在を確認した（このうち、H29-T3・T4は隣接する城山遺跡である）。平成24・27年度のその他の調査区では、埋蔵文化財が認められなかった。

また、事業地に含まれ、条里に沿って東西方向に走る現道のうち、現在埋蔵文化財包蔵地として周知される筑紫大道の西端から直線的に西側へ延ばした推定線と重なる部分があり、その南側用地部分において、平成29年度T1・T2（H29-T1・T2）を設定したが、筑紫大道に関連するものを始め、遺構を確認できなかった。

（2）本発掘調査

試掘・確認調査の結果を受けて、遺構・遺物が確認できた平成24年度調査のT1・T2及び平成27年度調査のT11を中心とした周辺の埋蔵文化財の存在が想定される工事予定地について、それぞれ福田小川原遺跡（たつの市）、樋ノ上遺跡（太子町）の隣接する遺跡として本発掘調査の対象となった。本発掘調査は、令和元年11月11日より開始し、令和2年2月28日に終了した。



第6図 試掘・確認調査区位置図

なお、平成29年度T3・T4を中心とした工事予定地部分については、城山遺跡として本発掘調査の対象となっており、両遺跡と同時に本発掘調査を実施したが、別途報告することとなっている。

調査区については、事業予定箇所の福田小川原遺跡・樋ノ上遺跡にA・B地区が設定された。調査区は、道路に面する住宅地や店舗等に隣接しており、出入口や駐車場の確保、機能する埋設管を回避しつつ、安全確保に十分配慮して、複数の調査区について掘削と埋め戻しを併行して実施する必要があったため、調査区名のアルファベット部分は、概ね各調査区の着手工程単位に付与され、調査区を細分化して設定したため、同一文字の調査区（A区・B区）でも距離が離れているものがある。各遺跡に該当する調査区名は、北から順に、福田小川原遺跡は、A-1区、B-1区、B-2区、A-2区北の4地区、樋ノ上遺跡はA-2区南の1地区とした（図版1）。

A-2区については、市町境界にコンクリート製擁壁があり、これを境として南北に細分し、両遺跡の境界とした。

福田小川原遺跡の調査区の規模は、A-1区、B-1区、B-2区、A-2区北の4地区を通して延長約64m、幅約4~6mである。南端のコンクリート擁壁を隔てて樋ノ上遺跡の調査区と隣接する。

樋ノ上遺跡の調査区の規模は、A-2区南の1地区を通して延長約28m、幅約3~5mである。

調査の方法については、表土などを重機で除去した後、人力にて下の遺物包含層等を掘削して精査を行い、遺構等を検出した。また、調査区断面の整形及び精査を行い、層序を把握した。検出遺構および出土遺物の位置等については、電子平板図を作成して把握し、検出遺構については、種類に関係無く、通し番号を付して管理した。調査に伴って適宜図面作成および写真撮影による記録を行った。遺構検出面では、空中写真撮影および測量を実施し、無人航空機による写真撮影とそのデータを基に図化を行った。各調査区の空中写真撮影および測量は、令和元年12月13日にB-1・2区、令和2年1月16日にA-1区・A-2区南で実施した。また、各調査区の調査終了後には埋め戻しを行い、そのうち住宅地の出入口等に隣接するA-1区、B-1・2区については、龍野土木事務所との協議を経て路床盛土と下層路盤工を行った。



第7図　たつの市側調査前の状況（北西から）



第8図　太子町側調査前の状況（南東から）

3. 発掘調査の体制

分布調査、試掘・確認調査および本発掘調査の調査体制については以下のとおりである。

分布調査

平成 21 年度

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当：兵庫県立考古博物館 埋蔵文化財調査部 調査第 2 班 調査専門員 古賀雅仁
主査 山田清朝

調査期間：平成 21 年 4 月 23 日

調査面積：2,500 m²

試掘・確認調査

平成 24 年度（遺跡調査番号：2012039）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当：兵庫県立考古博物館 総務部 埋蔵文化財課 主査 上田健太郎

調査期間：平成 24 年 6 月 13・15 日、7 月 27 日

調査面積：20 m²

平成 27 年度（遺跡調査番号：2015099・2015100）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当：兵庫県立考古博物館 総務部 埋蔵文化財課 主査 池田征弘

調査期間：平成 27 年 8 月 4・5 日

調査面積：44 m²（うち樋ノ上遺跡 16 m²・城山遺跡 28 m²）

平成 29 年度（遺跡調査番号：2017122）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当：兵庫県立考古博物館 総務部 埋蔵文化財課 主査 上田健太郎

主任 堀内拓郎

調査期間：平成 30 年 2 月 7・8 日

調査面積：60 m²

本発掘調査 福田小川原遺跡（遺跡調査番号：2019066）・樋ノ上遺跡（遺跡調査番号：2019012）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当：（公財）兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部

調査第 2 課 主査 堀内拓郎

臨時の専門職員 松崎光伸

調査第 1 課 技術職員 野田優人

調査期間：令和元年 11 月 11 日～令和 2 年 2 月 28 日

調査面積：297 m²（福田小川原遺跡）、101 m²（樋ノ上遺跡）

第2節 出土品整理

1. 出土品整理作業

出土品整理作業は、兵庫県教育委員会が西播磨県民局長（龍野土木事務所）より令和3年3月1日付け西播（龍土）第1328号及び令和4年3月25日付け西播（龍土）第257-2号の依頼を受け、令和3年度、令和4年度の2カ年に渡って実施した。作業については、兵庫県教育委員会が（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部に委託して行った。作業内容は、水洗い、ネーミング、接合・補強、実測・拓本、復元、写真撮影、写真整理、図面補正、トレース、レイアウト、分析鑑定、保存処理であり、令和4年度に編集作業を経て報告書を刊行する。

2. 整理作業の体制

出土品整理の作業年度・作業内容、作業体制については、以下のとおりである。

令和3年度

作業内容：水洗い、ネーミング、接合・補強、実測・拓本（土器・石器）、復元、保存処理（金属器）、分析鑑定を実施した。また、分析鑑定については、株式会社パレオ・ラボに出土人骨の骨同定を委託した。

作業体制：調査第2課 主査 堀内拓郎

整理保存課 主任 大嶋昭海

技術職員 野田優人

技術専門員 西口圭介

整理技術員 萩野麻衣・小野潤子・石原香苗・岡崎真子・梶原奈津子・小林礼子・

菅生真理子・森松沙耶香（接合・補強、復元）

森本貴子・八木和子・河合たみ・柏木明子（実測・拓本）

大前篤子・桂 昭子・香山玲子（保存処理）

令和4年度

作業内容：実測・拓本（金属器）、写真撮影、写真整理、遺構図補正、トレース、レイアウト、分析鑑定、報告書印刷の各作業実施し、編集作業を経て報告書を刊行した。また、分析鑑定については、株式会社パレオ・ラボにAMS放射性炭素年代測定を委託し、前年度に分析鑑定を委託した骨同定と合わせて、その成果を本書に掲載した。

作業体制：整理保存課 課長 深江英恵

主任 大嶋昭海

主任 野田優人

技術専門員 西口圭介

整理技術員 河合たみ（トレース、レイアウト）

第3章 福田小川原遺跡の調査成果

第1節 遺構

1. A-1区・B-1区の遺構 (図版2~5、写真図版1~3)

(1) 墓

SX01 (図版5、写真図版1・3)

両区に跨る遺構である。長軸約230cm、短軸約90~110cmを測るやや楕円形に近い長方形状を呈し、深さ約20cmを測る。上層で人骨片が出土している。遺物は、土師器小皿(1)を図化している。

2. B-2区の遺構 (図版2~4、6~14、写真図版2・4~14)

(1) 壴穴建物

SH02 (第1面) (図版6・7、写真図版5・6)

調査区南壁側で検出した。遺構は、一辺約390cmの方形状を呈し、深さ約30cmを測る。主柱穴SP19・SP20の位置から4本柱の建物であることが想定できる。遺構内では、土坑SK18、溝SD21を検出し、床直面上で台石(S1)が出土した。また、遺構の北東側で、SH03を切っている。遺物は、須恵器観察用平瓶の口縁部と思われる(2)を図化している。

SH03 (第1面) (図版6・7、写真図版5~7) ※SX22含む

遺構の南側はSH02に切られるが、一辺約330cmの方形状を呈し、深さ約20cmを測る。明確な主柱穴は1基のみであったが、4本柱の建物と想定される。遺構内では、SX22を検出した。

SX22は、幅約100cm、深さ約20cmの楕円形状の土坑と考えられるがSH02に切られており、全容は不明である。上面では焼土が集中し、土坑内には長胴の甕(3)が出土しており、甕状の遺構とも考えられるが、不明である。遺物は、土師器長胴甕(3)の他、土師器甕(4)を図化している。

SH09 (第1面) (図版8、写真図版8・9)

調査区南西壁側で検出した。遺構の殆どが調査区外にあるが、一辺約310cmの方形状と考えられる。深さは、約7cmを測る。主柱穴P15・P17の位置から4本柱の建物と想定される。その他、同遺構に伴う遺構として、溝SD16を検出した。遺物は、土師器高壺の口縁部と思われる(5)を図化している。

SH10 (第1面) (図版8、写真図版8・9)

調査区北壁側で検出した。搅乱等で遺構の規模は不明だが、一辺400cm程度の方形状と考えられる。主柱穴は検出できなかった。また、遺構内で土坑SK23を検出したが、土層の堆積状況から、建物の埋没過程で形成されたことが窺える。遺物は、弥生土器広口長頸壺(6)を図化している。

(2) 柱穴

SP32 (第1面) (図版9、写真図版10)

調査区北東壁側で検出した。幅約50cmの楕円形状を呈すると考えられ、深さ約15cmを測る。遺物は、土師器小皿(7)を図化している。

(3) 土坑

SK12 (第1面) (図版9、写真図版10)

調査区中央や東側で検出した。直径約60cmの円形状を呈し、深さ約20cmを測る。遺物は、須恵器突帯椀(8)を図化している。

SK26 (第1面) (図版9、写真図版11)

調査区北壁側で検出した。幅約140cm、検出長約140cmの不定楕円形状を呈すると考えられるが不明である。深さ約45cmを測る。遺物は、弥生土器広口長頸壺(9)を図化している。

SK27 (第2面) (図版11・14)

調査区中央付近で検出した。幅約100cmの不定円形状を呈し、溝SD30と切り合い関係にある。

SK51 (第2面上層) (図版11・13、写真図版13)

調査区中央北側で検出した。遺構の一部が擾乱されており、規模は不明だが、長軸約240cmの不定楕円形状を呈すると考えられる。深さ約70cmを測る。

(4) 不明土坑

SX11 (第1面上層) (図版11・12、写真図版11・12)

調査区北東壁側で検出した。検出長約180cm、幅約160cmの長方形形状を呈すると考えられるが、不明である。深さ約10cmを測る浅い土坑である。遺物は、青磁碗(10)を図化している。

SX29 (第1面) (図版10)

調査区東隅で検出した。調査区内で掘方の一部を検出したのみで、形状等、全容は不明である。深さ約35cmを測る。遺物は、土師器小皿(11)、須恵器鉢(12)を図化している。

(5) 溝

SD30 (第2面) (図版11・14、写真図版13・14)

調査区中央付近で検出した。ほぼ南北方向の溝で、調査区外へ延びる。西側は明確な掘方を持つが、東側は判然としない。辛うじて検出した東側掘方から、幅約400cmの溝である。断面上で観察可能な深さは、約50cmを測る。遺物は、弥生土器甕(13)を図化している。

3. A-2区北の遺構 (図版2・15~29、写真図版15~37)

(1) 掘立柱建物

SB01 (第1面) (図版18・19、写真図版18・19)

調査区中央付近で検出した。遺構の一部は、調査区外に延びており、明確な規模の把握は難しいが、検出した柱穴(SP98・SP92・SP118・SP83・SP84・SP90・SP145・SP160・SP192・SP178)の配置関係により、梁間2間×桁行4間の総柱建物と考えられる。建物は、隣接する掘立柱建物SB03と同様、ほぼ南北方向に主軸をもつ。遺物は、SP84出土の須恵器椀(17)を図化している。

SB02（第1面） （図版20、写真図版20・21）

調査区北西側で検出した。検出した柱穴（SP211・SP68・SP70・SP74・SP66・SP65・SP212・SP73）の配置関係から、梁間1間×桁行3間の側柱建物と考えられる。北西-南東方向に主軸をもち、SB01、SB03とは時期を異にしているようだが、明確な時期は不明である。

SB03（第1面） （図版21～23、写真図版21～23）

調査区南東側で検出した。遺構の一部は、北東側と南西側の調査区外に延びており、明確な規模の把握は難しいが、検出した柱穴（SP249・SP240・SP220・SP213・SP216・SP232・SP196・SP200・SP201・SP233・SP163・SP193・SP182・SP137・SP153）の配置関係から梁間4間×桁行4間の総柱建物と考えられる。建物は、隣接する掘立柱建物SB01と同様、ほぼ南北方向に主軸をもつ。遺物は、SP200出土の須恵器甕（18・19）、SP201出土の土師器皿（20）、SP153出土の須恵器小甕（21）、SP193出土の土師器小皿（22）、土師器鍋（23）、須恵器小甕（24）を図化している。

(2) 柱穴

SP112（第1面） （図版15）

調査区中央付近で検出した。直径約40cmを測る。土師器小型壺（27）を図化している。

SP164（第1面） （図版15）

調査区中央や東よりで検出した。直径約15cmを測り、SB03の柱穴SP163に接する。遺物は、土師器小皿（26）を図化している。

(3) 集石土坑・不明土坑

SX53（第1面） （図版24、写真図版24～26）

調査区北西側で検出した。長さ約252cm、検出幅約82cmの長方形状を呈すると考えられ、深さ約60cmを測る。土坑内に長方形状の掘方の土坑があり、大小の礫が集積しており、集石墓と考えられる。遺物は、土師器鍋（28・29・30）、土師器羽釜（31）、土師器甕（32）、須恵器鉢（33）、須恵器甕（34）、瓦質土器羽釜（35）、土師器三足羽釜（36）、瓦質土器片口鉢（37）、白磁皿（38）、瓦質製硯（39）、鉄製釘（M3）を図化している。

SX56（第1面） （図版25、写真図版27）

調査区西隅で検出した。検出長約130cm、検出幅約80cmの楕円形状を呈する土坑と考えられ、深さ約35cmを測る。土坑中央には大小の礫が集積している。遺物は、土師器羽釜（40）、土師器小皿（41）を図化している。

SX71（第1面） （図版15・26、写真図版28）

調査区北側で検出した。検出長約950cm、検出幅約300cmを測るが、東側の掘方を溝SD69に切られ、

そのまま掘方が途絶えているため、形状は不明である。深さ約35cmを測る。

SX78（第1面）（図版25、写真図版28）

調査区中央付近で検出した。ほぼ南北に主軸を持ち、長辺約380cm、短辺約220cmの長方形状を呈し、深さ約30cmを測る。土坑内には、大中小の礫が集積している。遺構の床面の南東隅では、不明土坑SX250を検出した。遺物は、土師器羽釜（42）、須恵器鉢（43）、須恵器壺（44）、石鍋（S4）の他、鉄滓（M4）を図化している。

SX79（第1面）（図版26、写真図版29）

調査区中央付近、SX78の東側で検出した。ほぼ南北に主軸を持ち、検出長辺約400cm、短辺約190cmの不定長方形状を呈し、深さ約10cmを測る。土坑内では、長軸約155cm、短辺約95cmの楕円形を呈する浅い土坑を検出した。遺物は、土師器鍋（46）、須恵器碗（47・48・49・50）、須恵器小皿（51）を図化している。

SX80（第1面）（図版26、写真図版30）

調査区中央付近の南壁で検出した。直径約70cmの円形状を呈すると考えられ、深さ約8cmを測る。遺物は、土師器鍋（45）を図化している。

SX215（第1面）（図版27、写真図版30・31）

調査区東側で検出した。長軸約265cm、短軸約200cmの不定楕円形状を呈し、深さ約15cmを測る浅い土坑である。遺構は、SB03の柱穴SP240と切り合い関係にある。遺物は、土師器小皿（52）、須恵器碗（53）、白磁碗（54）を図化している。

SX227（第1面）（図版27、写真図版31・32）

調査区東隅、北壁付近で検出した。遺構の形状は不明だが、北壁側の検出長約290cm、畦の断面長約160cm、深さ約20cmを測る。遺構内には、大中小の礫が集積している。遺物は、土師器鍋（55・56・57）、土師器羽釜（58）、須恵器碗（59・60）、不明鉄製品（M5）を図化している。

SX244（第1面）（図版26、写真図版32）

調査区東隅、北壁付近で検出した。掘方西側はSX227の掘方と接する。遺構は、調査区外に延びているため、全容は不明だが、検出長約90cm、幅約30cmを測る細長い楕円形状を呈し、深さ約15cmを測る。遺構内には、大中小の礫の集積が、若干認められる。遺物は、土師器鍋（61）を図化している。

SX250（第1面）（図版25）

不明土坑SX78の床面南東隅で検出した。直径約65cmの不定円形状を呈し、深さ約28cmを測る。遺構内には、上面を中心に大中小の礫が集積している。遺物は、青磁碗（62）を図化している。

SX251（第2面）（図版15・29、写真図版35・36）

調査区中央、北壁付近で検出した。遺構が調査区外に延びるため、全容は不明だが、断面観察により、上面の直径約265cm、床面の直径約125cmの不定円形状を呈すると考えられ、深さ約35cmを測る。床面付近では、被熱により赤色化及び炭化した粘土層が、幅約35cmのドーナツ状で検出した。

（4）溝

SD57（第1面）（図版28、写真図版33）

調査区西側で検出した。ほぼ南北方向へ延びる溝である。遺構の南側が調査区外に延びるため、全容は不明だが検出長約560cm、幅約48cm～84cm、深さ約15cm～20cmを測る。SB02のSP73に切られる。遺物は、土器小皿（25）を炭化している。

SD69（第1面）（図版28、写真図版33）

調査区西側で検出した。SD57同様、ほぼ南北方向へ延びる溝である。南北共に調査区外に延びるため、全容は不明だが、検出長約710cm、幅約80cm、深さ約10cm～15cmを測る。

SD197（第1面）（図版28、写真図版33）

調査区東側で検出した。SD57、SD69と同様、ほぼ南北方向へ延びる溝である。南北共に調査区外に延びるため、全容は不明だが、検出長約760cm、幅約80cm～120cm、深さ約5cm～10cmを測る。

SD252（第2面）（図版15・29、写真図版37）

調査区東側で検出した。若干方向が振れるが、ほぼ南北方向へ延びる溝である。遺構の北側が調査区外に延びるため、全容は不明だが、検出長約730cm、幅約30cm～60cm、深さ約10cmを測る。

SD253（第2面）（図版15・29、写真図版37）

調査区東側で検出した。若干方向が振れるが、ほぼ南北方向へ僅かにカーブしながら延びる溝である。西側の掘方がSD254と接し、沿うように同方向に延びるため、ほぼ一体の遺構と考えられる。遺構の北側が調査区外に延びるため、全容は不明だが、検出長約510cm、幅約50cm、深さ約10cmを測る。

SD254（第2面）（図版15・29、写真図版37）

調査区東側で検出した。若干方向が振れるが、ほぼ南北方向へ僅かにカーブしながら延びる溝である。東側の掘方がSD253と接し、沿うように同方向に延びるため、ほぼ一体の遺構と考えられる。遺構の北側が調査区外に延びるため、全容は不明だが、検出長約680cm、幅約110cm、深さ約6cmを測る。

第2節 遺物

福田小川原遺跡で出土した遺物については、詳細の内容を観察表〔第2表 出土遺物観察表（土器1・2）、（石器）、（金属器）〕にまとめている。従って、遺物の詳報は観察表のみで行うものとし、文章による遺物一点一点の記述は割愛する。

第4章 樹ノ上遺跡の調査成果

第1節 遺構

A-2区南は、たつの市と揖保郡太子町の市町境から太子町側にあり、遺跡の名称も、たつの市側の福田小川原遺跡から、太子町側の樹ノ上遺跡に変わるが、基本的には両遺跡共に同一の遺跡であることは、第1章 第1節で述べたところである。

従って、本稿では、敢えて遺跡の名称ではなく、調査時に呼称したA-2区南の調査区名称で記述する。

1. A-2区南の遺構 (図版2・30~33、写真図版38~44)

(1) 土坑

SK06 (図版32、写真図版40)

調査区西側で検出した。一辺約100cm~120cmの不定方形状を呈し、深さ約15cmを測る。土坑内には、僅かに大中の礫が混入する。遺物は、土師器壺(63)、須恵器椀(64)を図化している。

SK07 (図版32、写真図版40)

調査区北西壁で検出した。東側の掘方がSK06に接している。土坑の大半が調査区外に延びるため、全容は不明だが、一辺約40cmの方形状を呈すると考えられ、深さ約18cmを測る。遺物は、須恵器椀(65)を図化している。

SK09 (図版32、写真図版41)

調査区北西壁で検出した。土坑の大半が調査区外に延び、西側で大きく搅乱を受けているため、形状等は不明だが、深さ約30cmを測る。遺物は須恵器椀(66)を図化している。

SK10 (図版32、写真図版41・42)

調査区北壁で検出した。土坑の大半が調査区外に延びるため、全容は不明だが、検出長約90cm、幅約120cmの楕円形状を呈すると考えられ、深さ約45cmを測る。土坑内には、僅かに大中の礫が混入する。遺物は、土師器小皿(67)、須恵器椀(68)を図化している。

(2) 不明土坑

SX01 (図版33、写真図版42・43)

調査区北西側で検出した。直径約220cmの不定円形状を呈し、深さ約40cmを測る。土坑の北東側は搅乱を受け、西側のSX02を切っている。

SX02 (図版33、写真図版42・43)

調査区北西側で検出した。土坑の南西側は搅乱を受け、東側でSX01に切られており、全容は不明だが、直径約200cmの不定円形状を呈すると考えられ、深さ約54cmを測る。

(3) 溝

SD03 (図版 32、写真図版 44)

調査区南東隅で検出した。遺構は、南北方向で調査区外に延びると考えられるが、擾乱も受けており、全容は不明である。検出幅約180cm、深さ約25cmを測る。

第2節 遺物

福田小川原遺跡で出土した遺物については、詳細の内容を観察表〔第2表 出土遺物観察表（土器2）〕にまとめている。従って、遺物の詳報は観察表のみで行うものとし、文章による遺物一点一点の記述は割愛する。

第2表 出土物類觀察表(土器1)

福田小川原遺跡

報告番号	出土遺構	種別	器種	法量(cm)			残存	焼成	色調	胎土
				口径	器高	直径				
				(mm)	(mm)	(mm)				
1	SX01	土師器	小皿	(8.7)	1.35	(7.6)	口縁部3/8 底部2/3	やや硬質	灰	砂粒含む
2	SH02	須恵器	平瓶?	(7.5)	(7.4)		口縁部1/4	堅織	灰白	チャート含む
3	SX22 (SH03P1)	土師器	甕	(23.4)	(32.7)	腹径 (25.0)	口縁部1/2 体部1/2	やや軟質	浅黄緑	金雲母・石英・長石含む やや粗
4	SX22 (SH03P1)	土師器	甕	(26.5)	(9.8)		口縁部1/7 体部若干	軟質	浅黄緑	石英・長石含む やや粗
5	SH09	土師器	高杯?	(14.8)	(2.6)		口縁部1/5	やや軟質	灰	長石・石英含む やや粗
6	SH10	弥生土器	広口 長頸甕	(17.0)	(12.0)		口縁部1/5 底部1/4	やや軟質	灰	雲母・長石・石英含む やや粗
7	SP22	土師器	小皿	(8.0)	(1.8)		口縁部1/5 体部若干	軟質	に赤い模	砂粒含む やや粗
8	SK12	須恵器	突帯輪	(16.95)	(2.55)		口縁部若干	堅織	灰白	石英・砂粒含む
9	SK26	弥生土器	広口 長頸甕	(14.4)	(23.3)	腹径 (22.6)	口縁部2/3 口縁部完全 底部2/5	やや硬質	浅黄	チャート・長石含む やや密
10	SX11	青磁	碗		(3.25)	5.3	体部若干 底部完全	硬質	オリーブ灰	密
11	SX29	土師器	小皿	(8.5)	(1.6)		口縁部若干	やや軟質	に赤い模	砂粒含む やや密
12	SX29	須恵器	鉢	(29.6)	(4.65)		口縁部1/8	堅織	灰	チャート・長石含む 密
13	SD00	弥生土器	甕	(13.4)	(2.4)		口縁部1/8	やや硬質	に赤い模	長石・雲母・赤色鐵含む やや密
14	包含層	土師器	小皿	(8.05)	1.1	(6.05)	口縁部1/2 底部1/2	やや軟質	灰	石英・赤色鐵含む
15	包含層	白磁	皿	(11.1)	3.65	5.95	口縁部1/6 底部1/2	硬質	灰白	黒い不純物含む 密
16	包含層	土師器 (三足器)	鍋	長さ (8.8)	幅 1.9	厚み 1.9	脚部1本	やや硬質	に赤い黄緑	石英・長石含む
17	SB01 SP84	須恵器	碗	(15.9)	5.4	(6.65)	口縁部1/3 底部1/4	硬質	灰白	石英・黒色鐵・長石・チャート含む やや粗
18	SB03 SP200	須恵器	碗		(3.5)	(5.7)	底部1/3	硬質	灰	砂粒・長石含む やや粗
19	SB03 SP200	須恵器	碗		(2.5)	5.8	底部完全	硬質	灰	砂粒・石英・長石含む やや粗
20	SB03 SP201	土師器	皿	(13.4)	3.15	(7.4)	口縁部1/10 底部若干	軟質	に赤い模	砂粒・長石・雲母含む やや粗
21	SB03 SP153	須恵器	小鉢	(7.6)	3.1	3.75	口縁部1/6 底部完全	硬質	灰白	砂粒・長石含む やや粗
22	SB03 SP193	土師器	小皿	(8.0)	1.15	(6.0)	口縁部1/2 体部若干	やや硬質	に赤い黄緑	石英・長石含む やや粗
23	SB03 SP193	土師器	鍋	(30.8)	(6.7)		口縁部1/12 体部若干	やや硬質	に赤い黄緑	石英・長石含む やや粗
24	SB03 SP193	須恵器	小鉢		(3.25)	(4.4)	底部1/2	硬質灰		砂粒・長石含む やや粗
25	SD07	土師器	小皿	(7.8)	1.6	6.2	ほぼ円形	やや硬質	灰	砂粒含む 密
26	SP164	土師器	小皿	(8.3)	1.55	4.85	口縁部3/4 底無	やや硬質	灰	石英・長石・雲母含む やや粗
27	SP112	土師器	小型壺	(9.2)	8.6	(4.4)	口縁部1/4 底部1/2	やや硬質	灰	石英・長石・雲母含む やや粗
28	SX53	土師器	鍋	(34.0)	(4.8)		口縁部若干	やや軟質	に赤い黄緑	石英・雲母含む やや粗
29	SX53	土師器	鍋	(31.3)	(4.6)		口縁部1/8	やや硬質	に赤い黄緑	砂粒・雲母含む やや粗
30	SX53	土師器	鍋	(31.4)	(4.0)		口縁部若干	やや軟質	浅黄緑	長石含む やや粗
31	SX53	土師器	羽釜	(25.2)	(17.0)	腹径 (28.9)	口縁部3/5 体部3/5	やや軟質	浅黄緑	長石・石英含む やや粗
32	SX53	土師器	甕	長さ (7.3)	幅 (11.8)	厚み (4.55)	焚口若干	やや硬質	灰	石英・雲母含む やや粗
33	SX53	須恵器	鉢	(29.65)	(7.6)		口縁部1/5 体部若干	堅織	灰	雲母・砂粒含む 密
34	SX53	須恵器	甕	(30.45)	(10.4)		口縁部1/4 体部若干	硬質	灰白	長石を含む やや密

第2表 出土遺物観察表(土器1)

報告番号	調査	備考		回収番号	写真回数
		時期・分類等	出土場所		
1 内面：手回しナデ、ヨコナデ 外面：手回しナデ、指抑えで成形	つくね成形 12C後～13C?	B-1区 堆土(北壁)	34	45	
2 内面：回転ナデ、沈縫	6C末～7C初	B-2区 堆土 有り	34	45	
3 内面：ヨコナデ、縦から体面に横と縦のハケ目 外面：ヨコナデ、縦のハケ目、斜めのハケ目、スス付着	7C後半の可塑性あり 古墳後期の後半 7C初	B-2区 堆土 上部集中	34	46	
4 内面：横のナデ 外面：ヨコナデ、縦のハケ目	古墳時代後期 6C末～7C初	B-2区 堆土 上部集中	34	45	
5 内面：ヨコナデ、縦文 外面：ヨコナデ	古墳時代後期	B-2区 堆土	34	45	
6 内面：板状工具によるヨコナデ、ナデ 外面：ヨコナデ、縦のへらきぎき、ヨコナデ	弥生後期(～庄内)	B-2区 東西南北サブシンセ	34	46	
7 内面：つくね成形のため不明 外面：つくね成形のため不明	12C(～13C)	B-2区 一段下?	34	46	
8 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	11C後半～12C前後	B-2区 堆土	34	46	
9 内面：縦のビナデ、横のハケ目、縦のナデ、横のナデ、ハケ目 外面：ヨコナデ、タキのち縦方向のハケ目、タキのちハケ目、タキ	弥生後期～庄内	B-2区	34	46	
10 内面：施釉、劃花文 外面：削り出し高台、和下切り出し蓮弁文(蓮瓣弁文)	龍泉窯系青磁 (13C前半)	B-2区	34	47	
11 内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ	12C(未?)	B-2区 南畔掘削	34	51	
12 内面：回転ナデのち斜め方向によるナデす 外面：回転ナデ	12C末～13C初 13C前半～後半	B-2区 落ち込み	34	51	
13 内面：ヨコナデ、板状工具によるヨコナデ、横のハケ目 外面：ヨコナデ、板状工具によるヨコナデ、ヨコナデ、縦のハケ目	弥生時代後期?	B-2区 堆土 中央断面と南北断面間	34	52	
14 内面：ヨコナデ、ナデ 外面：ヨコナデ	13C	B-2区 マンダム沈着層 人骨顎	34	52	
15 内面：施釉のち口元?	13C後半～14C前半	B-2区 マンダム沈着層 人骨顎	34	47・52	
外面：施釉のち口元? 外面：回転糸切り					
16 外面：工具によるナデ	13C(12C後半～13C前半)	B-2区 可憐色薄済土 調査区南側 人骨顎(黄褐色土?)	34	52	
17 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、回転糸切り	12C	A-2区北 一段下?	35	47	
18 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、回転糸切りのちナデ	底部回転糸切り 12C前半	A-2区北 沈積	35	53	
19 内面：回転ナデ 外面：回転ナデのちナデ、回転糸切り	底部回転糸切り 12C前半	A-2区北 沈積	35	53	
20 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、スス付着	12C前半?	A-2区北 柱痕	35	53	
21 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、回転糸切り	底部回転糸切り 12C前半	A-2区北 新ち割り	35	47	
22 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、回転ヘラ切り	12C頃?	A-2区北 新ち方	35	53	
23 内面：横のハケ目 外面：ヨコナデ、縦のハケ目	12C後半～13C前半	A-2区北 柱痕	35	53	
24 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、回転糸切り	底部回転糸切り 12C	A-2区北 柱痕	35	53	
25 内面：ヨコナデ、ヨビオサヒで成形のちナデ 外面：ヨコナデ、ヨビオサヒで成形のちナデ	つくね成形 12C後半～13C代	A-2区北 堆土	35	47	
26 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、回転ヘラ切りのちナデ	回転台成形 12C後半～13C代	A-2区北 堆土	35	47	
27 内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、タキ目	中世(～近世)	A-2区北 充盈	35	48	
28 内面：ヨコナデ、横のハケ目 外面：ヨコナデ、縦のハケ目(ちナデ)・ユビオサヒ。スス付着	(13C?)	A-2区北 堆土	36	54	
29 内面：ヨコナデ、横のハケ目 外面：板状工具によるヨコナデ、おそらくナデ、スス付着	三足付きか? (13C?)	A-2区北 堆土(下層)	36	54	
30 内面：ヨコナデ、横のハケ目 外面：ヨコナデ、ナデ	(13C?)	A-2区北 堆土	36	54	
31 内面：ヨコナデ、横のハケ目 外面：縦貼り付けのちナデ、横のハケ目のちナデ、横のハケ目	12C末～13C初?	A-2区北	36	48	
32 内面：ヨコナデ、横の板状工具によるナデ、スス付着	(13C)	A-2区北 半壇、遺構内各個箇所	36	54	
33 内面：ヨコナデ、縦のハケ目 外面：回転ナデ、回転ナデのちヨコナデ	12C末～13C初	A-2区北 下層の底の堆土	36	54	
34 内面：ヨコナデ、横の板ナデ 外面：ヨコナデ、縦のハケ目のちヨコナデ、横のタキ	12C末～13C中葉	A-2区北 北壁より	36	49	

第2表 出土遺物観察表(土器2)

福田小川原遺跡

報告番号	出土遺構	種別	器種	法量(cm)			残存	焼成	色調	胎土
				口径	器高	底径				
35	SX53	瓦質土器	羽釜	(20.3)	(4.9)		口縁部若干 ツメ部分1/8	軟質	浅黄橙	砂粒・長石含む やや粗
36	SX53	土師器	羽釜 (三星器)	丸さ (12.0)	2.75	厚み 2.75	脚部1本	やや軟質	に赤い黄橙	石英・砂粒含む やや粗
37	SX53	瓦質土器	片口鉢		(3.2)		口縁部若干	やや軟質	灰	砂粒・雲母含む やや粗
38	SX53	白磁	皿	9.8~10.6	(2.2)		口縁部若干	硬質	灰白	素
39	SX53	瓦質製品	瓶	長さ 11.7	幅 8.5	厚み 2.5	一部大根	硬質	灰白	砂粒含む やや密
40	SX56	土師器	羽釜	(25.1)	(13.15)		口縁部若干 全体部1/4	やや硬質	に赤い黄橙	雲母・砂粒含む やや粗
41	SX56	土師器	小皿	(8.0)	1.2	(4.9)	口縁部1/4 全体部1/4	やや軟質	灰	長石・赤色粒子含む やや密
42	SX78	土師器	羽釜	(18.5)	(3.7)		口縁部1/9弱	硬質	に赤い橙	長石・雲母・赤色含む 密
43	SX78	須恵器	鉢		(3.5)		口縁部若干	堅焼	灰	石英含む やや粗
44	SX78	須恵器	甕		(8.9)		体部若干	硬質	灰	砂粒含む 密
45	SX80	土師器	鍋	(32.85)	(17.2)		口縁部1/4 全体部1/6	やや硬質	に赤い黄橙	石英・雲母含む やや粗
46	SX79	土師器	鍋	(29.0)	(10.7)		腹径 26.2	やや軟質	に赤い黄橙	チャート・石英・長石含む やや粗
47	SX79	須恵器	椀	(15.75)	5.4	6.5	口縁部1/9 底部1/4	軟質 二次施釉	灰黄	石英・チャート含む やや密
48	SX79	須恵器	椀	16.0	5.45	5.05	口縁部1/4 体部若干欠損	やや硬質	灰白	石英・チャート・長石含む 細
49	SX79	須恵器	椀	(15.7)	5.3	5.15	口縁部1/2 底部2/3	やや軟質	灰白	石英・チャート含む やや密
50	SX79	須恵器	椀	(16.0)	(4.15)		口縁部1/12	やや軟質	灰	石英・チャート・黒色粒含む
51	SX79	須恵器	小皿	(8.4)	2.55	5.25	口縁部3/7 底部2/3	やや軟質	灰白	石英・チャート含む
52	SX215	土師器	小皿	(8.6)	1.4	(6.33)	口縁部1/12 底部2/3	やや軟質	浅黄橙	長石・赤色粒含む 密
53	SX215	須恵器	碗		(1.75)	(6.05)	底部1/4	やや硬質	灰白	砂粒含む 密
54	SX215	白磁	碗	(14.6)	(3.6)		口縁部1/8	堅焼	灰白	精良 密
55	SX227	土師器	鍋	(38.8)	(6.15)		口縁部1/10	やや硬質	に赤い褐	砂粒・石英・長石・チャート・雲母含む 粗
56	SX227	土師器	鍋	(36.1)	(6.55)		口縁部若干	やや硬質	に赤い褐	砂粒・石英・長石・チャート・雲母含む 粗
57	SX227	土師器	鍋	(32.9)	(5.4)		口縁部若干	やや軟質	に赤い褐	砂粒・石英・長石・チャート・雲母含む 粗
58	SX227	土師器	羽釜		(3.45)					砂粒・石英・長石・チャート含む 粗
59	SX227	須恵器	碗	(14.1)	(3.6)		口縁部1/7	軟質	灰白	砂粒・長石・チャート含む 粗
60	SX227	須恵器	碗		(1.95)	5.8	底部1/10未完	硬質	灰	砂粒・石英・長石含む やや粗
61	SX244	土師器	鍋	(33.1)	(7.4)		口縁部1/8	やや軟質	に赤い橙	石英・チャート・砂粒含む やや粗
62	SX250	青磁	碗		(2.7)	4.6	底部完存	堅焼	オリーブ灰	素

桶ノ上遺跡

報告番号	出土遺構	種別	器種	法量(cm)			残存	焼成	色調	胎土
				口径	器高	底径				
63	SK06	土師器	壺		(1.9)	6.1	体部若干 底部1/2	硬質	に赤い褐	石英・長石・雲母含む
64	SK06	須恵器	椀		(2.6)	6.0	体部若干 底部1/2	やや軟質	灰白	砂粒含む やや密
65	SK07	須恵器	椀	(14.1)	(3.15)		口縁部1/5 体部若干	硬質	灰白	砂粒含む やや密
66	SK09	須恵器	椀	13.8	5.7	5.7	口縁部2/3 底部1/2	軟質	灰白	砂粒含む やや密
67	SK10	土師器	小皿	(9.0)	1.55	5.6	口縁部1/2弱 底部1/2未完	やや軟質	橙	長石・石英・砂粒含む
68	SK10	須恵器	椀		(2.95)	(5.2)	体部若干 底部1/2	硬質	灰白	砂粒含む 密
69	包含層	須恵器	椀	(12.8)	(4.35)		口縁部1/8 体部若干	硬質	灰白	砂粒含む

第2表 出土遺物観察表(土器2)

報告番号	調整	備考		図版番号	写真図版
		時期・分類等	出土場所		
35	内面:ヨコナヂ、ケズリ? 外側:ヨコナヂ、鉗貼り付け	三足付きか? (13C?)	A-2区北 塗土(下層)	36	54
36	外側:歯のナヂ	(13C?)	A-2区北 塗土(Y層)	36	54
37	内面:ヨコナヂ 外側:ヨコナヂ?		A-2区北 下層の塗土の堆土	36	54
38	内面:施釉のちロ丸げ 外側:施釉のちロ丸げ	13C後半~14C前半	A-2区北 塗土(下層) 東側	36	54
39	外側:板状工具による丁寧なヨコナヂ		A-2区北	36	49
40	内面:横のハケ目 外側:ヨコナヂ、鉗貼り付けのちナヂ。縦と横のハケ目、スス付番	12C後半~13C前半	A-2区北 塗土内	35	48
41	内面:ナヂ 外側:ナヂ	てづくね底形 (13C?)	A-2区北 塗土中	35	48
42	内面:横のハケ目 外側:ヨコナヂ、鉗貼り付けのちナヂ。板状工具によるナヂ、ヨコナヂ、スス付番	(13C?)	A-2区北 塗土	35	55
43	内面:回転ナヂ、回転ナヂのちナヂ消し 外側:回転ナヂ	12C末~13C初	A-2区北 塗土内	35	55
44	内面:横のヨコナヂ 外側:格子目タタキ	亀山焼?	A-2区北 塗土(33224, 225, 226青石?)	35	55
45	内面:横のハケ目 外側:ヨコナヂ、横のハケ目、縦のハケ目、ナヂ。縦のハケ目、横のハケ目	(13C~13C?)	A-2区北 塗土	35	49
46	内面:板状工具による横のナヂ一部ハケ痕残る 外側:ヨコナヂ、横のハケ目、縦のハケ目のも横のユビオサエ	12C後半?	A-2区北 直構内土坑	37	56
47	内面:回転ナヂ 外側:回転ナヂ、回転糸切り	12C	A-2区北 塗土(畔内)	37	56
48	内面:回転ナヂ 外側:回転ナヂ、回転糸切り	12C (後半?)	A-2区北 直構内土坑	37	56
49	内面:回転ナヂ 外側:回転ナヂ、回転糸切りか?	12C	A-2区北 直構内土坑	37	56
50	内面:回転ナヂ 外側:回転ナヂ	12C	A-2区北 直構内土坑	37	56
51	内面:回転ナヂ 外側:回転ナヂ、回転糸切り	12C (前半?)	A-2区北 直構内土坑	37	56
52	内面:回転ナヂ 外側:回転ナヂ、回転ヘラ切りのちナヂ	12C中葉~13C初	A-2区北 塗土	37	57
53	内面:回転ナヂ 外側:回転ナヂ、回転糸切り	12C末~13C初	A-2区北 塗土	37	57
54	内面:施釉 外側:施釉、一部剥離	11C後半~12C前半 (～後半)	A-2区北 塗土	37	57
55	内面:板状工具によるナヂ 外側:ヨコナヂ、ハケ目のちヨコナヂ・ユビオサエ	(12C?)	A-2区北 塗土 石あり	37	58
56	内面:板状工具によるナヂ 外側:ヨコナヂ、ヨコナヂ・ユビオサエ、縦のハケ目	(12C?)	A-2区北 塗土中	37	58
57	内面:板状工具によるナヂ 外側:ヨコナヂ・ユビオサエ	(12C?)	A-2区北 塗土(南東隅)	37	58
58	内面:ヨコナヂ 外側:鉗貼り付けのちヨコナヂ、ナヂ	10C後半~11C初	A-2区北 塗土 石あり	37	58
59	内面:回転ナヂ 外側:回転ナヂ	備他系? (12C~13C?)	A-2区北 半蔵(堆土)	37	58
60	内面:回転ナヂ 外側:回転ナヂ、回転糸切りのちナヂ	12C代	A-2区北 塗土 石あり	37	58
61	内面:板状工具による横のナヂ 外側:ヨコナヂ、縦のハケ目	12C (後半?)	A-2区北 塗土	37	59
62	内面:施釉、界線2条: 見込みに印花文 外側:施釉、露胎・削り出し高台、露胎文 (幅広片切金継巻文?)	13C (後半?)	A-2区北 塗土	37	51

報告番号	調整	備考		図版番号	写真図版
		時期・分類等	出土場所		
63	内面:回転ナヂ 外側:回転ナヂ、回転ヘラ切り・回転ヘラオコシのち板状工具でナヂ	平安後葉期? (11C後半~12C?)	A-2区南	39	63
64	内面:回転ナヂ 外側:回転ナヂ、回転ヘラ切り	ヘラ切り平行台 粘 10C半ば?	A-2区南	39	63
65	内面:回転ナヂ 外側:回転ナヂ	9C半ば?	A-2区南 塗土	39	62
66	内面:回転ナヂ 外側:回転ナヂ、回転糸切り	糸切り平行台 粘 9C後半~10C前半	A-2区南 塗土	39	62
67	内面:回転ナヂ 外側:回転ナヂ、回転ヘラ切り	11C後半~12C前半?	A-2区南	39	62+64
68	内面:回転ナヂ 外側:回転ナヂ、回転糸切り	糸切り平行台 粘 (11C後半~12C前半?)	A-2区南	39	64
69	内面:回転ナヂ 外側:回転ナヂ	粘 (12C後半?)	A-2区南 直構内側出張 人力掘削	39	62

第2表 出土遺物観察表(石器)

福田小川原遺跡

報告 番号	出土場所	出土遺構	種別	器種	法量(cm)				備考	図版 番号	写真 図版
					長さ	幅	厚み	重さ(g)			
S1	B-2区	SH02	石製品	台石	42	18.25	16.9	20200.0	花崗岩	38	59
S2	B-2区	SH02	石製品	砥石	(7.4)	(4.6)	1.9	78.6	燧灰岩製?	38	59
S3	B-2区	SH02	石製品	印石か石鑿	8.3	4.3	3.2	182.9	花崗岩製?	38	59
S4	A-2区北	SK78	石製品	石鑿	口径 (15.1)	前高 (4.6)	ツバ深 (17.8)	92.0	滑石製	35	59

橋ノ上遺跡

報告 番号	出土場所	出土遺構	種別	器種	法量(cm)				備考	図版 番号	写真 図版
					長さ	幅	厚み	重さ(g)			
S5	A-2区南	SK10	石製品	砥石	31.7	16.15	11.85	8410.0	チャート製?	39	65
S6	A-2区南	SK10	石製品	不明	24.9	17.2	6.6	2660.0	花崗岩製?	39	65

第2表 出土遺物観察表(金属器)

福田小川原遺跡

報告 番号	出土場所	出土遺構	種別	器種	法量(cm)				備考	図版 番号	写真 図版	
					長さ	幅	厚み	重さ(g)				
M1	B-1区	SK01	鉄製品	釘	(3.25)	0.9	0.45	2.5	環巻釘	38	60	
M2	B-2区	包含層	鉄製品	釘	(4.6)	(1.9)	(0.55)	0.3	1.4	切釘?	38	60
M3	A-2区北	SK53	鉄製品	釘	4.0	(0.95)	(0.6)	0.5	2.0	角釘	38	60
M4	A-2区北	SK78	鉄洋	鉄洋	4.7	5.2	1.6	44.7		38	60	
M5	A-2区北	SK227	鉄製品	不明	3.15	1.5	1.2	7.6	再利用釘? 鋼の素材か?	38	60・61	

第5章 自然科学分析

第1節 福田小川原遺跡出土炭化材等の放射性炭素年代測定について

バレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・加藤和浩・廣田正史・佐藤正教・山形秀樹・Zaur Lomtadze・辻 康男

1.はじめに

兵庫県たつの市誉田町の福田小川原遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは第3表のとおりである。測定試料を写真1~4に示す（第9図）。

試料は調製後、加速器質量分析計（バレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、曆年代を算出した。

第3表 測定試料および処理

測定番号	道路データ	試料データ	前処理
PLD-46785	試料No.1 調査区：A-2区北 直標：SX53 層位：埋土（上層）レキ周辺 調査番号：2019066	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L、 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L、塩酸：1.2 mol/L）
PLD-46786	試料No.2 調査区：A-2区北 直標：SX79内土坑 調査番号：2019066	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L、 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L、塩酸：1.2 mol/L）
PLD-46787	試料No.3 調査区：A-2区北 直標：SX251 層位：東西トレンチ南側 調査番号：2019066	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L、 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L、塩酸：1.2 mol/L）
PLD-46788	試料No.4 調査区：A-2区北 直標：SX251 層位：埋土（斜縫鉢） 調査番号：2019066	種類：土壤（炭化粘土） 状態：dry	粗式簡分：106 μm 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L、 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L、塩酸：1.2 mol/L）

3. 結果

第4表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ¹³C）、同位体分別効果の補正を行って曆年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、第10図に曆年較正結果をそれぞれ示す。曆年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後曆年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて曆年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代(yrBP)の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差(±1σ)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.27%であることを示す。



写真 1 試料 No. 1 (PLD-46785)



写真 2 試料 No. 2 (PLD-46786)



写真 1 試料 No. 3 (PLD-46787)



写真 4 試料 No. 4 (PLD-46788)

第9図 測定試料写真

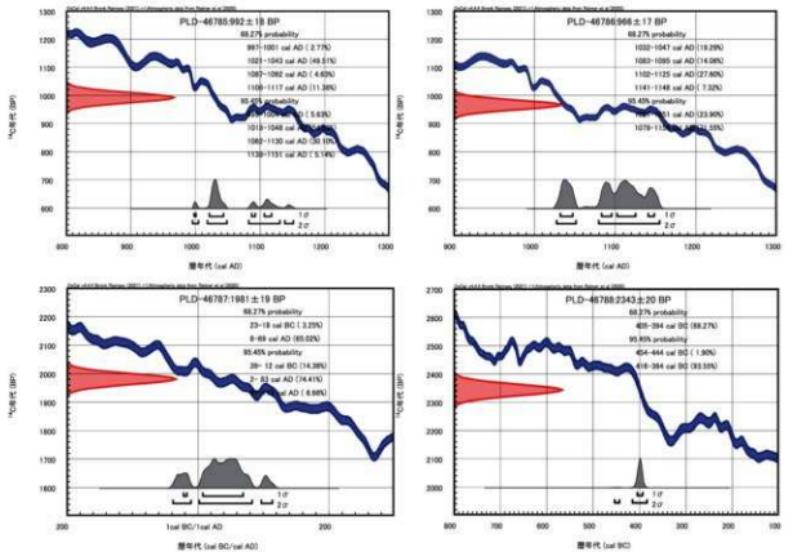
なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.4 (較正曲線データ : IntCal20) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、 $0\times\text{Cal}$ の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.27% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.45% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年

第4表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{14}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
PLD-46785 試料No. 1	-27.39 ± 0.29	992 ± 18	990 ± 20	997-1001 cal AD (2.77%) 1021-1043 cal AD (49.51%) 1087-1092 cal AD (4.63%) 1106-1117 cal AD (11.36%)	995-1004 cal AD (5.63%) 1018-1048 cal AD (54.58%) 1082-1130 cal AD (30.10%) 1138-1151 cal AD (5.14%)
PLD-46786 試料No. 2	-27.46 ± 0.27	966 ± 17	965 ± 15	1032-1047 cal AD (19.29%) 1083-1095 cal AD (14.06%) 1102-1125 cal AD (27.60%) 1141-1148 cal AD (7.32%)	1027-1051 cal AD (23.90%) 1079-1155 cal AD (71.55%)
PLD-46787 試料No. 3	-29.24 ± 0.32	1981 ± 19	1980 ± 20	23-18 cal BC (3.25%) 8-69 cal AD (65.02%)	39- 12 cal BC (14.38%) 2- 83 cal AD (74.41%) 97-113 cal AD (6.66%)
PLD-46788 試料No. 4	-23.78 ± 0.32	2343 ± 20	2345 ± 20	405-394 cal BC (68.27%)	454-444 cal BC (1.90%) 416-384 cal BC (93.55%)



第10図 歴年較正結果

代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C年代の確率分布を示し、二重曲線は歴年較正曲線を示す。

4. 考察

A-2北の遺構から採取された試料4点の測定結果(以下の較正年代は 2σ の値)は、試料No.1(SX53; PLD-46785)の¹⁴C年代が 990 ± 20 BP、較正年代が995-1004 cal AD (5.63%)、1018-1048 cal AD (54.58%)、1130 cal AD (30.10%)、1138-1151 cal AD (5.14%)で10世紀末~12世紀中頃、試料No.2(SX79内土壌; PLD-46786)の¹⁴C年代が 965 ± 15 BP、較正年代が1027-1051 cal AD (23.90%)および1079-1155 cal AD (71.55%)で11世紀前半~12世紀中頃である。

SX251から採取された試料は、炭化材片の試料No.3(PLD-46787)の¹⁴C年代が 1980 ± 20 BP、較正年代が39-12 cal BC (14.38%)、2-83 cal AD (74.41%)、97-113 cal AD (6.66%)で紀元前1世紀後半~紀元後2世紀前半、土壤(炭化粘土)の試料No.4(PLD-46788)の¹⁴C年代が 2345 ± 20 BP、較正年代が454-444 cal BC (1.90%)および416-384 cal BC (93.55%)で紀元前5世紀中頃~紀元前4世紀前半である。

古墳時代以降の時期区分に関して児玉編(2018)ふまると、試料No.1とNo.2は、ともに平安時代中期~後期に対比される。また、弥生時代~古墳時代前期の土器型式および時期区分と歴年代の関係について森岡ほか(2016)と若林(2018)ふまると、試料No.3が弥生時代中期後半~後期後半、試料No.4が弥生時代前期に対比される。

なお、木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる(古木効果)。今回の試料では、炭化材片の試料No.1~No.3は最終形成年輪の確認できない部位不明の木片である。したがって、測定結果

は古木効果の影響を受けている可能性があり、その場合、木が実際に枯死もしくは伐採されたのは測定結果よりもやや新しい年代と考えられる。

引用・参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 児玉幸多編 (2018) 標準日本史年表. 66p, 吉川弘文館.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の¹⁴C年代編集委員会編
「日本先史時代の¹⁴C年代」: 3-20, 日本第四紀学会.
- 森岡秀人・三好 玄・田中元浩 (2016) 総括. 古代学研究会編「集落動態からみた弥生時代から古墳時代への社会変化」: 335-398, 六一書房.
- Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Soutter, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). *Radiocarbon*, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)
- 若林邦彦 (2018) 近畿地方弥生時代諸土器様式の歴年代—石川県八日市地方遺跡の研究成果との対比—. 同志社大学考古学研究室編「同志社大学考古学シリーズX II 実証の考古学 松藤和人先生退職記念論文集」: 119-129, 同志社大学考古学研究室.

第2節 福田小川原遺跡出土人骨について

藤田 尚 (バレオ・ラボ)

1. はじめに

福田小川原遺跡から出土した人骨の鑑定結果を報告する。人骨は、B-1 区の遺構 SX01 から出土した試料であり、骨 B-1、骨 A (第11図、第5表) と記載されている。

2. 人骨の所見

骨 B-1は、ヒト大腿骨であると判断される。理由として、大腿骨の粗線が認められることが決め手となる (写真2)。その他、同位置からの骨片も、大腿骨の破片と思われる (写真1)。性別は不明である。年齢は成人期以降の個体と推定された (写真1および2)。

同様に、同地点から、骨Aとして取り上げられた骨が、割れて変形した状態で出土している。かなり太い長管骨であることは確かであり、大腿骨、脛骨、上腕骨などの骨体部分であることがまず推測された。そこで発掘時の図面を参照すると、上記の大腿骨と並列して出土しており、そのことから大腿骨である可能性が最も高い。性別は不明である。年齢は成人以降の個体であろう (写真3)。なお、頭位が北であることを前提と判断した場合、骨 B-1は右大腿骨、骨 Aは左大腿骨と推定できる。南に頭位が位置していた場合、左右の大腿骨は逆となる。

同位置から、3片の骨片 (骨B-3～5) が出土しているが、恐らくは上記大腿骨 (骨B-1) の一部と判断された (写真4)。

福原小川原遺跡の骨B-1として小瓶中の骨は、同所からの取り上げであれば、ヒトの骨の可能性が高い。しかし、余りにも小骨片なことから、部位等判別はできない (写真5)。

3.まとめ

B-1区から出土した骨は、左右ヒト大腿骨骨体部であると判断された。発掘時の図面を参照すると、SX01が墓壙とすれば西方の比較的狭い場所から出土しており、その場合、全身の骨格が埋葬域に收まらなかつたと考えられる。左右の大腿骨が並列して出土しており、火葬の痕跡もないことから、再葬とは考えにくい。以上のことから、本遺跡出土人骨から得られる情報は限られるが、埋葬形態の点からは、同地域の鎌倉時代の埋葬方法を知る手掛かりが得られる点で、貴重な事例であると言えよう。

第5表 福田小川原遺跡出土人骨鑑定結果

調査番号	地区	遺構	試料番号	分類群	部位	左右	状態	備考	写真
2019066	B-1	SX01	骨B-1	ヒト	大腿骨	右?	破片	大腿骨、成人期以降と推定	写真1
2019066	B-1	SX01	骨B-2	ヒト	大腿骨	右?	破片	粗線のある破片あり成人期以降	写真2
2019066	B-1	SX01	骨A	ヒト	大腿骨	左?	破片	大腿骨がつぶれた状態	写真3
2019066	B-1	SX01	骨B-3～5	ヒト	大腿骨	—	破片	大腿骨片と思われる	写真4
2019066	B-1	SX01	骨B-1	ヒト	微小骨片	—	小破片	部位は分からぬ	写真5

参考文献

White, TD. and Folkens, PA. (2005) The Human Bone Manual. Academic Press, Elsevier, Tokyo.

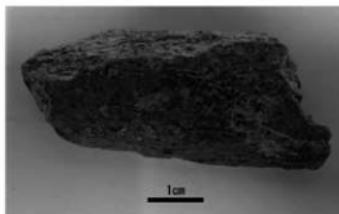


写真1. 骨B-1 大腿骨骨体部（右側？）

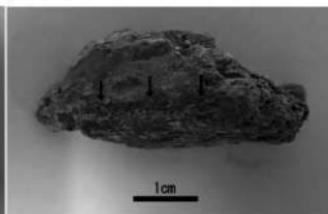


写真2. 骨B-2 大腿骨粗線（右側？）矢印は粗線

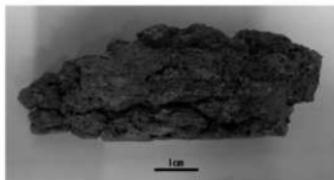


写真3. 骨A 大腿骨骨体部（左側？）

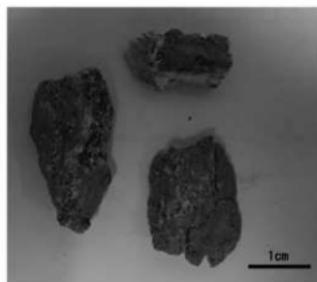


写真4. 大腿骨の骨片と思われる小さな骨（骨B-3～5）

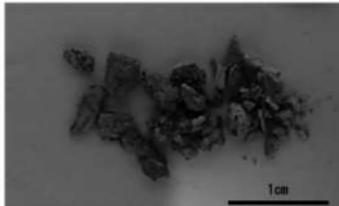


写真5. 骨B-1 の部位の判別が不可能な微小骨片

第11図 鑑定出土人骨写真

第6章　まとめ

この度の福田小川原遺跡及び樋ノ上遺跡の調査では、A-1区・B-1区において1面、B-2区において4面（第1面上層・第1面・第2面上層・第2面）、A-2区北において2面（第1面・第2面）、A-2区南において1面を調査した。

その結果、各遺構面検出遺構の埋没状況から想定される遺構面の相関関係、同一遺構面での遺構の切り合い関係、及び出土遺物の時期（図化できなかった遺物も含む）から、概ね弥生時代後期から鎌倉時代頃までの遺跡であることが判明した。

本章では、代表的な遺構、及び出土遺物等から各時代、時期毎のまとめを行う。

弥生時代前期～

当該時期の遺物は出土しておらず、明確な遺構も検出されていない。しかしながら、A-2区北第2面のSK251で採取した炭化材、及び炭化粘土試料を、放射性炭素年代測定法（AMS）による分析を行った結果、炭化材が紀元前1世紀後半～紀元後2世紀前半（弥生時代中期後半～後期後半）、炭化粘土が紀元前5世紀中頃～紀元前4世紀前半（弥生時代前期）という値を示した。試料の測定年代には、相当の幅があるものの、周辺遺跡の状況を考慮すれば、当該時期の遺構、遺物が存在する可能性が高いと考えられる。

弥生時代後期

B-2区第2面 SK27、SD30 が相当すると考えられる。SD30 では弥生土器壺（13）が出土している。SK27 と SD30 は切り合い関係にあるが、ほぼ同時期に埋没したと考えられる。

弥生時代後期後半～庄内式期

B-2区第1面 SH10、SK26、第2面上層 SK51 が相当すると考えられる。SH10 では弥生土器広口長頸壺（6）が、SK26 でも弥生土器広口長頸壺（9）が出土している。SK51は、SH10床面直下層で検出しており、若干古相を呈する。また、SK26 は、SH10 を切るが、ほぼ同時期に掘えられる。

古墳時代後期後半

B-2区第1面 SH03、SH03内のSX22が相当すると考えられる。SH03は、SH02に切られる。SH03内 SX22 では土師器壺（3・4）が出土している。

古墳時代後期末～飛鳥時代

B-2区第1面 SH09、SH02 が相当すると考えられる。SH09 は、SD30 の埋土を掘り込む以外は、他の遺構との切り合い関係はない。SH09では土師器高杯（5）が出土している。また、SH02は、SH03を切っているが、位置的にも大きく後出する時期ではないと考えられる。SH02では須恵器平瓶？（2）が出土している。

平安時代前期～後期

A-2区南（樋ノ上遺跡）検出の遺構が相当すると考えられる。主な遺構は、SK06、SK07、SK09、SK10 等があげられる。それぞれの遺構には、切り合い関係は見られない。SK06では土師器壺（63）、須恵器碗（64）が、SK07では須恵器碗（65）が、SK09では須恵器碗（66）が、SK10では土師器小皿（67）、須恵器碗（68）が出土している。

平安時代末～鎌倉時代

A－1区・B－1区、B－2区第1面上層・第1面、A－2区北第1面検出の遺構が相当すると考えられる。

A－2区北第1面の主な遺構は、SB01、SB03、SX53、SX79、SX215、SX227、SD57等があげられる。SB01では須恵器椀（17）が出土している。SB03では須恵器椀（18・19・21・24）、土師器皿（20・22）が、SX53では土師器鍋（28・29・30）、土師器羽釜（31・36）、土師器甕（32）、須恵器鉢（33）、須恵器甕（34）、瓦質土器羽釜（35）、瓦質土器片口鉢（37）、白磁皿（38）、瓦質甕（39）等が出土している。SX79では土師器鍋（46）、須恵器椀（47・48・49・50）、須恵器小皿（51）が出土している。SX215では土師器小皿（52）、須恵器椀（53）、白磁碗（54）が出土している。SX227では土師器鍋（55・56・57）、土師器羽釜（58）、須恵器椀（59・60）が出土している。SD57では土師器小皿（25）が出土している。

B－2区第1面の主な遺構は、SP32、SK12、SX29があげられる。SP32は、SD30の上面にあり、須恵器小皿（7）が出土している。SK12は、SD30の上面にあり、須恵器突帶椀（8）が出土している。SX29は、SD30を切り、第1面上層のSX11に切られ、土師器小皿（11）、須恵器鉢（12）が出土している。第1面上層のSX11はSX29を切り、青磁碗（10）が出土している。

A－1区・B－1区のSX01墓壙から土師器小皿（1）が出土している。

当該時期は、検出した遺構数も多く、内容も多岐にとんでおり、本遺跡の中心的な時期と考えられるが、遺構の時期は、概ね A－2区北から B－1区へ向けて移行する傾向にある。

鎌倉時代～

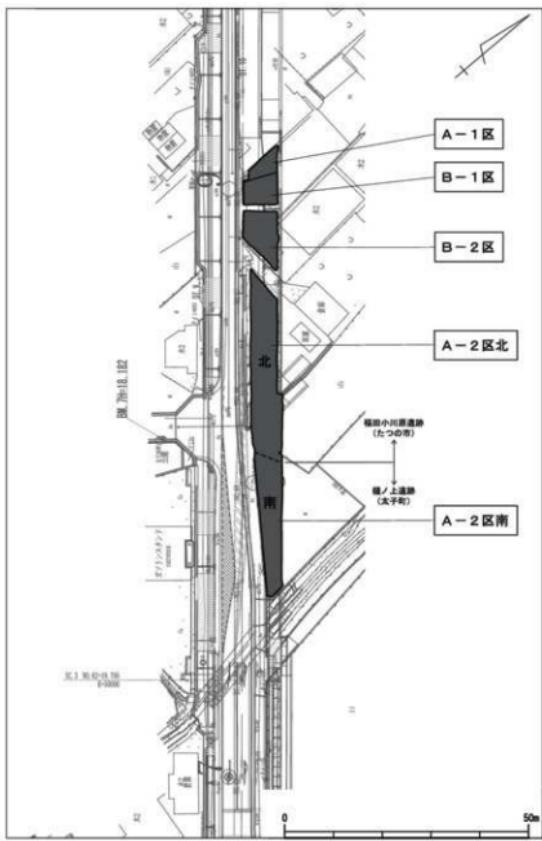
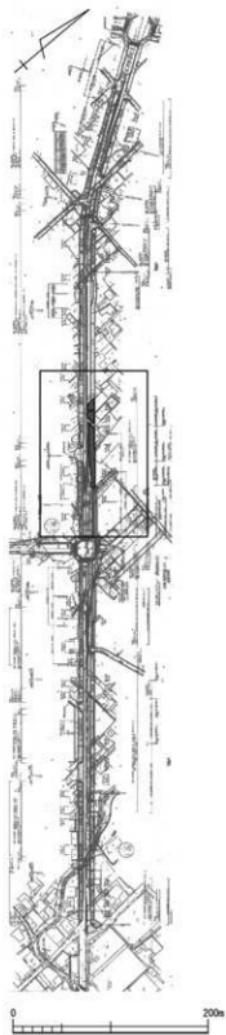
当該時期として明確に指し示すものはないが、A－2区北第1面SB02をあげる。隣接する掘立柱建物SB01、SB03と主軸を異にしており、両建物と同方向に延びる溝SD57、SD69を切っており、A－2区北で検出した遺構よりも後出する可能性が高いと考えられる。

おわりに

以上、出土遺物も含めて本発掘調査で検出した遺構の時期の推移をまとめた。両遺跡は、同一の遺跡であり、途中断絶する時期があるものの、弥生時代後期から鎌倉時代にいたるまで存在していることが確認できた。遺構は、弥生時代後期から飛鳥時代までは、福田小川原遺跡北側を中心に展開する。平安時代前半には樋ノ上遺跡側に一旦南下し、平安時代後半以降は、徐々に北上して、再び福田小川原遺跡側を中心へ展開し、集落としてのピークを迎える、という推移を辿るようである。

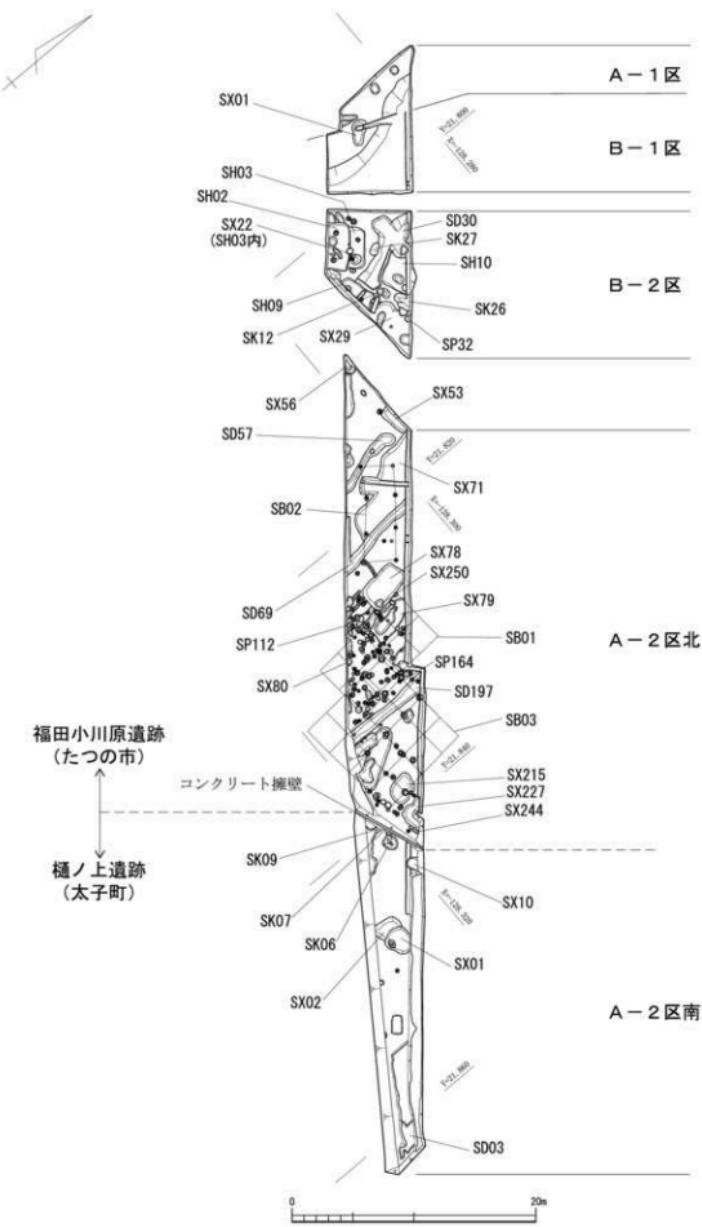
この度の調査は、調査区幅がやや狭小であったこともあり、得られた情報も限られたものであった。しかしながら、その様な状況にあっても、条里と軸を同じくする掘立柱建物や溝等の遺構が検出されたことは、当該時期の鷦鷯の名残を窺わせる。また、弥生時代後期から鎌倉時代に至る遺構、遺物が認められたことは、周辺の遺跡の状況を踏まえて、本地域の歴史を考える上で、それを補完するものと言えよう。

図 版

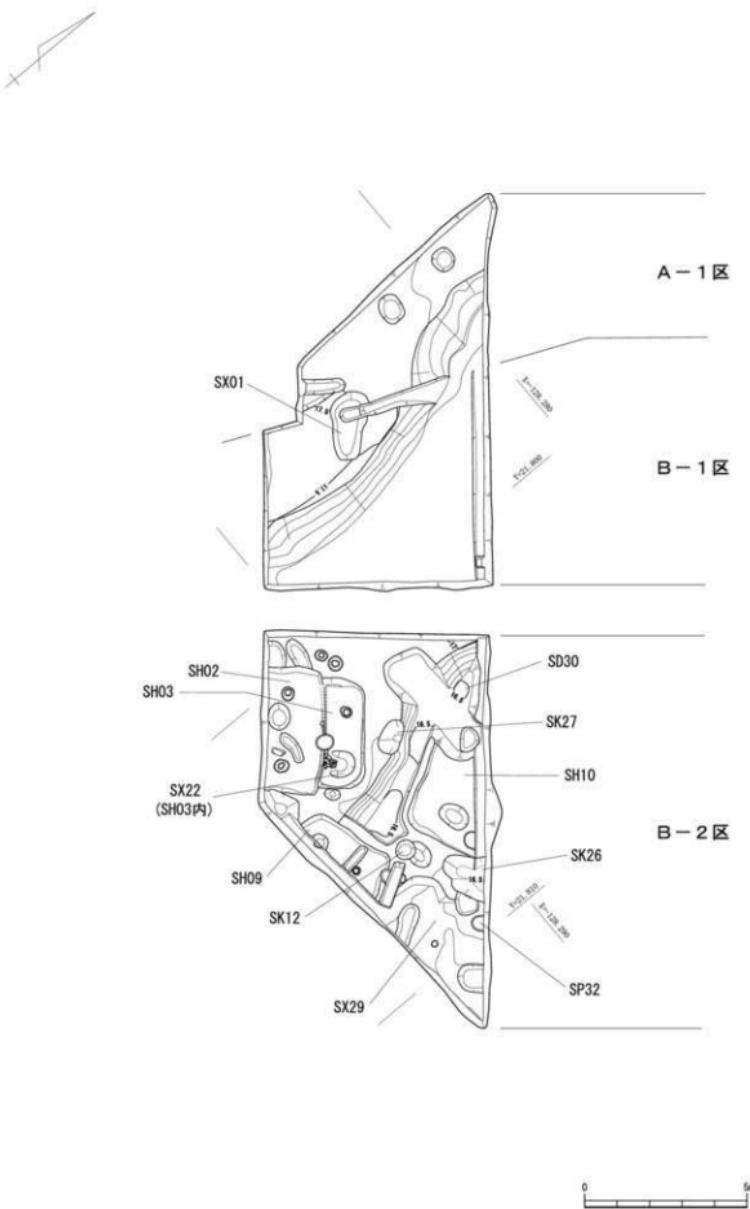


図版2

福田小川原遺跡・樋ノ上遺跡



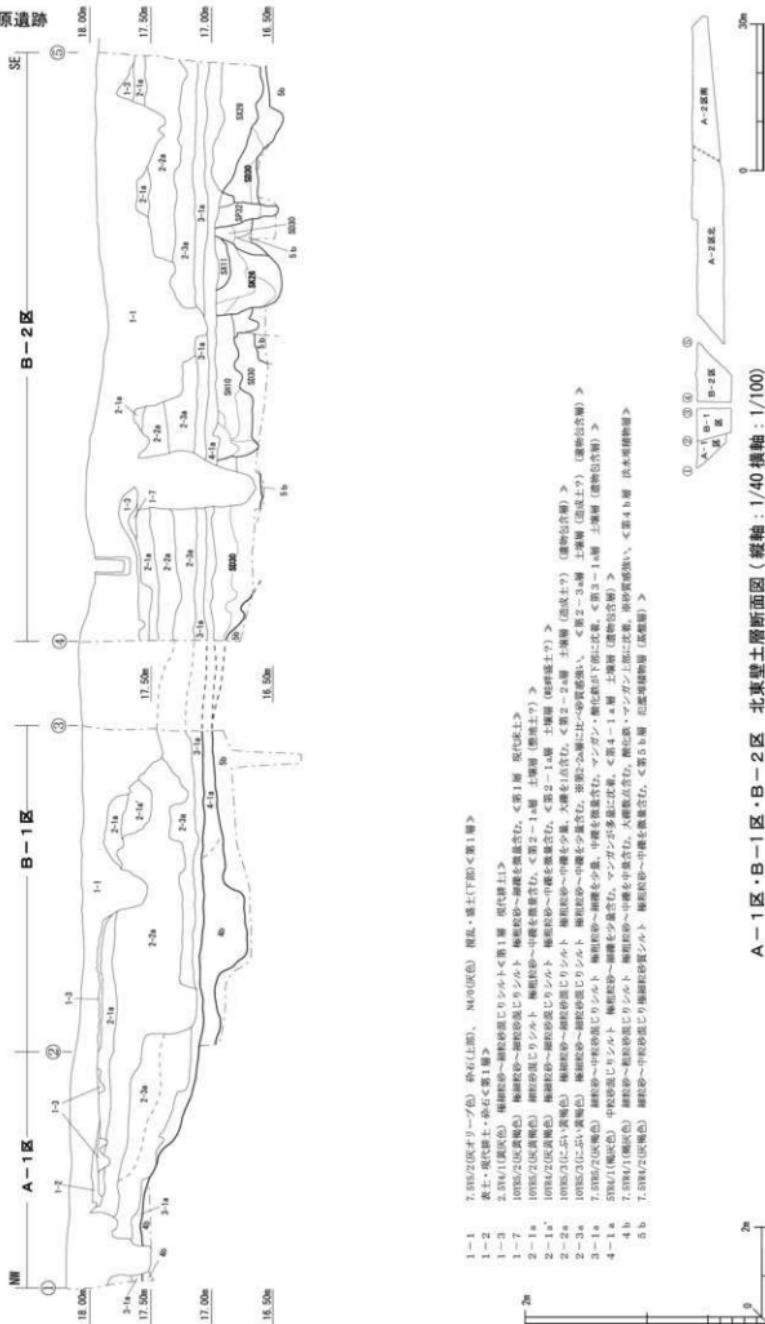
調査区全体平面図



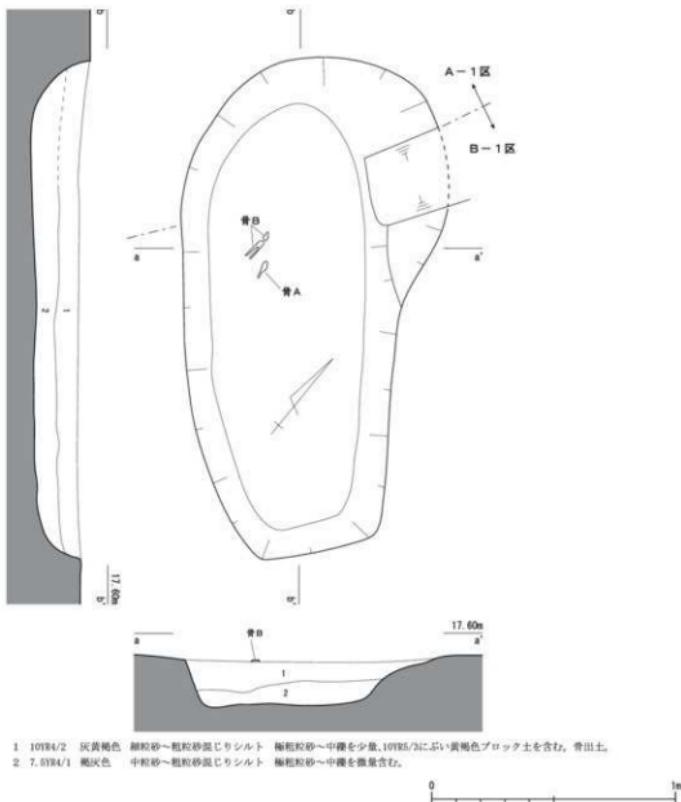
A - 1 区・B - 1 区・B - 2 区（第 1 面）遺構配置図

图版 4

福田小川原遺跡



A-1区・B-1区
SX01

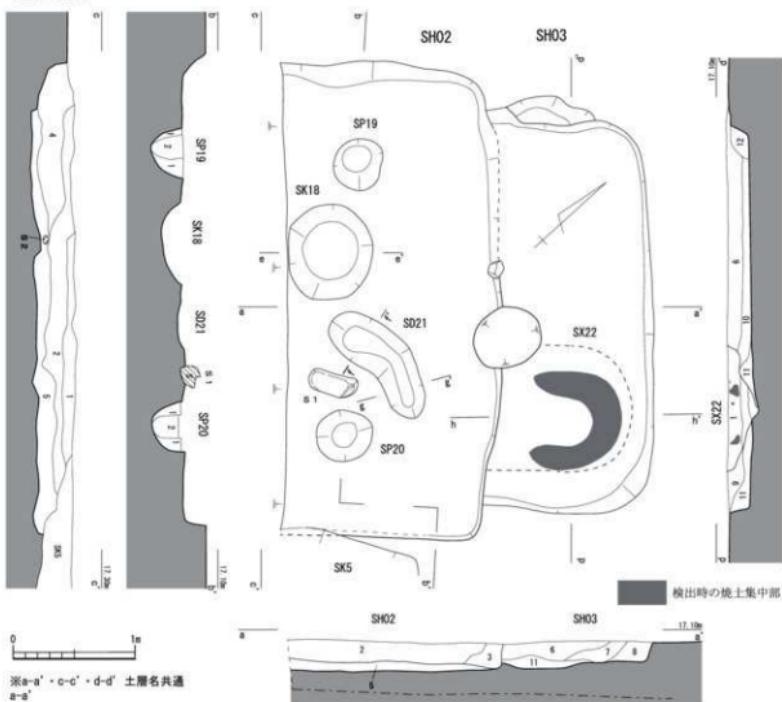


A-1区・B-1区 SX01 平面図・断面図

図版6

福田小川原遺跡

B-2区
SH02・SH03



※a-a'・c-c'・d-d' 土層名共通

a-a'

SH02

2. 5TR3/1 黒褐色 細粒砂～粗粒砂混じりシルト。細粒砂～中礫を少量、中礫を微量、大礫を数点含む。10TR3/3にぶつ、黄褐色ブロック土を多量含む。

3. 7.SYR4/2 灰褐色 中粒砂混じりシルト。細粒砂～中粒を少量、10YSR5/3にぶつ、黄褐色ブロック土を少量含む。

5. 10YR4/2 灰黃褐色 細粒砂～中粒砂混じりシルト。細粒砂～中粒を少量、中礫を微量、10YSR5/3にぶつ、黄褐色ブロック土を少量含む。

SH03

6. 7.SYR4/2 灰褐色 中粒砂～粗粒砂混じりシルト。細粒砂～中礫を含む。10YSR5/3にぶつ、黄褐色ブロック土を含む。

7. 7.YR4/2 灰褐色 中粒砂～粗粒砂混じりシルト。細粒砂～中礫を含む。中礫を微量、10YSR5/3にぶつ、黄褐色ブロック土を少量含む。

8. 7.SYR5/2 灰褐色 中粒砂～粗粒砂混じりシルト。細粒砂～中礫を含む。中礫を微量、10YSR5/3にぶつ、黄褐色ブロック土を少量含む。

11. 7.SYR5/2 灰褐色 中粒砂混じりシルト。細粒砂～中粒を少量、中礫を微量、10YSR5/3にぶつ、黄褐色ブロック土を微量含む。

b-b'

SP19

1. 7.SYR4/1 黒褐色 細粒砂～中粒砂混じりシルト。細粒砂～細粒を少量。10YSR5/3にぶつ、黄褐色ブロック土を含む。

2. 10YR4/2 灰黃褐色 細粒砂～中粒砂混じりシルト。細粒砂～細粒を少量。10YSR5/3にぶつ、黄褐色ブロック土を少量含む。

c-c' (調査区南壁土層断面)

SH02

1. 7.TYR3/2 黒褐色 粗粒砂～中粒砂混じりシルト。細粒砂～中礫を微量含む。

2. 5TR1/1 黑褐色 細粒砂～粗粒砂混じりシルト。細粒砂～中礫を少量、中礫を微量、大礫数点含む。10YSR5/3にぶつ、黄褐色ブロック土を多量含む。

4. 7.TYR5/2 灰褐色 粗粒砂～中粒砂混じりシルト。細粒砂～粗粒砂～細粒～中礫を微量含む。

5. 10YR4/2 灰黃褐色 粗粒砂～中粒砂混じりシルト。細粒砂～中礫を微量、中礫を微量、10YSR5/3にぶつ、黄褐色ブロック土を少量含む。

d-d'

SH03

6. 7.SYR4/2 灰褐色 中粒砂～粗粒砂混じりシルト。細粒砂～中礫を含む。10YSR5/3にぶつ、黄褐色ブロック土を含む。

9. 7.SYR4/2 黑褐色 中粒砂混じりシルト。10YSR5/3にぶつ、黄褐色ブロック土を少量、粗粒砂～中礫を少量。後、土塊を形成。マンガンを少量含む。

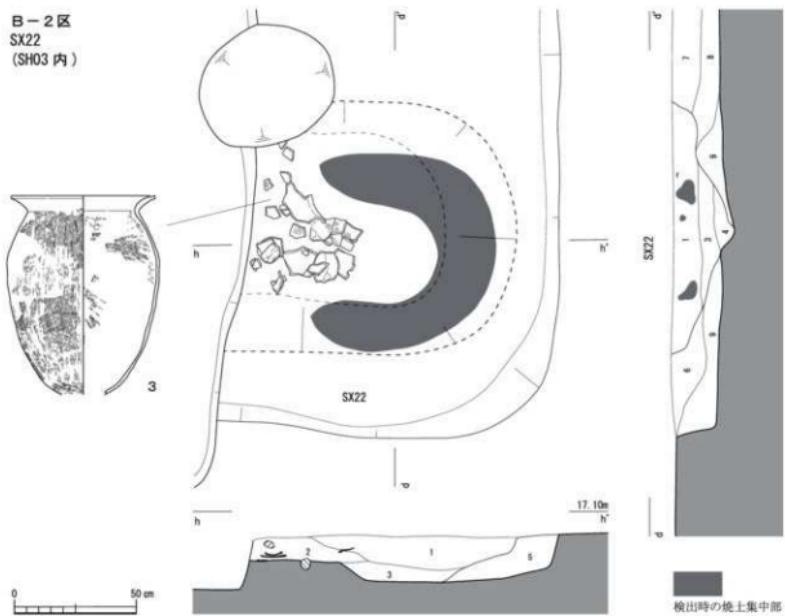
10. 10YR4/2 灰黃褐色 中粒砂混じりシルト。10YSR5/3にぶつ、黄褐色ブロック土を少量、中礫を少量。細粒砂～中粒砂微量含む。

11. 7.SYR5/2 灰褐色 中粒砂混じりシルト。細粒砂～中粒を少量、中礫を微量、10YSR5/3にぶつ、黄褐色ブロック土を微量含む。

12. 7.SYR4/1 黑褐色 中粒砂混じりシルト。10YSR5/3にぶつ、黄褐色ブロック土を含む。中礫～細粒を少量含む。

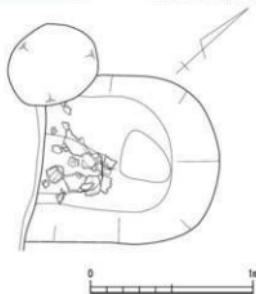
B-2区(第1面) SH02・SH03平面図・断面図

B-2区
SX22
(SH03内)



SX22

- 1 SYRA/2 灰褐色 中粒砂混じりシルト 土上塊を含む。
10YR5/3にふい黄褐色ブロック土を含む。炭化物を微量。
細粗粒砂～中粒を少量、上面にマングンを少量含む。
- 2 T.SYRA/2 灰褐色 中粒砂～粗粒砂混じりシルト 10YR5/3にふい黄褐色ブロック土を少量。
細粗粒砂～中粒を少量、燒上塊を微量、マングンを微量含む。
- 3 T.SYRA/1 褐灰色 中粒砂～粗粒砂混じりシルト 土上塊を微量、
10YR5/3にふい黄褐色ブロック土微量、細粗粒砂～中粒を少量、土片含む。
- 4 T.SYRA/1 褐灰色 中粒砂～粗粒砂混じりシルト 10YR5/3にふい黄褐色ブロック土を少量。
細粗粒砂～中粒を微量含む。
- 5 10YR5/2 灰黃褐色 中粒砂混じりシルト 土上塊を微量。
10YR5/3にふい黄褐色ブロック土少量。細粗粒砂～中粒を微量。
マングンを微量含む。(SH03堆土)
- 6 SH03堆土 固版 6 d-d' 9と対応
- 7 SH03堆土 固版 6 d-d' 6と対応
- 8 SH03堆土 固版 6 d-d' 10と対応
- 9 SH03堆土 固版 6 d-d' 11と対応



SK18

(SH02内)

- 1 10YR5/2 黒褐色 細粒砂～粗粒砂混じりシルト 10YR5/3にふい黄褐色ブロック土を含む。
大塊1点含む。中粒砂を微量。細粗粒砂～中粒を微量含む。
- 2 T.SYRA/2 灰褐色 細粒砂～粗粒砂混じりシルト 10YR5/3にふい黄褐色ブロック土を微量。
細粗粒砂～中粒を微量含む。
- 3 10YR5/2 灰黃褐色 細粒砂～粗粒砂混じりシルト 7.SYRA/1褐色ブロック土を微量。
細粗粒砂～中粒を微量、10YR5/3にふい黄褐色ブロック土を微量含む。

SD21

(SH02内)

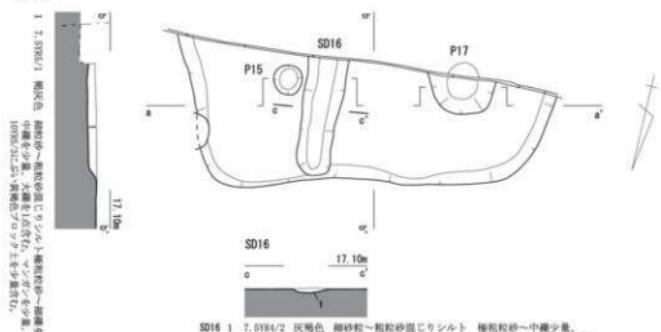
- 1 10YR4/2 灰黃褐色 中粒砂～粗粒砂混じりシルト 中粒を1点含む。細粗粒砂～中粒を微量。
燒上塊を微量。10YR5/3にふい黄褐色ブロック土を含む。
- 1 10YR4/2 灰黃褐色 中粒砂～粗粒砂混じりシルト 燃土塊を微量。
10YR5/3にふい黄褐色ブロック土を含む。細粗粒砂～中粒を微量含む。

B-2区(第1面) SX22(SH03内)・SK18・SD21(SH02内)平面図・断面図

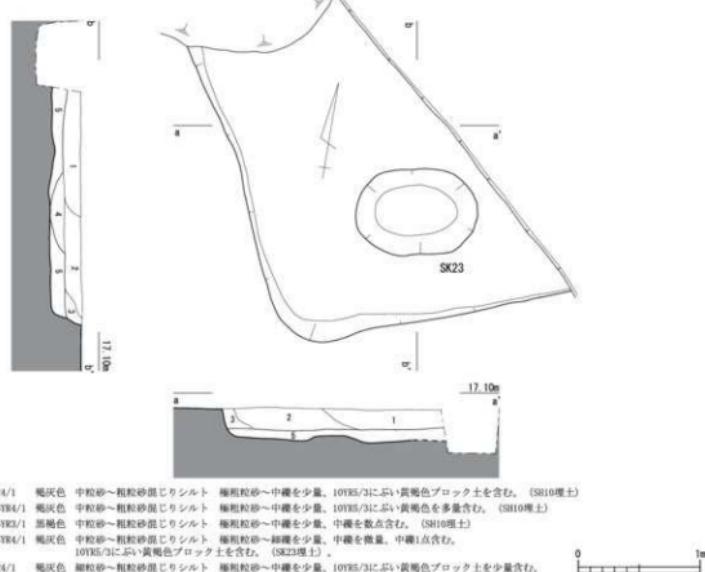
図版8

福田小川原遺跡

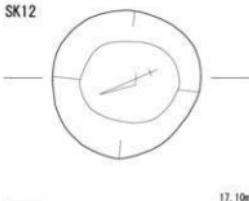
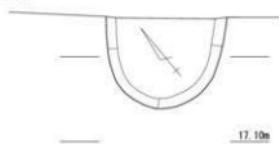
B-2区 SH09



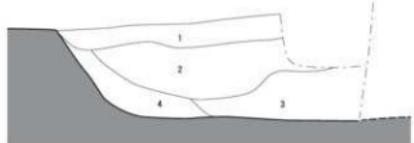
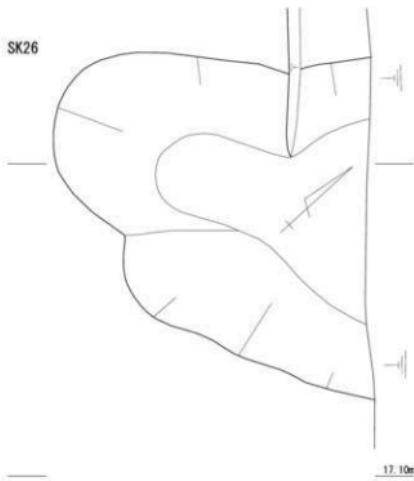
B-2区 SH10



B-2区(第1面) SH09・SH10 平面図・断面図

B-2 区
SP32

SK26



B-2 区（第 1 面） SP32・SK12・SK26 平面図・断面図

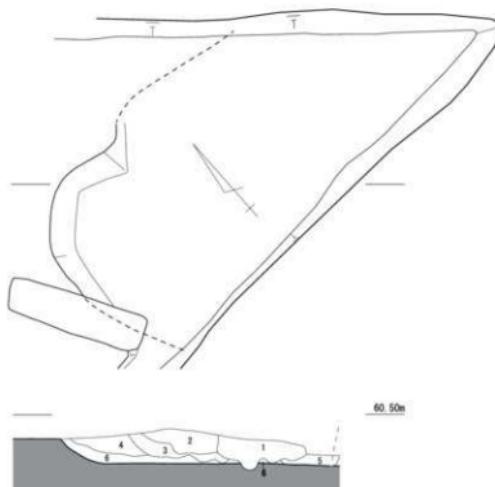
図版 10

福田小川原遺跡

B-2区

第1面

SX29



- 1 10YR4/2 灰黃褐色 粘・中粒砂混じりシルト 2. 5Y5/1黄灰色ブロック土を含む。極粗粒砂～中礫を微量含む。
- 2 7. 5Y5/2 灰褐色 粘・中粒砂混じりシルト 3. 5Y5/1黄灰色ブロック土を微量、極粗粒砂～中礫を少量含む。
- 3 7. 5YR4/2 灰褐色 中粒砂混じりシルト 2. 5Y5/1黄灰色ブロック土を少量、中礫を1点含む。極粗粒砂～中礫を少量含む。
- 4 7. 5YR4/1 褐灰色 中粒砂混じりシルト 10YR5/3 に近い黄褐色ブロック土を少量。中礫を少量、上部にマンガン粒子を少量含む。
- 5 10YR4/2 黄褐色 粘～粗粒砂混じりシルト 極粗粒砂～中礫を少量、中礫を極微量含む。
- 6 7. 5YR4/1 褐灰色 中粒砂混じりシルト 10YR5/3に近い黄褐色ブロック土を微量、極粗粒砂～中礫を微量含む。



B-2区(第1面) SX29 平面図・断面図



B-2区 第1面上層



B-2区 第2面上層



B-2区 第2面

B-2区 第1面上層・第2面上層・第2面 遺構配置図



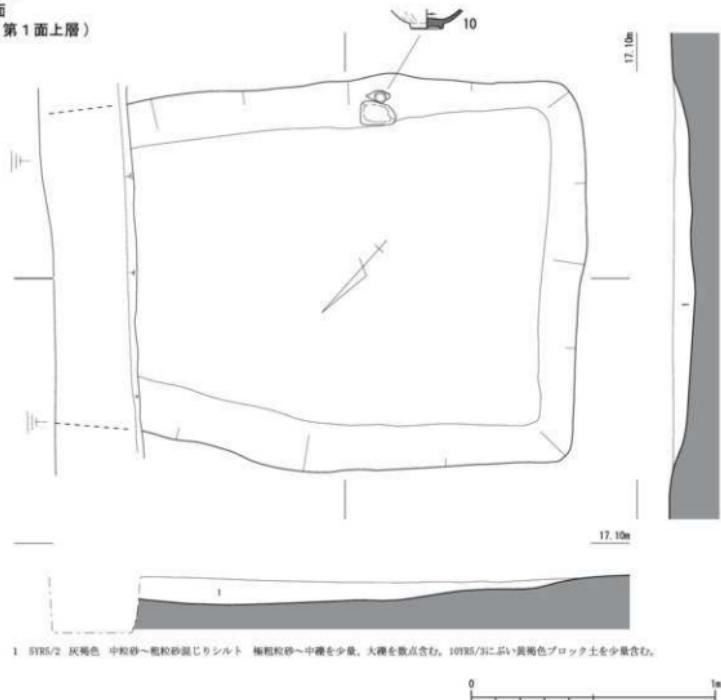
図版 12

福田小川原遺跡

B-2区

第1面

SX11(第1面上層)

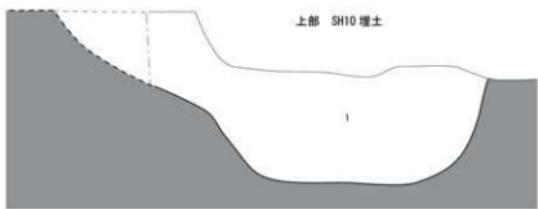
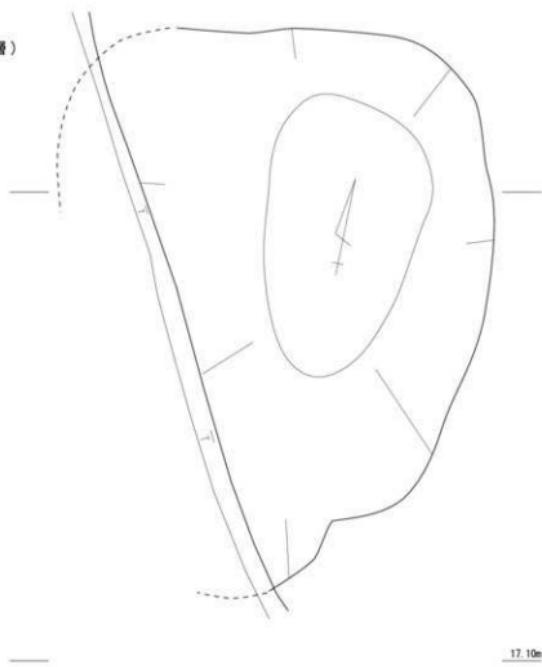


B-2区(第1面上層) SX11 平面図・断面図

B-2区

第2面

SK51(第2面上層)



1 SY84/1 橙灰色 中粒砂混じりシルト 極粗粒砂～中礫を含む。中礫を少量。10YR5/3に近い黄褐色ブロック土を微量含む。



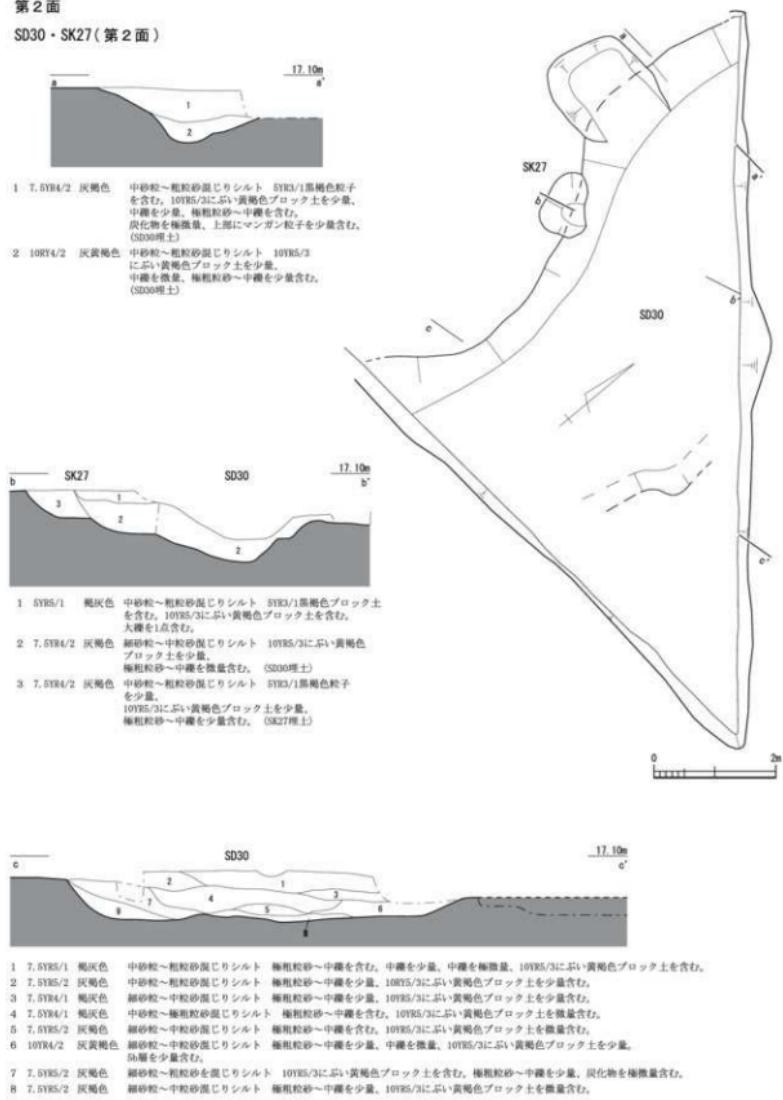
B-2区(第2面上層) SK51 平面図・断面図

図版 14

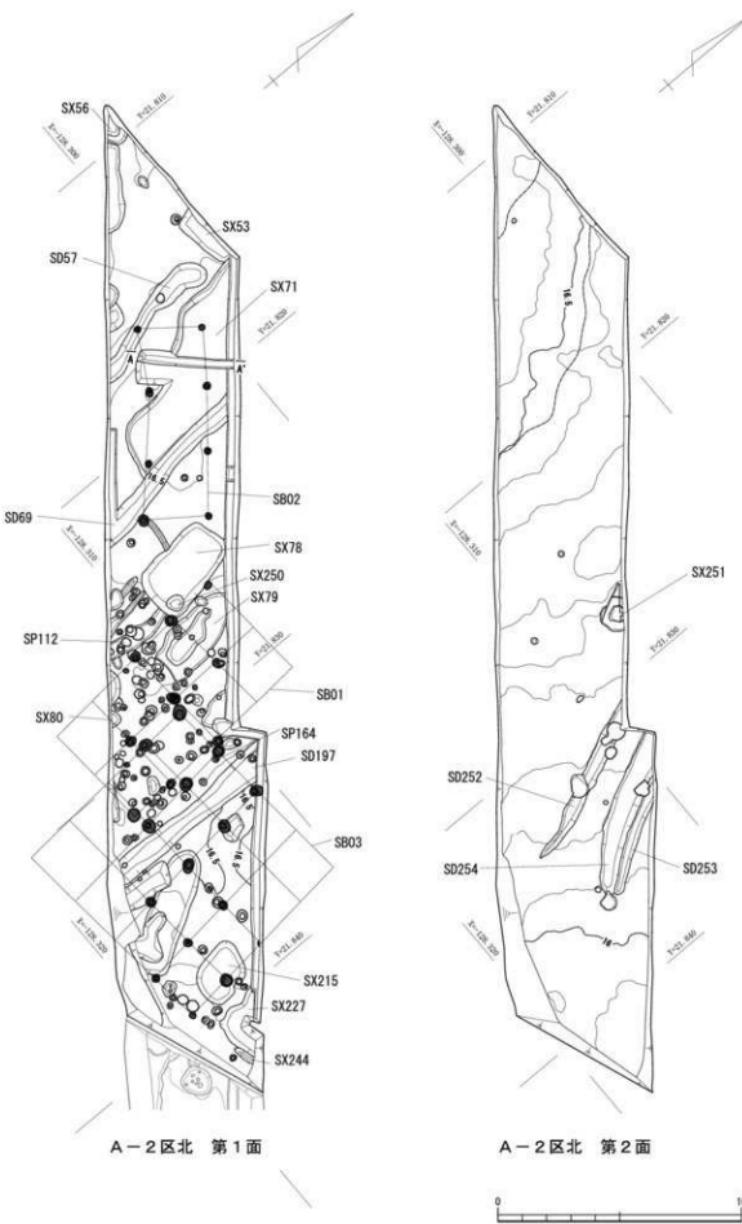
福田小川原遺跡

B-2区
第2面

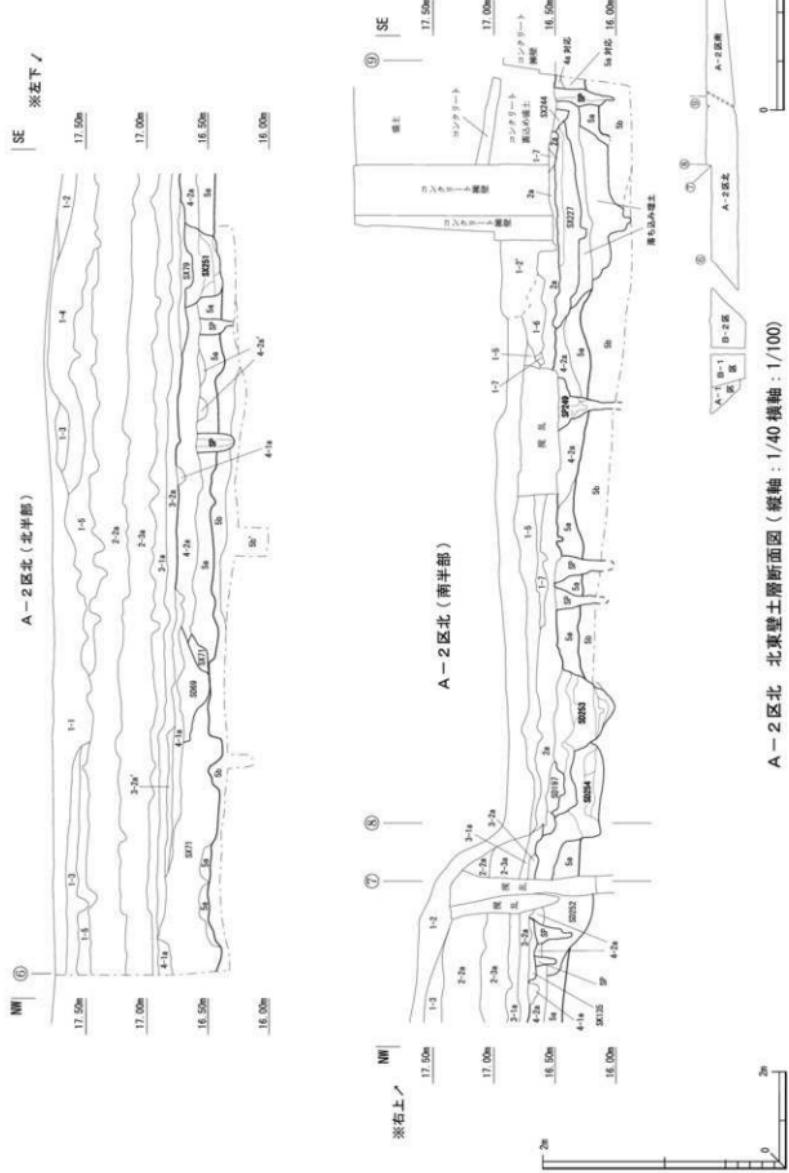
SD30・SK27(第2面)



B-2区(第2面) SK27・SD30 平面図・断面図



A-2 区北 第1面・第2面 遺構配置図



1 - 1	7.5YR 2/6(赤褐色) 砂岩(上部)、 N 4/0(灰色) 岩灰、 塗土(下部) <第 1 層>
1 - 2	黄・褐鐵色土・粉灰・第 1 層 >
1 - 3	2.5YR 4/8(褐色) 植物根跡・中等程度の赤褐色ジルト <第 1 層 塗土(下部)>
1 - 4	10YR 6/2(灰褐色) 植物根跡・中等程度の赤褐色ジルト 墓地附近の土壌を含む。 <第 1 層 塗土(下部)>
1 - 5	10YR 4/2(褐色) 植物根跡にリムト 植物根跡・中等程度の赤褐色ジルト 墓地附近の土壌を含む。 <第 1 層 塗土(下部)>
1 - 6	2.5YR 4/6(褐色) 植物根跡・中等程度の赤褐色ジルト 墓地附近の土壌を含む。 <第 1 層 塗土(下部)>
1 - 7	10YR 5/4(灰褐色) 植物根跡・中等程度の赤褐色ジルト 墓地附近の土壌を含む。 <第 1 層 塗土(下部)>
2 - 2 a	10YR 5/4(灰褐色) 植物根跡・中等程度の赤褐色ジルト 墓地附近の土壌を含む。 <第 2 - 2 a 層 土塙層 (塗土?) (植物根跡) >
2 - 3 a	10YR 5/4(灰褐色) 植物根跡・中等程度の赤褐色ジルト 墓地附近の土壌を含む。 <第 2 - 3 a 層 土塙層 (塗土?) (植物根跡) >
2 a	2.5YR 4/1(褐色) 植物根跡・中等程度の赤褐色ジルト 墓地附近の土壌を含む。 <第 2 a 層 土塙層 (塗土?) >
3 - 1 a	7.5YR 2/6(赤褐色) 植物根跡・中等程度の赤褐色ジルト 墓地附近の土壌を含む。 <第 3 - 1 a 層 土塙層 (塗土) >
3 - 2 a	SYR 6/1(灰褐色) 植物根跡・中等程度の赤褐色ジルト 墓地附近の土壌を含む。 <第 3 - 2 a 層 土塙層 (塗土含合土) >
3 - 2 a'	2. 5YR 1/1(灰褐色) 植物根跡・中等程度の赤褐色ジルト 墓地附近の土壌を含む。 <第 3 - 2 a' 層 土塙層 (塗土含合土) >
4 - 1 a	SYR 6/1(灰褐色) 植物根跡・中等程度の赤褐色ジルト 墓地附近の土壌を含む。 <第 4 - 1 a 層 土塙層 (塗土含合土) >
4 - 2 a	7. 5YR 6/1(褐色灰) 植物根跡・中等程度の赤褐色ジルト 墓地附近の土壌を含む。 <第 4 - 2 a 層 土塙層 >
4 a	7. 5YR 6/1(褐色灰) 植物根跡・中等程度の赤褐色ジルト 墓地附近の土壌を含む。 <第 4 a 層 土塙層 (4 - 2 a の下部) >
5 a	2. 5YR 4/1(褐色灰) 植物根跡・中等程度の赤褐色ジルト 墓地附近の土壌を含む。 全体的にやや褐色化。 <第 5 a 层 土塙層>
5 b	7. 5YR 2/6(赤褐色) 植物根跡・中等程度の赤褐色ジルト 墓地附近の土壌を含む。 <第 5 b 层 土塙層 (赤褐色) >
5 b'	SYR 2/6(褐色) シルト質に中等程度の赤褐色ジルト 墓地附近の土壌を含む。 <第 5 b' 层 土塙層 (赤褐色) >

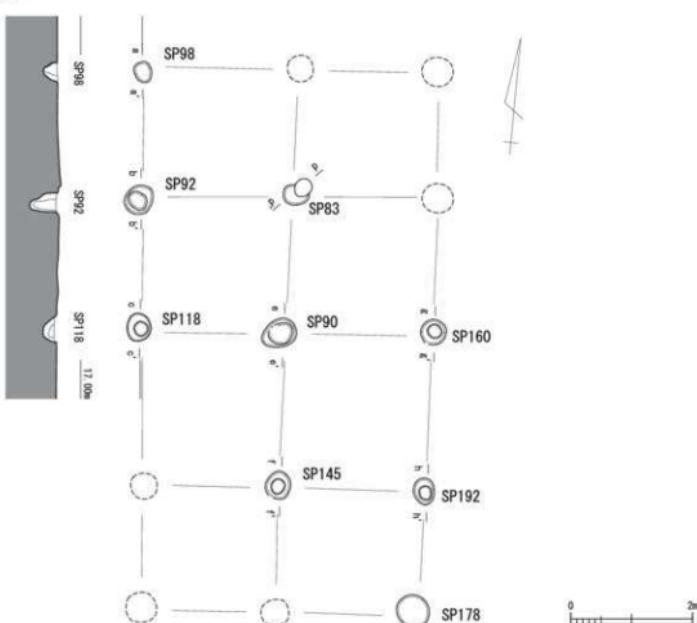
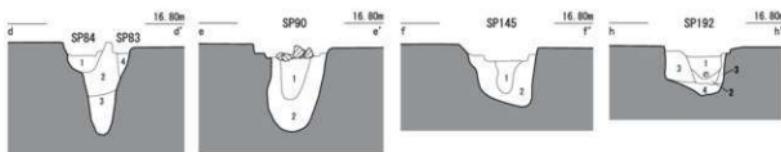
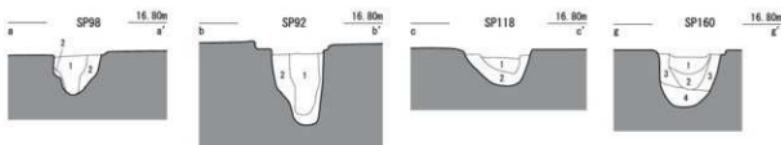
A - 2 区北 北東壁土層断面図 土層名

図版 18

福田小川原遺跡

A - 2 区北

SB01

A - 2 区北（第 1 面） SB01(1) 平面図・柱穴断面図

SP98

- 1 2.5Y6/4 オリーブ褐色 小礫土器混じり 土器混じり細粒砂～中粒砂
 2 7.SY85/2 褐褐色 細粒砂混じりシルト マンガン含む。SY83/6暗赤褐色ブロック土を含む。SY83/3暗赤褐色ブロック土を含む。
 1のブロック土を含む。

SP92

- 1 2.5Y6/4 にほい黄色 土器混じり細粒砂～中粒砂
 2 5Y4/1 灰色 岩 土器混じり細粒砂～中粒砂

SP118

- 1 2.SY3/3 暗オリーブ褐色 土器混じり粘土質細粒砂～中粒砂
 2 10YR3/4 褐褐色 粘土質細粒砂～中粒砂

SP160

- 1 7.SY86/1 褐灰色 細粒砂混じりシルト マンガン含む。炭を少量。SY83/3暗赤褐色ブロック土を含む。小土塊片含む。
 2 7.SY85/1 褐灰色 細粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン含む。炭を少量。SY83/3暗赤褐色ブロック土を含む。
 10YR6/1褐色灰土ブロック土を含む。
 3 7.SY85/2 褐褐色 細粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン微量。SY83/3暗赤褐色ブロック土を含む。10YR6/1褐色土を含む。
 小土塊片含む。

- 4 7.SY85/2 褐褐色 細粒砂混じりシルト マンガン微量。SY83/3暗赤褐色ブロック土を含む。10YR6/1褐色土を含む。

SP83・SP94

- 1 7.SY86/2 褐褐色 細粒砂混じりシルト マンガン含む。10YR6/1褐色ブロック土を少量。SY83/3暗赤褐色ブロック土を含む。
 硫酸鉄粉～中纖毛を少量、中纖毛を微量含む。
 2 SY85/2 褐褐色 細粒砂混じりシルト マンガン含む。SY83/3暗赤褐色ブロック土を少量。SY83/3暗赤褐色ブロック土を含む。
 硫酸鉄粉～中纖毛を少量含む。
 3 SY85/1 褐灰色 細粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン微量。10YR6/1褐色土を少量含む。
 4 SY84/2 褐褐色 細粒砂混じりシルト マンガン含む。10YR6/1褐色土を少量含む。SY83/3暗赤褐色ブロック土を含む。
 硫酸鉄粉～中纖毛を少量、中纖毛を微量含む。

SP90

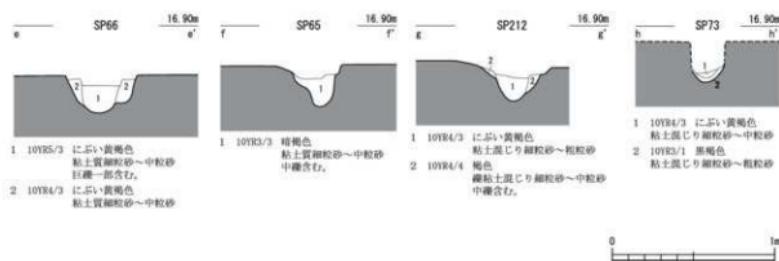
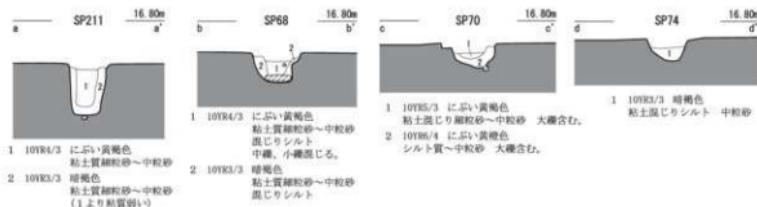
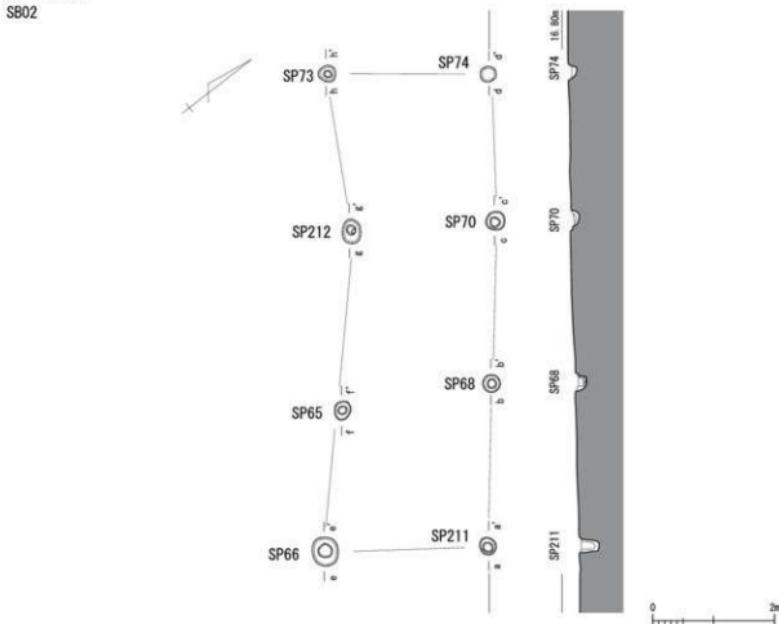
- 1 10YR4/2 反黄褐色 粘土質細粒砂～中粒砂
 2 10YR5/4 にほい黄褐色 粘土質細粒砂～中粒砂 中纖毛含む。

SP145

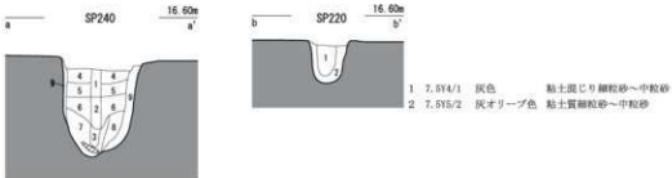
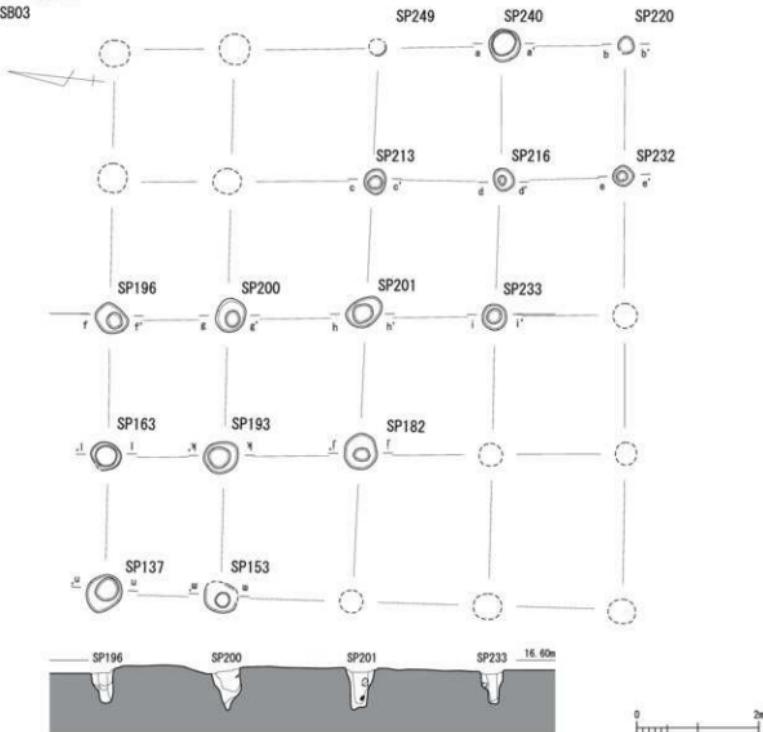
- 1 5Y4/1 灰色 粘土質細粒砂～中粒砂
 2 5Y5/2 反オリーブ色 粘土質細粒砂～中粒砂 黒分含む。

SP192

- 1 7.SY86/1 褐灰色 細粒砂混じりシルト マンガン少量。10YR6/1褐色土を含む。SY83/3暗赤褐色ブロック土を含む。
 硫酸鉄粉～中纖毛含む。半纖毛微量。
 2 7.SY86/2 褐褐色 細粒砂混じりシルト マンガン少量。10YR6/1褐色土を含む。SY83/3暗赤褐色ブロック土を含む。
 硫酸鉄粉～中纖毛の微量含む。
 3 7.SY85/2 褐褐色 細粒砂混じりシルト マンガン少量。10YR6/1褐色土を含む。SY83/3暗赤褐色ブロック土を含む。
 硫酸鉄粉～中纖毛の微量含む。
 4 7.SY85/1 褐灰色 硫酸鉄粉～細粒砂混じりシルト マンガン含む。10YR6/1褐色土を含む。SY83/3暗赤褐色ブロック土を含む。

A-2 区北
SB02

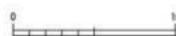
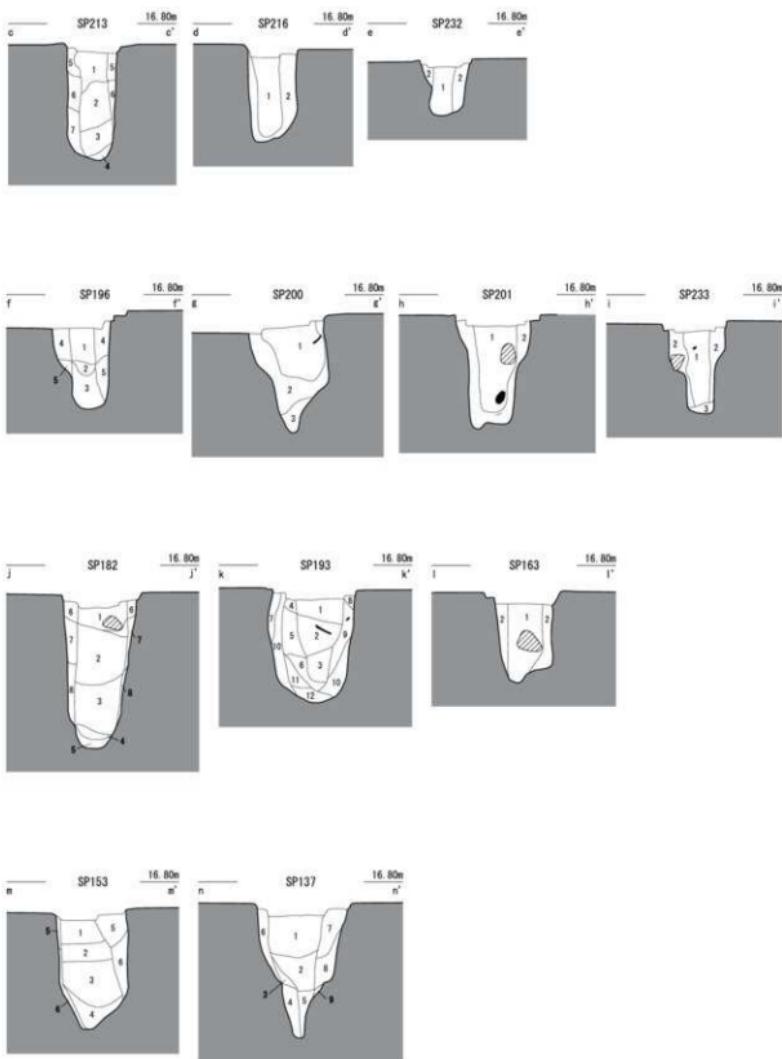
A-2 区北（第 1 面） SB02 平面図・柱穴断面図

A-2 区北
SB03

1. 7. SY4/1 細灰色 植物粒砂～細粒砂混じりシルト マンガン少量。SYR3/3暗赤褐色ブロック土を少量含む。10YR6/1褐色ブロック土を含む。
2. 10YR6/1 細灰色 植物粒砂～細粒砂混じりシルト マンガン少量。SYR3/3暗赤褐色ブロック土を少量含む。グライ化しているブロック土を含む。
3. 7. SY5/1 細灰色 植物粒砂～細粒砂混じりシルト SYR3/3暗赤褐色ブロック土を少量含む。
4. 7. SY4/1 細灰色 植物粒砂～細粒砂混じりシルト マンガン少量。SYR3/3暗赤褐色ブロック土を含む。10YR6/6褐色ブロック土を含む。10YR6/1褐色ブロック土を少量含む。炭を微量。
5. 7. SY4/1 細灰色 植物粒砂～細粒砂混じりシルト マンガン含む。SYR3/3暗赤褐色ブロック土を含む。10YR6/6褐色ブロック土を含む。植粗粒砂～中粗粒砂。
6. 7. SY5/1 細灰色 植物粒砂混じりシルト SYR3/3暗赤褐色ブロック土を少量含む。10YR6/6褐色ブロック土を少量含む。
7. 10YR5/1 細灰色 植物粒砂混じりシルト 10YR5/6褐色ブロック土を少量含む。磯板含む。
8. 7. SY5/1 細灰色 植物粒砂混じりシルト 10YR5/6褐色ブロック土を含む。マンガン少量。炭を微量。SYR3/3暗赤褐色ブロック土を含む。
9. 7. SY4/1 細灰色 植物粒砂～細粒砂混じりシルト マンガン少量。SYR3/3暗赤褐色ブロック土を含む。極粗粒砂～細粒砂を微量含む。



A-2 区北（第 1 面） SB03(1) 平面図・柱穴断面図

A-2 区北
SB03

A-2 区北（第 1 面） SB03(2) 柱穴断面図

A-2 区北

SP213

1. SYR5/1 梅灰色 細粒砂混じりシルト マンガン含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。梅粒砂～中礫を少量。中礫を含む。
2. SYR4/1 梅灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン少量。10YR5/6黄褐色ブロック土を含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を少量。梅粒砂～中礫を微量含む。
3. SYR4/2 梅灰色 梅粒砂混じりシルト マンガン微量。10YR5/6黄褐色ブロック土を含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を少量含む。
4. T.SYR4/2 灰褐色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト SYR3/暗赤褐色を少量含む。
5. T.SYR6/1 灰褐色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン含む。10YR6/1褐色灰土を含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。
6. T.SYR5/2 灰褐色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン微量。10YR6/1褐色灰土を含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。
7. T.SYR4/1 梅灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト SYR3/暗赤褐色ブロック土を少量含む。

SP216

1. 2. SYR5/1 黄褐色のブロック土に2. SYR4/4にぶい黄色、粘土混じり細粒砂～中粒砂 しまり悪い。
2. SYR4/4 にぶい黄色 粘土混じり細粒砂～中粒砂

SP223

1. SYR5/3 にぶい黄色 土器底じり粘土質シルト～中粒砂 (下方にシルト多い)
2. 10Y5/1灰色のブロック底に2. SYR3/黄褐色

SP196

1. SYR4/4 にぶい黄色 粘土底じり細粒砂～中粒砂
2. 10Y5/1 灰褐色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン含む。
3. T.SYR5/1 梅灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン、炭を微量含む。
4. T.SYR5/1 梅灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン含む。炭片含む。土器片含む。
5. T.SYR5/1 梅灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン微量。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。

SP200

1. SYR4/ オリーブ黄色 土器、炭底じり粘土質細粒砂～中粒砂
2. SYR3/1 オリーブ墨色 粘土・炭・土器シルト混じり細粒砂～中粒砂
3. T.SYR4/2 淡オリーブ色 粘土底じりシルト～中粒砂

SP201

1. 灰・土器・粘土墨じり細粒砂～中粒砂 一層中礫以上の隠合。しまり悪い。
2. 灰度じり 粘土質細粒砂～中粒砂 1よりしまり良い。

SP233

1. SYR5/1 灰色 従・土器底じり粘土質細粒砂～中粒砂 しまり良くない。
2. SYR4/ 灰色 従・土器シルト混じり細粒砂～中粒砂 1よりしまり良い。偽隠合。粘土混じり。細粒砂～中粒砂混じりシルト。2. SYR6/4にぶい黄色ブロック土を含む。

SP182

1. T.SYR5/1 梅灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。10YR6/1褐色灰土を含む。大礫塊1点含む。
2. T.SYR5/2 灰褐色 梅粒砂混じりシルト マンガン少量。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。10YR6/1褐色灰土を含む。梅粒砂～中礫少量含む。
3. T.SYR6/1 梅灰色 梅粒砂混じりシルト SYR3/暗赤褐色灰土を含む。
4. SYR4/1 灰褐色 梅粒砂混じりシルト SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。土塊を構成含む。
5. SYR6/1 梅灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。
6. T.SYR6/1 梅灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。10YR5/6黄褐色ブロック土を含む。
7. SYR6/2 灰褐色 梅粒砂混じりシルト マンガン含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。10YR6/6黄褐色ブロック土を含む。
8. SYR5/1 梅灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。

SP193

1. 10YR5/1 梅灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。10YR6/1褐色灰土を含む。小土器片含む。
2. 10YR5/2 灰黃褐色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン少量。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。10YR6/1褐色灰土を含む。中礫少量。土器片有り。
3. T.SYR5/1 梅灰色 細粒砂混じりシルト マンガン微量。SYR3/暗赤褐色ブロック土を少量。10YR6/1褐色灰土を含む。
4. T.SYR6/1 梅灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。10YR6/1褐色灰土を含む。
5. T.SYR5/1 梅灰色 梅粒砂混じりシルト マンガン含む。梅粒砂～中粒砂微量。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。10YR6/1褐色灰土を含む。
6. T.SYR5/1 梅灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン微量。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。10YR6/1褐色灰土を含む。
7. 10YR6/2 灰黃褐色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。10YR6/1褐色灰土を含む。
8. T.SYR5/1 明赤褐色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。10YR6/1褐色灰土を含む。
9. T.SYR6/1 灰褐色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。10YR6/1褐色灰土を含む。
10. T.SYR5/1 梅灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン微量。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。10YR6/1褐色灰土を含む。
11. SYR5/2 灰褐色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。10YR6/1褐色灰土を含む。
12. T.SYR4/1 梅灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。

SP163

1. 2. SYT7/3 浅黄色 土器・灰・粘土底じり細粒砂～中粒砂
2. 2. SYT6/4 にぶい黄色 灰褐色～粘土質細粒砂～中粒砂

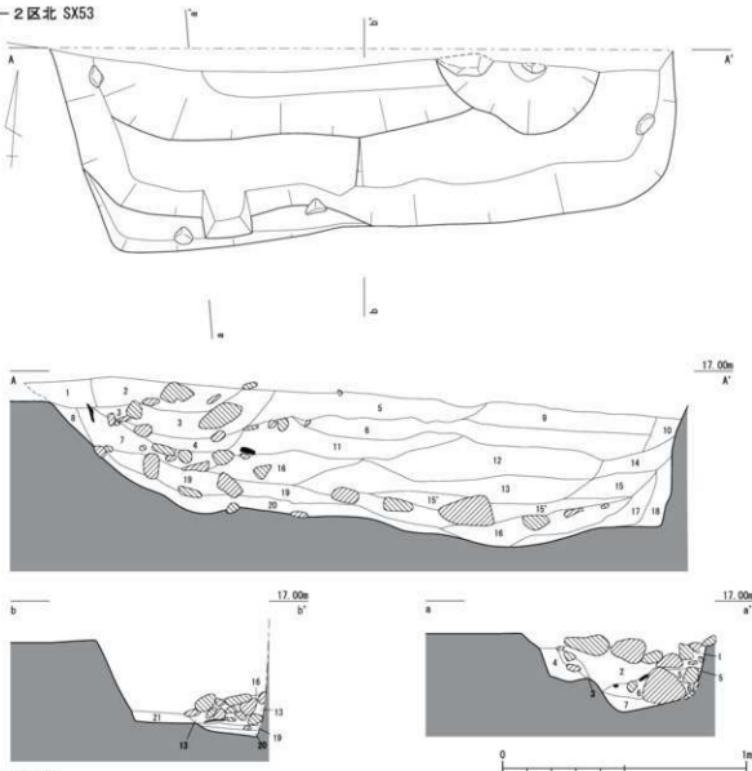
SP153

1. 10YR5/2 灰黃褐色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン少量。炭を少量。SYR3/暗赤褐色を含む。10YR6/1褐色灰土を含む。梅粒砂～中礫少量含む。
2. 10YR5/2 灰黃褐色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン微量。SYR3/暗赤褐色ブロック土を少量含む。10YR6/1褐色灰土を含む。
3. T.SYR5/1 地灰色 梅粒砂混じりシルト マンガン微量。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。
4. SYR6/1 梅灰色 梅粒砂混じりシルト マンガン含む。梅粒砂～中礫少量含む。
5. T.SYR6/1 地灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン含む。梅粒砂～中礫少量含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。
6. T.SYR5/1 地灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン微量。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。

SP137

1. 10YR5/1 梅灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト 炭を少量。梅粒砂～中礫微量。マンガン少量。10YR6/1褐色灰土を含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。
2. T.SYR5/1 梅灰色 梅粒砂混じりシルト マンガン微量。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。
3. T.SYR6/1 梅灰色 梅粒砂混じりシルト マンガン微量。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。
4. T.SYR5/1 梅灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。
5. T.SYR6/1 梅灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。7. SYR6/1明赤褐色ブロック土を少量含む。
6. T.SYR6/1 地灰色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。
7. 10YR6/2 灰黃褐色 梅粒砂～中粒砂混じりシルト マンガン微量。土器片含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。
8. T.SYR5/2 灰褐色 梅粒砂混じりシルト マンガン微量。SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。
9. T.SYR6/2 灰褐色 梅粒砂混じりシルト SYR3/暗赤褐色ブロック土を含む。

A-2 区北 SX53

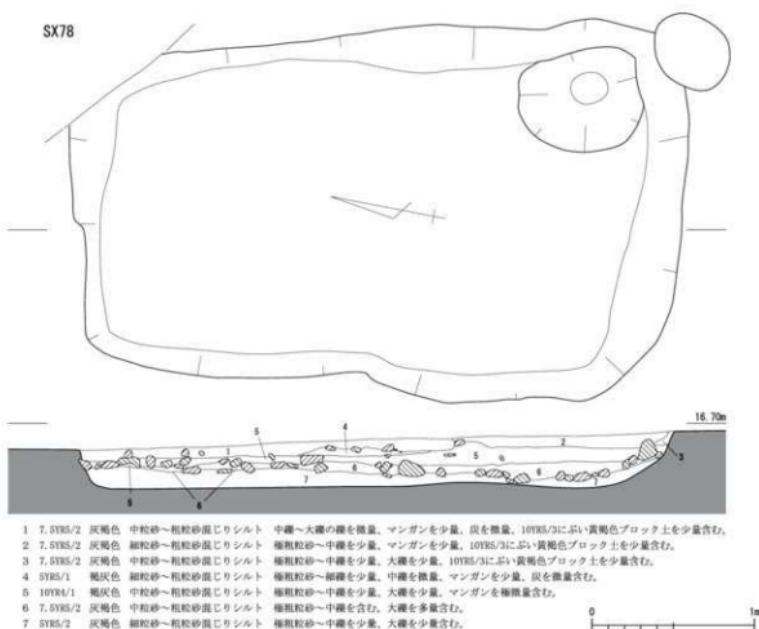
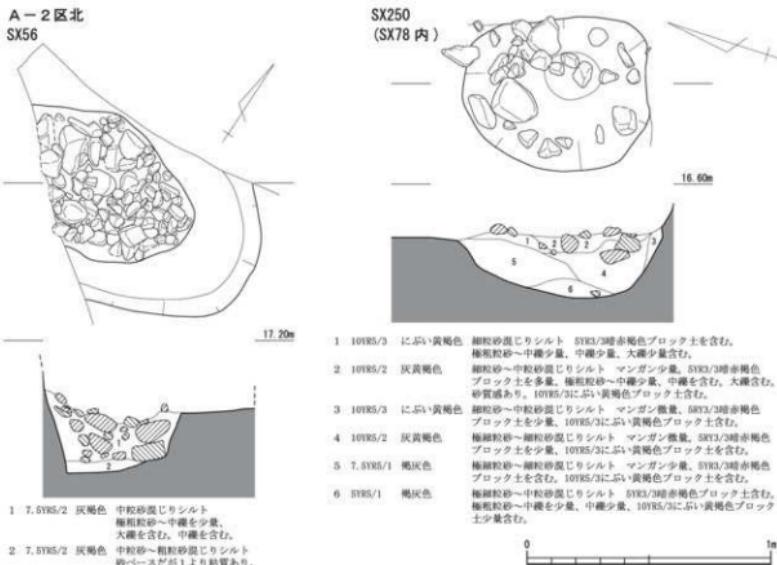


A-A'-b-b' 共通

1. SYR3/1 黒褐色 細粒砂～中粒砂混じりシルト 土器片・灰を少量。
細粒砂～中粒砂混じり 中纏を少量、中纏を少量含む。
2. SYR4/1 黒褐色
3. 10YR4/2 黄褐色
4. SYR5/2 灰褐色
5. 10YR5/2 黄褐色
6. 7. SYR6/1 黑褐色
7. SYR6/1 黑褐色
8. 7. SYR5/2 灰褐色
9. 7. SYR5/2 灰褐色
10. SYR5/2 灰褐色
11. SYR5/1 黑褐色
12. 7. SYR5/1 黑褐色
13. SYR5/1 黑褐色
14. SYR5/1 黑褐色
15. 7. SYR5/2 黄褐色
15'. SYR5/2 黄褐色
16. SYR5/1 黑褐色
17. SYR5/1 黑褐色
18. SYR5/1 黑褐色
19. SYR5/1 黑褐色
21. 7. SYR4/2 黑褐色

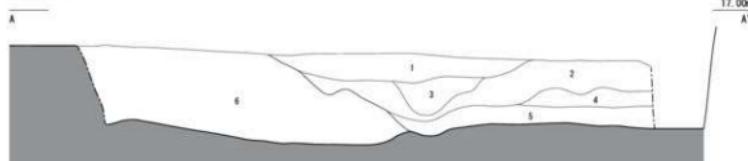
- 1-a' 断面
1 壁断面(A-B)と同じ
2 7. SYR5/2 灰褐色
3. 7. SYR4/2 黑褐色
4 SYR4/2 黄褐色 中粒砂混じりシルト
5 壁断面(A-B)と同じ
6 壁断面(A-B)と同じ
7 SYR5/1 黑褐色 粗粒砂～粗粒砂混じりシルト
7. SYR4/1 黑褐色ブロック土を含む。

A-2 区北(第1面) SX53 平面図・断面図



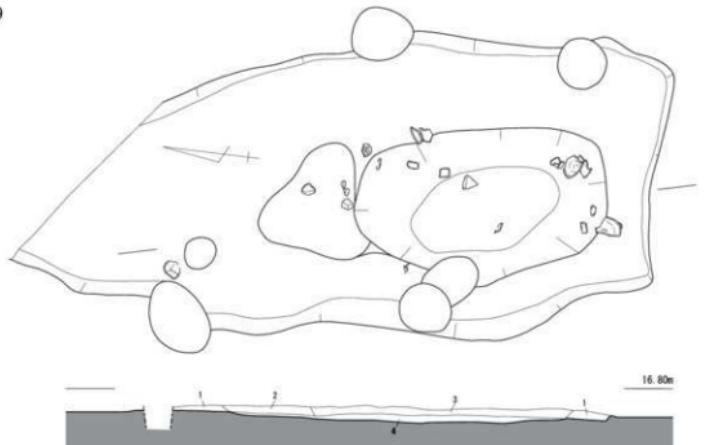
A-2 区北（第1面） SX56・SX78・SX250(SX78 内) 平面図・断面図

A-2区北 SX71



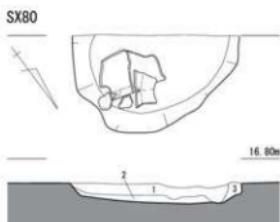
1. 2.SYRS/1 赤灰色 極細粒砂～粗粒砂混じりシルト 極粗粒砂～中纏多量、中纏含む。マンガン含む。SYRS/3暗赤褐色ブロック土を多量含む。
 2. SYRA/1 赤灰色 極細粒砂～細粒砂混じりシルト 中纏を少量、極粗粒砂～中纏少量、マンガン少量。SYRS/3暗赤褐色ブロック土を含む。
 3. SYRS/2 灰褐色 極細粒砂～細粒砂混じりシルト
 4. SYRS/1 灰褐色 極細粒砂～中纏砂混じりシルト
 5. SYRS/2 灰褐色 極細粒砂～細粒砂混じりシルト
 6. 10YSR/2 灰黃褐色 中粒砂～粗粒砂混じりシルト 極粗粒砂～中纏より多量。中纏含む。大纏を少量含む。〈ベース層含む〉

SX79



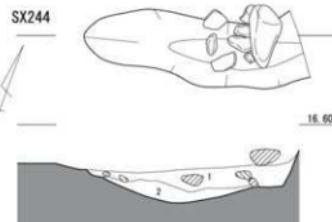
1. 10YSR/3 にぶい黄褐色 極細粒砂～中粒砂混じりシルト 中纏を少量、純土を少量。マンガン、酸化鉄を含む。
 2. 10YSR/3 にぶい黄褐色 極細粒砂～中粒砂混じりシルト 純土を含む。炭を少量、マンガン、酸化鉄を含む。
 3. 7.SYRS/2 灰褐色 極細粒砂～細粒砂混じりシルト 純土を含む。炭を微量、マンガン、酸化鉄を含む。
 4. SYRS/1 灰褐色 細粒砂混じりシルト 純土を少量。極粗粒砂～細粒砂を少量。炭を極微量含む。

SX80



1. 7.SYRS/1 灰灰色 極細粒砂混じりシルト、マンガン含む。
 10YSR/3にぶい黄褐色ブロック土を含む。
 極粗粒砂～中纏を少量。SYRS/3赤褐色ブロック土を少量含む。
 2. 10YSR/2 灰黃褐色 極細粒砂混じりシルト、マンガン含む。
 10YSR/3にぶい黄褐色ブロック土を含む。
 SYRS/3暗褐色ブロック土を少量含む。
 3. 10YRA/1 灰灰色 極細粒砂混じりシルト 10YSR/3にぶい黄褐色ブロック土を含む。
 SYRS/3暗赤褐色ブロック土を少量、マンガンを含む。

SX244

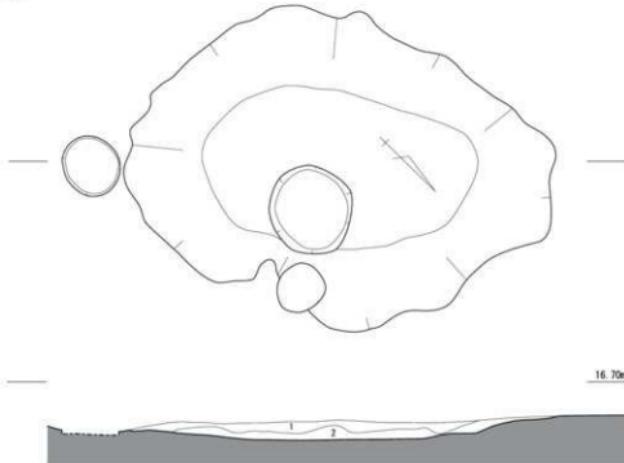


1. SYRA/1 灰灰色 極細粒砂～細粒砂混じりシルト、マンガンを含む。
 7.SYRS/6明褐色ブロック土を含む。
 中纏を少量、中纏～大纏を含む。(埋土)
 2. 7.SYRS/1 灰灰色 極細粒砂～細粒砂混じりシルト、マンガンを微量。
 7.SYRS/6明褐色ブロック土を少量、
 中纏を少量含む。(埋土)

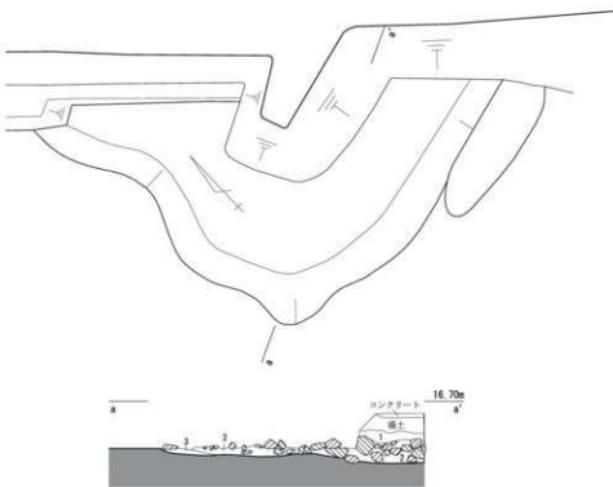
A-2区北（第1面） SX71・SX79・SX80・SX244 平面図・断面図

A-2 区北

SX215



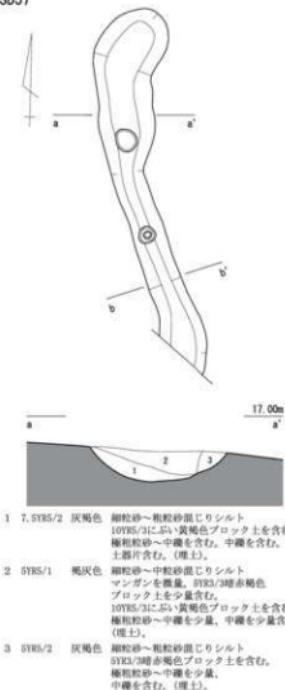
SX227



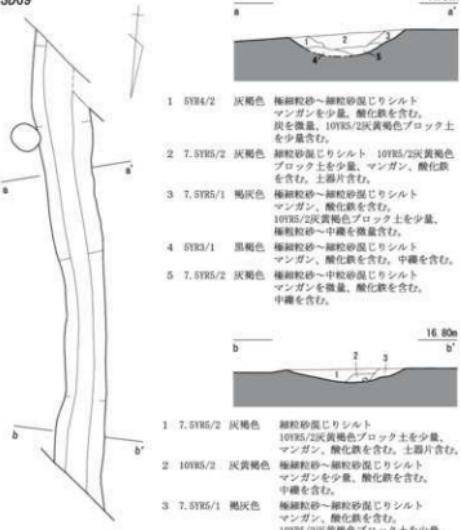
- 1 10YR4/1 暗灰色 中粒砂混じりシルト マンガンを少量、極粗粒砂～中礫を少量、7.5YR5/6明褐色・SYR3/3暗赤褐色ブロック土を含む。
2 SYR4/1 暗灰色 細粒砂混じりシルト マンガンを少量、中礫を含む。大礫を多量、大礫～巨礫を微量含む。
3 SYR5/1 暗灰色 細粒砂混じりシルト マンガンを含む。7.5YR5/6明褐色ブロック土を含む。土器片含む。 大礫を1点含む。(埋土)。



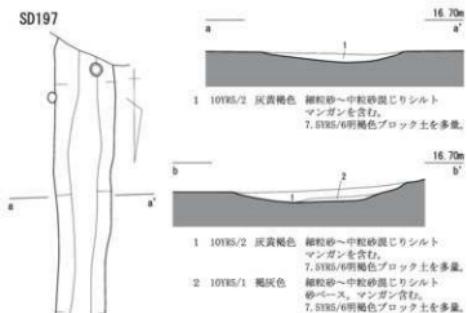
A-2 区北（第1面） SX215・SX227 平面図・断面図

A-2 区北
SD57

SD69



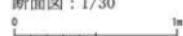
SD197



平面図 : 1/80



断面図 : 1/30

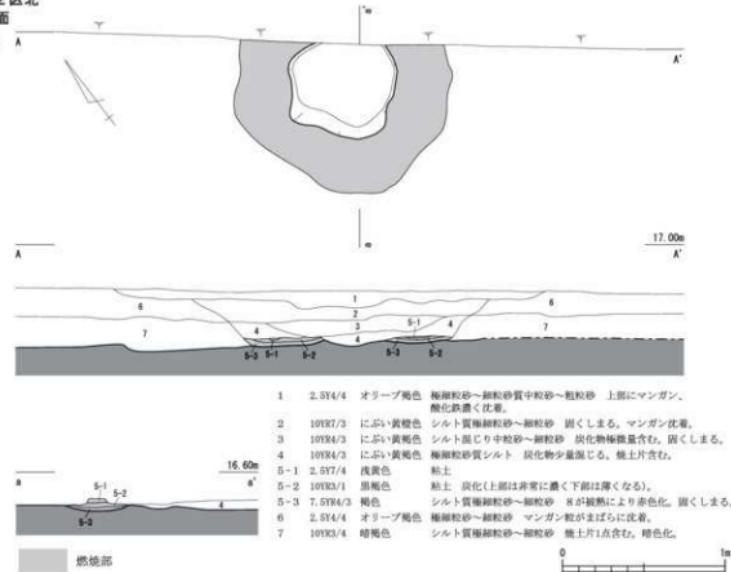


A-2 区北（第 1 面） SD57・SD69・SD197 平面図・断面図

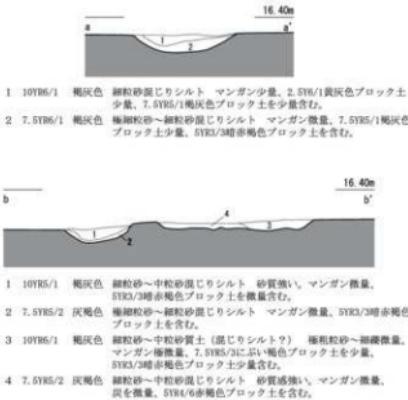
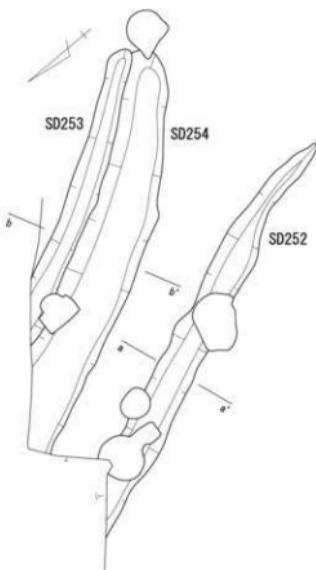
A-2 区北

第2面

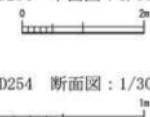
SX251



SD252・SD253・SD254

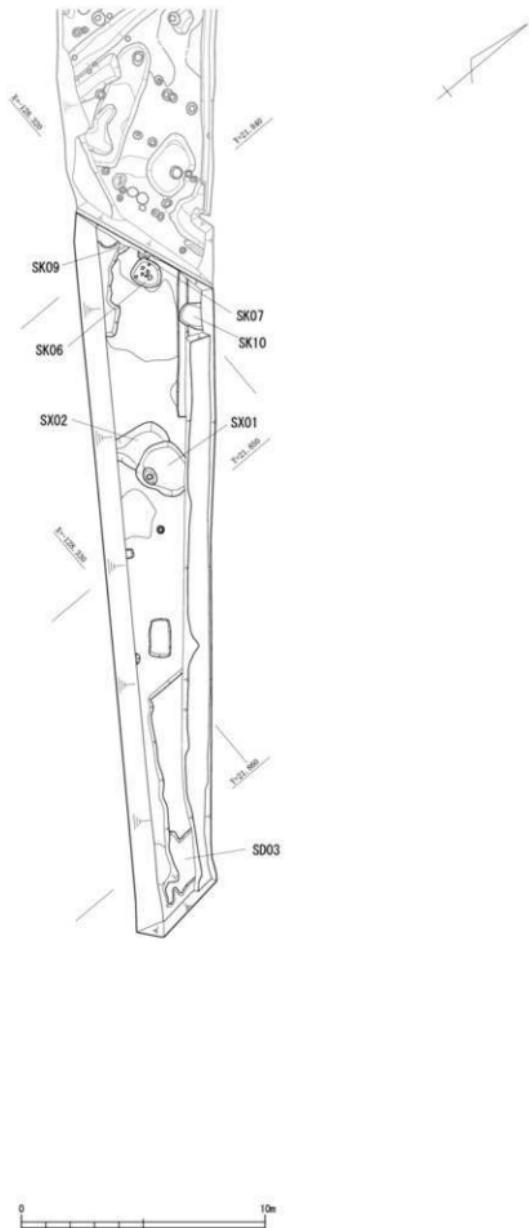


SD252_SD253_SD254 平面図 : 1/80

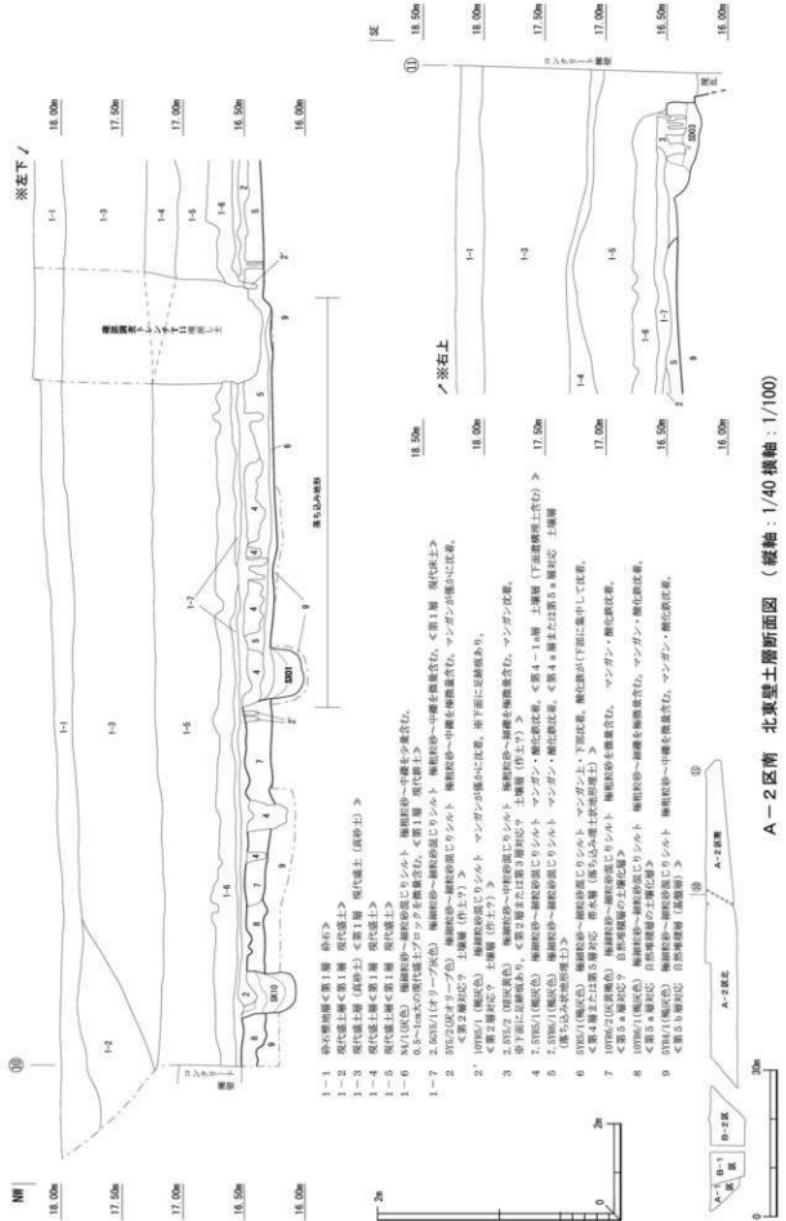


A-2 区北 (第2面) SX251・SD252・SD253・SD254 平面図・断面図

図版 30
樋ノ上遺跡



A-2 区南 遺構配置図



A-2区南

SK06



SK07

16.60m



1. 10YR5/1 極灰色
極細粒砂～粗粒砂混じりシルト マンガン含む。ばそばそしている。
炭化鉄(10YR5/6)青褐色と5YR4/4にぶい赤褐色)を含む。
粗粒砂を微量含む。
2. 10YR5/2 淡黄褐色
極細粒砂～粗粒砂混じりシルト マンガンを少量。
炭化鉄(10YR5/6と5YR4/4にぶい赤褐色)を多量含む。

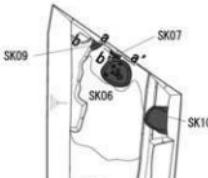
16.60m



1. 7.SYR4/2 灰褐色
細粒砂～粗粒砂混じりシルト マンガン含む。ばそばそしている。
(SK06の堆土といよりは時代の擾乱の下層か)
2. 7.SY5/1 灰色
極細粒砂～細粒砂混じりシルト 中礫を少量。大礫を少し。
マンガン、炭化鉄(5YR4/4にぶい赤褐色)を少量含む。
3. 7.SY4/1 灰色
極細粒砂～細粒砂混じりシルト 中礫を数点含む。マンガンを少量。
炭化鉄(5YR4/4にぶい赤褐色)を含む。炭化物を微量含む。
4. 10YR5/1 極灰色
極細粒砂～細粒砂混じりシルト マンガンを少し(上面に多い)
炭化鉄(5YR4/4にぶい赤褐色)を含む。

SK09

b



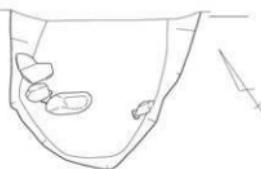
16.60m



1. 7.SYR5/1 極灰色
極細粒砂混じりシルト
SYR4/4にぶい赤褐色(炭化鉄?)ブロック土を少量。
炭化物を微量含む。
2. 10YR5/1 極灰色
極細粒砂～細粒砂混じりシルト
SYR4/4にぶい赤褐色(炭化鉄?)ブロック土を少量。
土器1点。大礫2点を含む。炭化物を微量含む。
3. 7.SYR6/1 極灰色
極細粒砂～細粒砂混じりシルト
SYR4/4にぶい赤褐色(炭化鉄?)ブロック土を微量。
粗粒砂～細粒砂を微量含む。
4. 7.SYR6/1 極灰色
細粒砂～中粒砂混じりシルト
SYR4/4にぶい赤褐色(炭化鉄?)ブロック土を含む。
粗粒砂～細粒砂を微量含む。

SK10

16.60m



1. 10YR5/1 灰色
極細粒砂混じりシルト マンガン少量。酸化鉄含む。
2. 10YR4/1 極灰色
極細粒砂～粗粒砂混じりシルト マンガンを含む。酸化鉄を多量含む。
10YR4/1灰色のブロック土を含む。
3. 7.SYR4/1 極灰色
極細粒砂～粗粒砂混じりシルト マンガン少量。酸化鉄含む。大礫1点。土器片1点を含む。
10YR5/1灰色のブロック土を少量含む。
4. 7.SYR5/1 極灰色
極細粒砂～粗粒砂混じりシルト マンガン微量。酸化鉄含む。中礫を1点含む。中礫数点含む。

SD03

c

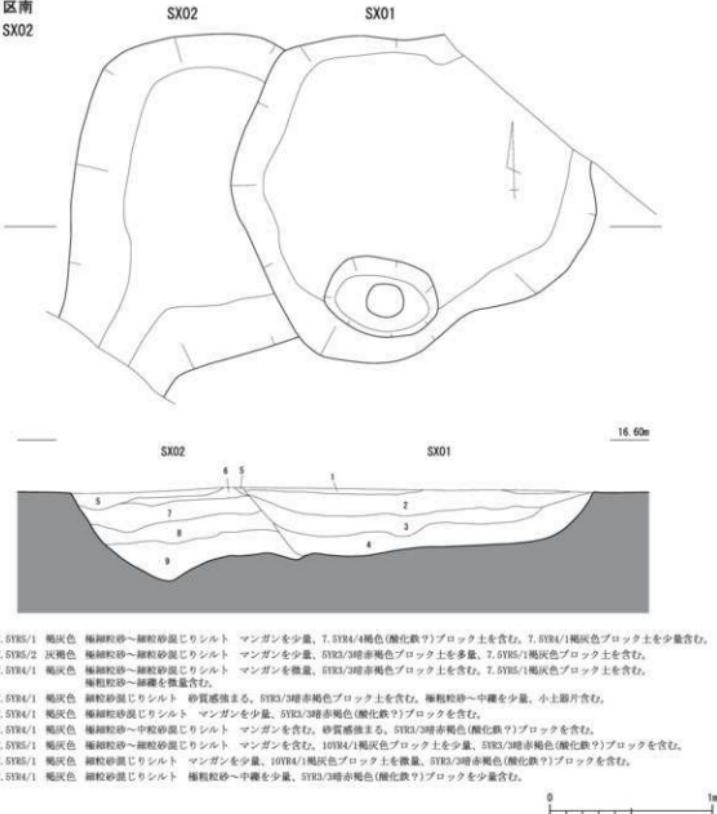
16.60m



1. 10YR5/1 極灰色
細粒砂～中粒砂混じりシルト マンガンを含む(特に上面に集中)。7.SYR4/3褐色ブロック土を含む。
10YR5/1にぶい黄褐色ブロック土を少量含む。
2. SYR5/1 極灰色
極細粒砂～粗粒砂混じりシルト マンガンを少量。7.SYR4/3褐色ブロック土を含む。
10YR5/1褐色ブロック土を含む(グライ化)。



A-2区南 SK06・SK07・SK09・SK10・SD03 平面図・断面図

A - 2 区南
SX01・SX02

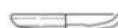
A - 2 区南 SX01・SX02 平面図・断面図

図版 34

福田小川原遺跡

A - 1・B - 1 区

SX01



1

1 : SX01 出土

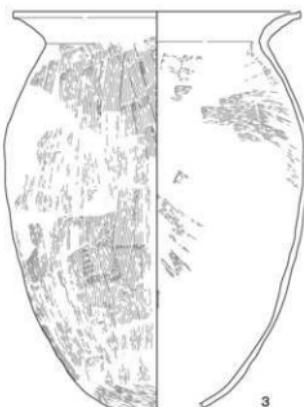
B - 2 区

SH02



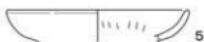
2

SH03



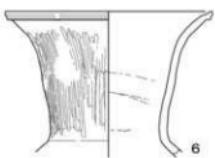
3

SH09



5

SH10



6

SP32



7

SX11



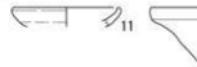
10

SK12



8

SX29



11



12

SK26



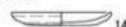
9

SX30



13

包含層



16

7 : SP32 出土、8 : SK12 出土、9 : SK26 出土、10 : SX11 出土

11・12 : SX29 出土、13 : SX30 出土、14～16 : 包含層出土



A - 2 区北

SB01



17

SB03



18



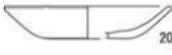
19

17 : SB01 出土 (17 : SP84 出土)

18 ~ 24 : SB03 出土

(18・19 : SP200 出土、20 : SP201 出土、

21 : SP153 出土、22 ~ 24 : SP193 出土)



20



21



22

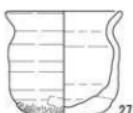


23

SD57

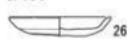


SP112



27

SP164

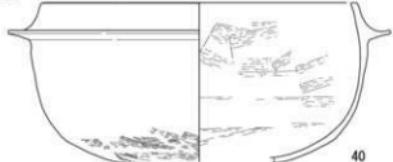


23



25 : SD57 出土、26 : SP164 出土、27 : SP112 出土

SX6



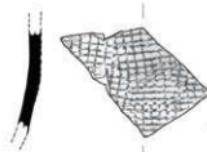
40



42

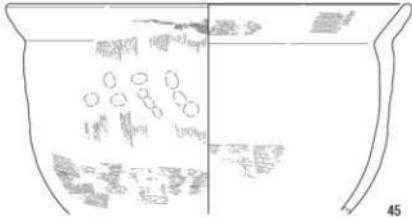


43



44

SX80



45



S 4

40・41 : SX6 出土

42~44・S 4 : SX80 出土

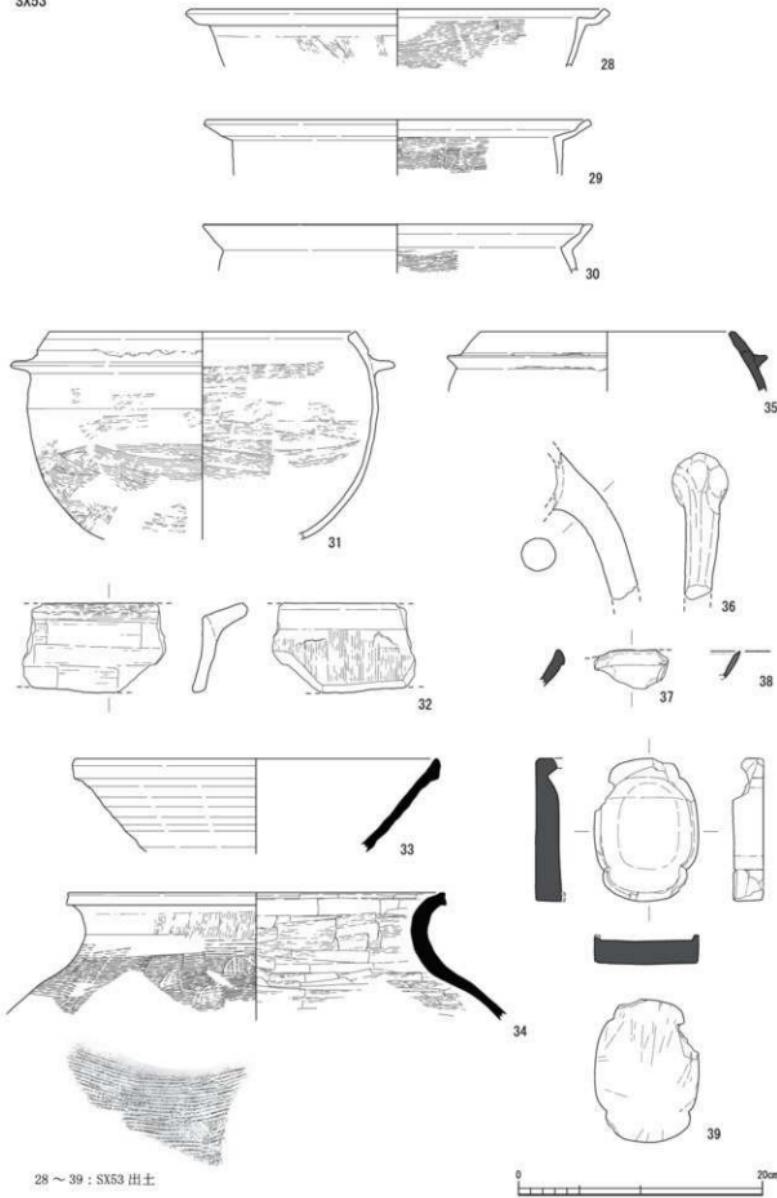
45 : SX80 出土



图版 36

福田小川原遗迹

A - 2 区北
SX53

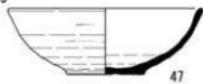


28 ~ 39 : SX53 出土

出土遺物 3

A - 2 区北

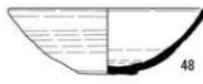
SX79



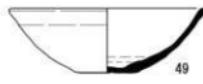
47



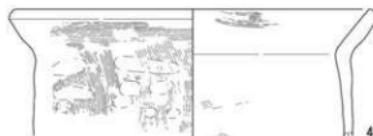
48



49



50

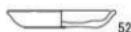


46



51

SX215



52



53



54

SX250



62

SX227



55



58



56



59



57



60

SX244



61

46 ~ 51 : SX79 出土

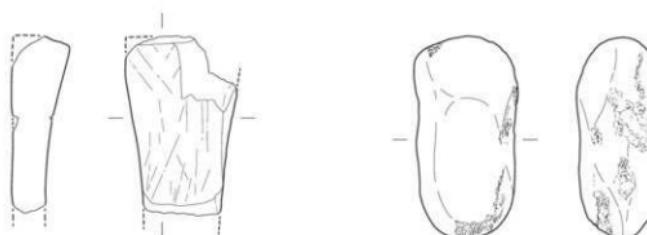
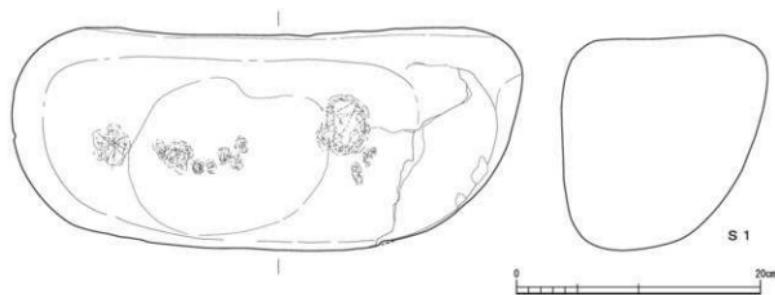
52 ~ 54 : SX215 出土

55 ~ 60 : SX227 出土

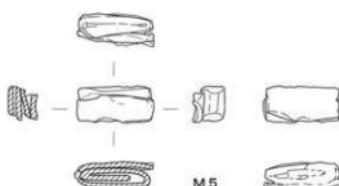
61 : SX244 出土

62 : SX250 出土





S 1～S 3 : SH02 出土



M 1 : SX01 出土

M 2 : 包含層出土

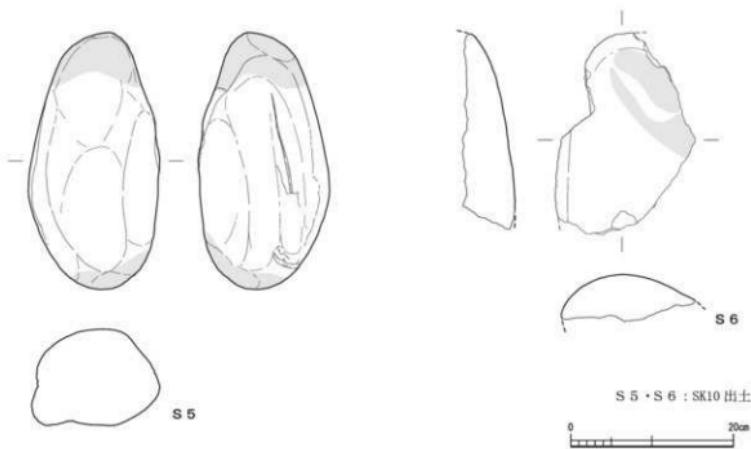
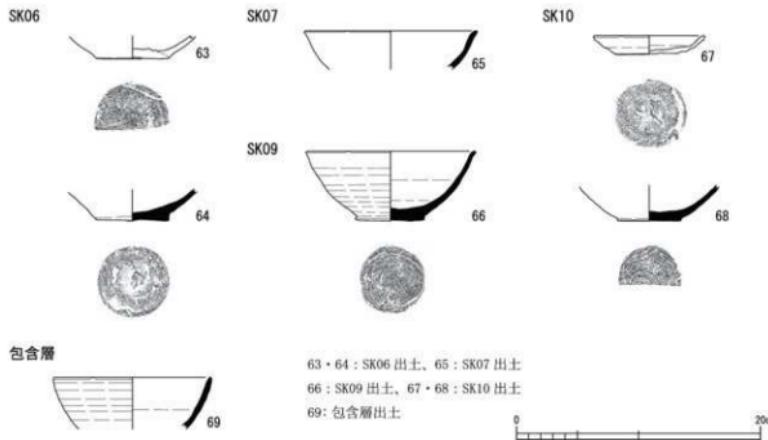
M 3 : SX53 出土

M 4 : SX78 出土

M 5 : SX227 出土

出土遺物 5

A - 2 区南



■ 被熱痕またはスス付着範囲

